

A d v a n c e C A D

リリース・ノート

Advance CAD software version 19

リリース・ノート

Advance CAD software version 19

2009年9月9日 第1版
2009年12月1日 第2版 (V19.01)
2015年11月17日 第3版 (V19.15)

Copyright © 1986-2015 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
〒141-8522 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー

本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。
本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。
本書は将来の開発による変更を前提としています。本書は現時点でできる限り正確に記述するよう心がけました。しかし弊社は提供した資料に基づくいかなる損害の責任も負いません。また将来の開発により生ずる変更によるいかなる損害についても責任を負いません。

Sun, Sun Microsystems, Sun Workstation, Solaris, SunOS, OpenWindows, NFS, IPC, IPX は、米国における米国 Sun Microsystems 社の商標または登録商標です。
SPARC は、米国における米国 SPARC International, Inc. の商標です。
UNIX は、米国 X/Open Company Ltd. が独占的な使用許諾を有する米国登録商標です。
MS, MS-DOS, Windows、Windows NT、Windows 2000、Windows XP、Visual C++ および Microsoft は Microsoft Corporation の商標または登録商標です。
SolidWorks および SolidWorks のロゴは SolidWorks 社の登録商標です。
FLEXnet Publisher および FLEXlm の著作権は以下のとおりです。
Copyright (c) 2008 Acreo Software Inc. and/or InstallShield Co.Inc. All Rights Reserved.
libtiff の著作権は以下のとおりです。
Copyright (c) 1988-1996 Sam Leffler
Copyright (c) 1991-1996 Silicon Graphics, Inc.
各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

第 1 章 動作環境	1
1.1 Solaris 版 (Sun Microsystems)	1
1.2 Windows 版 (Microsoft)	1
1.3 Linux 版 (Red Hat, Inc.)	2
1.4 ライセンスマネージャ	2
1.5 旧バージョンの修正版リリースについて	2
第 2 章 新機能	3
2.1 主な変更点	3
2.1.1 SXF	3
2.1.2 Linux 64bit プラットフォーム	3
2.1.3 Version19 で削除したツール	4
2.1.4 その他の変更	4
2.2 基本機能	6
2.2.1 JIS コードによる日本語入力	6
2.2.2 日本語入力で IIMF のサポート (Solaris 版、RHEL 版)	6
2.2.3 半角カタカナの表示	7
2.2.4 画面にフィットした初期ウインドの表示	7
2.2.5 ベースウインドをリサイズ時にウインドウ縦横比の保持 (Windows 版)	7
2.2.6 スペースキー入力による次候補アイテムの選択	8
2.2.7 次候補のメッセージを統一	9
2.3 汎用割込みコマンド	10
2.3.1 同時設計のペアレント名と選択メンバー名をマクロで抽出する	10
2.3.2 モデルファイルのバージョンを示すレジスタ	10
2.3.3 実行中のコマンド名を示すレジスタ	11
2.3.4 注記をベリファイしたときのレジスタ	12
2.3.5 複数ピクチャを一度に削除する	13
2.3.6 指定ビューポートを全体表示、拡大縮小表示	14
2.3.7 ビューポートにピクチャ番号を表示する	15
2.3.8 クラス一覧表でより多くのクラスを同時に表示する	16
2.3.9 結合アイテムの構成要素の属性を一括で変更する	16
2.3.10 属性の変更で元属性全部のときに選択マスクを参照する	17
2.3.11 部分線種・部分線幅をクリアする	17
2.3.12 修正コマンドで次候補アイテムを選択する	19
2.3.13 片側寸法を傾ける	20
2.3.14 非表示と表示のアイテムを入れ替える	20
2.3.15 スクリーンレイアウトを一覧図から選択する	21
2.3.16 ピクチャー一覧図を印刷する / 4 分割のスクリーンレイアウトを作る	22
2.3.17 図面配置ページに作図したアイテムを確認する	23
2.3.18 ベリファイ時に切出されたアイテムかどうかを表示	24
2.3.19 ベリファイ時にアイテム名で指示する	24
2.4 図形アイテム	26
2.4.1 角度分割線の作図位置	26
2.4.2 重複削除で一度に処理できるアイテム数を拡張	26
2.4.3 重複削除のデフォルトオプションを「全属性を比較する」に変更	27
2.4.4 中抜きトリム時にアイテムを分解する	28
2.4.5 陰線処理で中心線を消去しない	29
2.4.6 陰線処理の内側破線 (線幅継承) を 1 操作で指示する	29

2.5 製図アイテム	32
2.5.1 寸法値移動のデフォルトオプションを「寸法線上」に変更	32
2.5.2 寸法値の角度を変更する	32
2.5.3 公差変更で修正前の値を入力領域に表示	33
2.5.4 注記や寸法値に打消し線をいれる	34
2.5.5 注記に二重線の下線をいれる	35
2.5.6 製図一括修正の文字高さ倍率を記憶	36
2.5.7 製図一括修正：構文を変更しました	37
2.6 結合アイテム	38
2.6.1 シンボル・サブモデル配置のドラッグ	38
2.6.2 配置済みシンボルからシンボル配置情報を設定する	38
2.6.3 シンボルリストで現ピクチャのシンボル数を表示	39
2.6.4 モデル表示で<SP> や<BS> で前後のモデルを表示する	40
2.6.5 サブモデル配置で BLANK 要素を含めない	42
2.6.6 サブモデル更新でビューポートのクリックでピクチャを指定する	42
2.6.7 サブモデル更新情報表示で全候補を更新にする	43
2.6.8 サブモデル更新情報表示にモデル主タイトルを表示する	44
2.6.9 ピクチャ参照	44
2.7 アイテムの編集	48
2.7.1 移動コマンドでの移動量の表示	48
2.7.2 切出更新で移動後の位置へ更新して欲しい	48
2.7.3 X Y 縮尺値の入力方法を統一	49
2.7.4 コピーペーストでの配置に反転機能を追加	49
2.7.5 切出抽出で出力先ピクチャをビューポートを選択して指定する	50
2.8 図面配置と図面出力	51
2.8.1 インプレースエディット対象のピクチャを一覧図で切り替える	51
2.8.2 インプレースエディット中に配置ウインドウの枠を表示する	51
2.8.3 コピー出力にピクチャ番号を描画する	52
2.8.4 HPGL 出力での PS 命令を規格サイズにする	53
2.8.5 ap_HPGL : PS 命令の長さ・幅を JIS 規格サイズで表現する	54
2.9 その他の機能	55
2.9.1 ラスター背景を異なる縦横比で配置する	55
2.9.2 ラスター背景のディレクトリを変更する	56
2.9.3 ラスター背景を名前で削除する	58
2.10 定数の設定	60
2.10.1 モデルファイルの一覧表示に複数のモデルタイトルを表示する	60
2.10.2 モデルタイトルをモデル情報ファイルから取り出す	60
2.10.3 ピクチャ一覧図の画面分割数を指定する	61
2.10.4 文字高さを JIS Z8313 1998 年改定版に変更	62
2.10.5 寸法線スタブ長さの最小値	63
2.10.6 コマンド別のアイテム属性バンドルテーブルにサブモデルを追加	63
2.10.7 ピクチャ名の設定でピクチャ名の表示が重ならないようにする	65
2.10.8 ピクチャタイトルを一覧表で設定する	66
2.10.9 図面配置頁へのアイテム作成を禁止する	67
2.11 ユティリティ	68
2.11.1 SXF 変換 : Ver3.0, Ver3.1 に対応	68
2.11.2 SXF 変換 : SXF Ver3.0、Ver3.1 に対応および OCF 検定認証取得に当たっての機能追加・変更・削除	68
2.11.3 モデルファイルのダウンコンバート	94
2.11.4 モデル検索 : モデル情報変更時レジスターにモデル情報をセット	95
2.11.5 モデル検索 : モデル情報変更で非表示の項目も値が設定できるようにしてほしい	95
2.11.6 モデル検索 : モデル情報変更で変更内容をレジスタにセットしてほしい	95
2.11.7 モデル検索 : モデル情報変更で変更前の内容を履歴リストにセットしてほしい	95
2.11.8 共通データファイル	96
2.11.9 マクロのテンポラリーウインドでサブグラフィックウインドを利用する	96
2.11.10 マクロのテンポラリーウインドの縦横比率が初期状態と異なっている	97
2.11.11 マクロ実行中にピクチャの表示を抑止する	97

目次

2.11.12	モデル変更の有無を設定するマクロ関数	98
2.11.13	マクロの実行結果を1度のアンドウで元に戻す	99
2.11.14	アテンションキー入力を無効にする	100
2.12	システム管理者向けの機能	101
2.12.1	メニューとメッセージのフォントサイズ	101
2.12.2	ACAD.SET で環境変数を利用する	104
2.12.3	キャプションのクローズボタンの有効・無効 (Windows 版のみ)	104
2.12.4	ウインドウの最大化 (Windows 版のみ)	105
2.12.5	クラスとレビジョンの初期値を設定する	105
2.12.6	CTRL* キーにコマンドを割り付ける	106
2.13	オプションソフト	108
2.13.1	DXF 変換 : Auto CAD 2007 に対応	108
2.13.2	DXF 変換 : 変換パラメータファイル	108
2.13.3	塗潰しの出力方式設定を追加	109
2.13.4	自由曲線出力方式設定の追加	109
2.13.5	SolidWorks からの図形転送での配置原点 (Windows 版)	110
2.13.6	SolidWorks からの図形転送での中心マーク (Windows 版)	110
2.14	ユーザー・プログラミング・インターフェース	111
2.14.1	データ構造の変更	111
2.14.2	プログラミングの変更	111
2.15	TIFF 変換	118
2.15.1	TIFF 出力の線幅	118
2.15.2	TIFF 変換で塗りつぶしを出力する	122
2.16	モデルビューアー	123
2.16.1	ACADViewer (Java)	123
2.16.2	AcadAX (ActiveX)	123
第3章	不具合修正	125
3.1	基本機能	125
3.1.1	日本語入力時にキー入力に追従しない (Windows 版のみ)	125
3.1.2	日本語入力時で全角スペースが入力できない (Windows 版のみ)	125
3.1.3	メニュー戻して前の状態に戻らない	125
3.1.4	ファイルダイアログで異常終了する	125
3.1.5	ファイルダイアログで図面枠が選択できない	126
3.1.6	マルチモニターでのウインドウの最大化とリサイズ (Windows 版のみ)	126
3.2	汎用割込みコマンド	127
3.2.1	アクト全体で表示領域外の要素を抽出することがある	127
3.2.2	アクト自動の解除で選択アイテムが追加されてしまう	127
3.2.3	一覧図ダイアログの移動が遅い (Windows 版のみ)	127
3.2.4	クラス一覧図で指定ピクチャに実在しないクラスが表示される	128
3.2.5	アイテム属性一覧でレビジョン番号/名前が表示されない	128
3.2.6	塗りつぶしが表示されない	128
3.2.7	塗りつぶし形状が正しくない	128
3.2.8	直前のピクチャに戻らない	129
3.2.9	オンスクリーンメニューとメッセージ領域の表示が一致しない	129
3.2.10	ウインドウが削除できない	129
3.2.11	部分線種変更で選択したアイテムをキャンセルできない	129
3.2.12	表示が遅い	130
3.3	図形アイテム	131
3.3.1	ストリング連結点で異常終了する	131
3.3.2	クリッパー自動範囲で内側消去指定が有効にならない	131
3.3.3	陰線処理の内側破線で範囲線上の線の線種が正しくない	131
3.3.4	部分線種変更で交点での指定ができない	131
3.3.5	重複削除で非表示部分が表示に変わる	132

3.4 製図アイテム	133
3.4.1 ハッチングで境界タイプが混在できない	133
3.4.2 ハッチング作成時のラインモードの表示に誤りがある	133
3.4.3 角度寸法の外側寸法線が短くなる	133
3.4.4 製図一括修正で寸法値の反転が元に戻る	133
3.4.5 文字枠調整で注釈の下線が正しく調整されない	134
3.4.6 寸法線移動でラバーバンドが表示されない	134
3.4.7 寸法値移動で外側に付加された寸法線が元に戻らない	134
3.4.8 累進寸法の折り曲げが元に戻ってしまう	134
3.4.9 反転させた寸法値が元に戻ってしまう	135
3.4.10 ϕ 追加削除で寸法値の小数点以下の桁数が正しくない	135
3.4.11 公差削除で寸法値の後文字も削除される	135
3.4.12 下公差を削除したときに寸法値が寸法線にフィットしない	135
3.5 結合アイテム	137
3.5.1 シンボル配置で「反転」の表現が正しくない	137
3.5.2 シンボル配置で塗りつぶしパターンがべた塗りになる	137
3.5.3 シンボル表示ダイアログでシンボル名が表示されない	137
3.5.4 シンボル表示ダイアログで異常終了する	138
3.5.5 シンボル表示で指定したディレクトリ名が表示されない	138
3.5.6 サブモデル配置でドラッグされない	138
3.5.7 サブモデルとして配置できない	138
3.5.8 サブモデル更新でエラーメッセージが表示されない	139
3.5.9 サブモデル更新情報表示で異常終了する	139
3.5.10 サブモデル更新情報表示の修飾子メニューが元に戻らない	139
3.5.11 サブモデル内の線分がトリムできない	140
3.5.12 更新できないサブモデルが発生する	140
3.5.13 サブモデルリストコマンドで異常終了する	140
3.5.14 サブモデル読み込み時のみ不可視オブジェクト図形が読み込まれる	140
3.6 アイテムの編集	142
3.6.1 累進角度寸法の寸法値が正しく反転されない	142
3.6.2 ピクチャ移動でサブモデルの参照元ピクチャ番号が更新されない	142
3.6.3 切り出しで見えないシンボルが作成される	142
3.6.4 切出更新で誤ったピクチャに更新される	142
3.6.5 分割しておいた直線が接続される	143
3.7 モデルの保存	144
3.7.1 モデルの上書き保存ができない	144
3.7.2 モデルタイトルのモデル名が設定されない	144
3.7.3 モデル情報ファイル作成時に異常終了する	144
3.7.4 モデル呼出で異常終了する	144
3.7.5 モデル名がフルパスになってしまう	145
3.7.6 ステータス領域の表示が正しくない	145
3.7.7 作成したモデルが呼び出せない	145
3.7.8 モデル保存するとアイテムが空になる	145
3.7.9 リスタートで正しく復元しない	146
3.7.10 リスタートで陰線処理の結果が正しくない	146
3.7.11 モデル一覧でモデルタイトルが表示されない	147
3.7.12 アイソメグリッド情報が正しく読み込めない	147
3.7.13 ヘッダーブロックのデータ構造エラーになる	147
3.7.14 モデル読み込みで図形の一部が欠損する	147
3.8 図面配置と図面出力	149
3.8.1 図面印刷でプリンターの変更ができない (Windows 版のみ)	149
3.8.2 図面印刷で異常終了することがある (Windows 版のみ)	149
3.8.3 図面印刷で縮小印刷のときに線幅が縮小されない (Windows 版のみ)	149
3.8.4 コピー出力で異常終了する	149
3.8.5 可変記入項目定義の下線や文字枠が常に描画される	150
3.8.6 可変記入項目定義が図面枠の大きさに含まれる	150
3.8.7 マーク付き線種のマーク間隔が正しくない	150

目次

3.8.8 図面配置状態から作図に戻ると表示領域が正しくない	150
3.8.9 図面配置状態の表示位置が正しくない	151
3.8.10 図枠の外枠の線幅が細い	151
3.8.11 図面配置追加の一覧図でウィンドウ番号が数値で入力できない	151
3.8.12 マクロ TIFF-OUT で tiff ファイル名が文字化けする	152
3.8.13 図面枠情報が正しくない	152
3.9 その他の機能	153
3.9.1 アイソメ変換で選択したアイテムが解除されない	153
3.9.2 カーブ合成できない	153
3.9.3 作表で「既定の欄名」が付加されない	153
3.9.4 作表の小数点以下の0の除去が設定できない	153
3.9.5 ラスター背景の角度指定が正しくない	154
3.9.6 保存して終了のときに -m4 で指定したマクロが動作しない	154
3.9.7 バッチモードでのモデル呼び出しで異常終了する	154
3.9.8 コピー・ペーストで異常終了する	155
3.9.9 書体一覧ダイアログで書体番号が変更できない	155
3.9.10 文章呼び出しダイアログで行末に改行文字が入る	155
3.10 ユティリティ	156
3.10.1 SXF/WRITE : 変換でエラー発生	156
3.10.2 SXF/WRITE : エラー発生	156
3.10.3 SXF/WRITE : シンボルが変換されない	156
3.10.4 SXF/WRITE : エラー発生	156
3.10.5 SXF/WRITE : ハッチング枠の色の変換でエラーになる	157
3.10.6 SXF/WRITE : 漢字の作成者・組織名が文字化けして表示される	157
3.10.7 INFUPDATE : レジスターに情報が設定されない	157
3.10.8 MDLDISP : モデル一覧で最後のページが表示されない	157
3.10.9 FILESTATUS000 : 他のユーザが管理ファイルを使用中です	157
3.10.10 LIST/MDLDISP : サブモデル配置ですべてのピクチャが配置される	158
3.10.11 MDLINF : 異常終了する	158
3.10.12 mdldconv : マトリックスブロックのデータ構造エラー	159
3.10.13 mdldconv : ルートディレクトリのモデルを変換できない	159
3.10.14 mdldconv.cpp : 製図定数の一部が変換されない	159
3.10.15 mdldconv.cpp : モデルタイトルが正しく変換されない	159
3.10.16 mdldconv : 無効なモデルタイトル番号です	160
3.10.17 mdldconv : スクリーンレイアウトにピクチャ0ができる	160
3.10.18 mdldconv : 文字間隔、行間隔が小さくなる	160
3.10.19 mdldconv : シンボルのノードテキストが表示される	160
3.10.20 mdldconv : ピクチャマトリックス・ISOグリッドが変換されない	160
3.10.21 APG 配置のパラメータ設定で表示される図形の線種と線幅が正しくない	161
3.10.22 APG 形状の色が正しくない	161
3.10.23 パーツのサイズ変更で選択したアイテムが削除される	161
3.10.24 パーツのサイズ変更で一部の形状が表示されない	162
3.10.25 パーツに付けた部分線種が元に戻ってしまう	162
3.10.26 パーツに付けた部分線種が元に戻ってしまう	162
3.10.27 パーツサイズ変更でパーツアイテムの属性が変わる	162
3.10.28 同時設計のメンバー追加で最低アイテム数が変更できない	163
3.10.29 同時設計でメンバー変換できない	163
3.10.30 メッセージが途中で切捨てられる	163
3.10.31 マクロ関数 msym で表示されない要素がある	163
3.10.32 マクロ関数 シンボルの表示位置が正しくない	164
3.10.33 マクロ関数 テンポラリウインドウ領域が正しくない	164
3.11 システム管理者向けの機能	165
3.11.1 英数字ストロークフォントの文字幅が一致していない	165
3.11.2 マーク形状作成で共通データファイルが読み込めない	165
3.11.3 PIF 関数 gmsptcrv でアイテムが分割できない	165
3.12 オプションソフト	166
3.12.1 P&ID: コマンドを選択すると異常終了する	166

目次

3.12.2 P&ID: シンボルがハイライト表示されない.....	166
3.12.3 CADAMDB/WRITEx, CADAMDB/READx : 累進寸法線が正しく変換されない.....	166
3.12.4 CADAMDB/READX : グループ名が3 5 個しか表示されない.....	167
3.12.5 CADAMDB/READM : MCADAM の DOS ファイル読み込み時強制終了する.....	167
3.12.6 CADAMDB/READM : MCADAM 読み込み時に折れ線スプラインに不要な線が追加される 167	167
3.12.7 CADAMDB/READM : MCADAM 読み込み時にオフセットされた楕円が全円化する	167
3.12.8 CADAMDB/WRITEM : 複合アイテムをディットに変換を選択するとエラーになる	168
3.12.9 CADAMDB/WRITE X : グループ名が3 5 個しか表示されない.....	168
3.12.10 CADAMDB/ORIGIN : スケーリングが正しく調整されない.....	168
3.12.11 DWG/READ : 読み込みでエラーが発生する.....	169
3.12.12 DXF/READ : DXF 読み込みで ELLIPSE パラメータがエラーになる.....	169
3.12.13 DXF/WRITE : ルートディレクトリに書込もうとすると異常終了する.....	169
3.12.14 DXF/WRITE : 出力した DXF ファイルが Auto CAD 2007 で読み込めない.....	169
3.12.15 DXF/READ : 寸法線の文字間隔がおかしくなる.....	170
3.12.16 DXF/READ : スプラインでの円表示にゆがみが生じ中心点を作成できない.....	170
3.12.17 DXF/READ : サブモデル書込み時に最後の自由曲線がブロックに収まらない.....	170
3.12.18 DXF/READ : スプライン書込み時に制御点が多くなる.....	170
3.12.19 DXF/WRITE, DWG/WRITE : シンボルのブロック出力時に異常終了する.....	171
3.12.20 DXF/WRITE, DWG/WRITE : 塗潰しのブロック出力時、DXF 定義に誤りがある.	171
3.12.21 DXF/WRITE, DWG/WRITE : ハッチングの出力時、DXF が AutoCAD で開けない場合が ある.....	171
3.12.22 DXF/WRITE, DWG/WRITE : 直線状の自由曲線が制御点の多いポリラインになる	172
3.12.23 DXF/WRITE, DWG/WRITE : スtringを図形要素に展開すると、DXF が AutoCAD で 開けない.....	172
3.12.24 DXF/WRITE, DWG/WRITE : DXF(DWG) 書込み時にマークなしリファレンスノートの文 字が変換されない.....	172
3.12.25 DXF/WRITE, DWG/WRITE : ファイル名に [] が使えない.....	173
3.12.26 DXF/READ, DWG/READ : 一括変換時ファイル名の一覧が表示されなくなる.....	173
3.12.27 DXF/WRITE, DWG/WRITE : 図枠の倍率等が他のページのもので変換される.....	173
3.12.28 DXF/WRITE, DWG/WRITE : 色番号 256 を指定するとエラーになる.....	173
3.12.29 DXF/READ, DWG/READ : 一括変換でパスを指定すると変換できない.....	174
3.12.30 DWG/READ : φ の文字が ? になる.....	174
3.12.31 DWG/READ : 大半径寸法線が変換されない.....	174
3.12.32 DXF/READ : 文字間隔の設定が有効にならない.....	174
3.12.33 DXF/READ, DXF/WRITE : ファイルオープンでエラーが発生しました.....	174
3.12.34 SolidWorks へのスケッチ転送で精度落ち (Windows 版).....	175
3.12.35 Advance CAD への図形転送でアイテム落ち (Windows 版).....	175
3.12.36 Advance CAD への図形転送でスプラインの形状が不正 (Windows 版).....	175
3.12.37 ACADWorks 設定ツールでパス名が不正 (Windows 版).....	176
3.12.38 ワイヤ放電機能が正しく動作しない.....	176
3.12.39 干渉チェックでアイテムが選択できない.....	176
3.12.40 ワイヤ放電機能が正しく動作しない (ワイヤ放電機能).....	176

第 1 章 動作環境

1.1 Solaris 版 (Sun Microsystems)

- オペレーティングシステム
Solaris 10 SPARC プラットホーム版 以上
- 対応機種
上記オペレーティングシステムが動作する ワークステーションなど
例 .
Ultra 25 workstation, 45 workstation
Blade 150, 1500, 2500
- グラフィックアクセラレータ
上記オペレーティングシステムが対応するグラフィックアクセラレータ
例 .
PGX, PGX24, PGX32, PGX64, Creator, Creator3D, Elite3D, Expert3D,
XVR-100, XVR-500, XVR-1000, XVR-1200
- メモリ
256 MB 以上を推奨。
- コンパイラ (プログラミングインタフェースを使用する場合だけ必要)
Sun Studio 12 以上
- ビジュアルクラス
24 ビットカラー (True Color)
- 画面の解像度 (デスクトップ領域)
1024 x 768 ピクセル以上
- Advance CAD は 64bit アプリケーションソフトです。
32bit kernel 上では動作しません。
- Advance CAD Solaris 版最終バージョンは、Ver 19.10 になっております。

1.2 Windows 版 (Microsoft)

- オペレーティングシステム
Windows XP Professional + Service Pack 2 以上
- 対応機種
上記オペレーティングシステムの日本語版が動作する Pentium または Pentium 互換
CPU 搭載の IBM PC 互換機。(Itanium 搭載機は対象外です)
- メモリ
256 MB 以上を推奨。
- VRAM (グラフィックメモリー)
2 MB 以上
- 周辺機器
Network Interface Card (Ethernet ボード)
- コンパイラ (プログラミングインタフェースを使用する場合だけ必要)
Visual C++ 2008 日本語版 以上
- 画面の色
16 ビットカラー、32 ビットカラー (True Color)
- 画面の解像度 (デスクトップ領域)
1024 x 768 ピクセル以上
- Advance CAD は 32bit アプリケーションソフトです。
64bit OS 上でも互換モードで動作しますが、事前に十分な検証を行って、
ご使用ください。

1.3 Linux 版 (Red Hat, Inc.)

- オペレーティングシステム
Red Hat Enterprise Linux Version 4
- 対応機種
上記オペレーティングシステムの日本語版が動作する Pentium または Pentium 互換 CPU 搭載の IBM PC 互換機。(Itanium 搭載機は対象外です)
- メモリ
256 MB 以上を推奨。
- VRAM (グラフィックメモリー)
2 MB 以上
- 周辺機器
Network Interface Card (Ethernet ボード)。
- コンパイラ (プログラミングインタフェースを使用する場合だけ必要)
g++(gcc 3.4.3) 以上
- ビジュアルクラス
24 ビットカラー (True Color)
- 画面の解像度 (デスクトップ領域)
1024 x 768 ピクセル以上
- Advance CAD は 32bit アプリケーションソフトです。
64bit OS 上でも互換モードで動作しますが、事前に十分な検証を行って、ご使用ください。
- Advance CAD Linux 版最終バージョンは、Ver 19.10 になっております。

1.4 ライセンスマネージャ

FLEXnet Publisher Licensing Toolkit V11.4.1 以降を使用しています。

1.5 旧バージョンの修正版リリースについて

Advance CAD Version 18 は Version 19.00 リリースより 6 ヶ月後まで不具合修正を行い、修正版をリリースいたします。それ以降は Version 18 の修正は原則行いませんことをご了承ください。

第2章 新機能

2.1 主な変更点

2.1.1 SXF

Advance CAD V19 の SXF データ交換機能は OCF 検定 (CC1) の認証 (11309420148) を取得しました。
次に SXF、OCF について説明します。

● SXF

平成 13 年度 (2001 年度) から国土交通省直轄工事の一部で図面の電子納品が開始され、図面は CAD データで納品することが義務付けられました。そのため、さまざまな CAD ソフトウェア間で正確なデータ交換ができる、共通ルールを定める必要がありました。この作業は「CAD データ交換標準開発コンソーシアム Standard CAD data Exchange format in japanese Construction (SCADEC)」によって行われました。コンソーシアムは 2000 年 8 月には当初目標を達成し、その成果は JACIC が主催する建設情報標準委員会の CAD データ交換標準小委員会に引き継がれています。

平成 14 年 7 月国土交通省「CAD 製図基準 (案)」で「CAD データ交換フォーマットは原則として SXF(P21) とする」と明記されました。続いて、平成 14 年 11 月改訂の官庁営繕事業の「建築 CAD 図面作成要領 (案)」、港湾事業の「CAD 図面作成要領 (案)」、農林水産省「電子図面データの作成要領 (案)」などが SXF を採用しました。

平成 15 年 7 月「CAD 製図基準 (案) 電気通信設備編」が公表され、SXF が土木・建築分野だけでなく電気・機械分野にも適用されることが明らかとなりました。

SXF は国際標準 ISO10303-202(STEP/AP202) に則った 2 次元 CAD データ交換フォーマットです。コンソーシアムの英語略称 SCADEC にちなんだ名称 Scadec eXchange Format の略称です。

CAD データ交換の開発レベルとして下記の 4 レベルがあります。

レベル 1 : 紙面 (紙) 上で、図面表示が正確に再現できること。

レベル 2 : 2 次元 CAD 製図データの要求を満たし、再利用時における使い勝手が確保されること。

レベル 3 : レベル 4 のオブジェクトを可視表現するための仕様。

レベル 4 : GIS・統合 DB 等との連携、自動数量拾いなど、CAD と関連ソフト間のデータ交換の基盤。

CAD データの電子納品時にはレベル 2 の仕様を満たさなければなりません。

● OCF 検定 (OCF:Open CAD Format)

OCF 検定とは CAD ソフトウェアの SXF 仕様への準拠性を検定しユーザに判断材料を提供するものです。

OCF は CAD ベンダの団体です。(URL <http://www.ocf.or.jp>)

2.1.2 Linux 64bit プラットフォーム

● 32bit アプリケーションの動作環境

Linux 64bit プラットフォームで Advance CAD (32bit アプリケーション) を動作させる場合、

Multilib サポートパッケージをインストールする必要があります。このパッケージには、32bit アプリケーションを動作させるために必要なライブラリが含まれています。32bit アプリケーションを 64bit プラットフォームで動作させる際には、実際に使用する環境で、事前に十分な検証を行ってご使用ください。

2.1.3 Version19 で削除したツール

モデルファイルのアップグレードプログラム (mdlconv)

Version18 まではピクチャ書込みコマンドや同時設計の機能を使用するには、事前にモデルファイルを最新のバージョンに更新しておかなければなりませんでしたが、Version19 ではこの制限がなくなりました。ピクチャ書込みや同時設計のコマンドは、古いバージョンのモデルファイルを読み込むときに最新バージョンに更新します。もはやモデルファイルのアップグレードプログラムは不要ですので、削除されました。

シンボルファイルのアップグレードプログラム (symconv)

古いバージョンのシンボルファイルを読み込む時に最新バージョンに更新しています。このプログラムはかなり前のバージョンから不要になっていました。今回のリリースでは削除されました。

SunRaster ファイル用ツール

SunRaster 形式のイメージファイル进行处理するプログラムです。

(rasinvert, ras_lto8, ras_8to1, ras_add, ras_copy, ras_cut, ras_rotation, ras_zoom, ras2fig)。

現在では、SunRaster 形式が使用されることがほとんどなくなってきたこと、またイメージ処理のツールが多く提供されるようになりました。このようなことから、これらのプログラムはかなり前から不要になっていました。今回のリリースでは削除されました。

2.1.4 その他の変更

● 上限値の拡張

- ひとつのピクチャでのウインドウ数の上限は 255 で変更はありませんが、モデル全体でのウインドウ数の上限を 512 から 1024 に拡張しました。
- ひとつのスクリーンレイアウトのビューポート数の上限を 128 から 256 に、モデル全体でのビューポート数の上限を 128 から 512 に拡張しました。
- 図面配置ページの上限を 64 から 256 に拡張しました。これに合わせて、図面配置できるウインドウ数の全配置ページでの合計を 256 から 1024 に拡張しました。
- ドローイングタイトル（頁タイトル）の総入力項目数の上限（3276）と総入力文字数の上限（32760）を廃止し、無制限に拡張しました。
- カラーの 256 色に合わせるために、ペンの最大数を 255 から 256 に拡張しました。

● ラスター背景のアイテム化

ラスター背景は Advance CAD バージョン 19 からは幾何アイテムや製図アイテムと同様に、アイテムとして保持するようになりました。その影響でバージョン 18 までとは以下の相違があります。

- (1) 配置個数
モデル全体で 63 個まででしたがバージョン 19 で制限はなくなりました。

- (2) **アンドゥ**
バージョン 19 からはラスター背景の配置 (RAS/ADD) / 変更 (RAS/PRM) / 削除 (RAS/REL) 操作はアンドゥ最後の 1 つ (UNDO/S) / 最後のブロック (UNDO/B) / 最後の削除 (UNDO/HLT) の対象になります。
ラスター背景がアンドゥされた場合はたとえば「ピクチャ n のラスター背景の変更を元に戻しました」などの専用のメッセージを表示します。
- (3) **その他**
(1) および (2) 以外はバージョン 18 までと同様です。例えば、ラスター背景を操作するコマンド以外ではラスター背景を選択することはできません。ラスター背景をサブモデルとして配置することもできません。

● JPEG ファイル

ラスター背景として ISO JPEG 標準形式を読み込むことができるようになりました。またドキュメント出力として、画面イメージを ISO JPEG 標準形式に出力できるようになりました。

2.2 基本機能

2.2.1 JIS コードによる日本語入力

[リクエスト番号]: E18057
[コマンド]: -
[リリース]: 18.10
[区分]: 追加
[メニュー]: なし
[更新日]: 2008/01/23
[担当者]: AYO

【要望】

日本語入力がフロントエンドプロセッサによる入力だけになったが、外字登録部分はフロントエンドプロセッサでは指定できない。
バージョン 17 までと同様に、JIS コードによる入力ができるようにして欲しい。

【対応】

JIS コードで入力する機能を追加しました。

● JIS コードで入力する

JIS コード入力: {xxxx}

“{”に続けて JIS コード 4 桁と “}”を入力する。“{”が入力されると “{xxxx}”の部分が、該当する日本語文字コードに置き換わる。

例) 4区2点の“あ”を入力する場合
“{2422}”

● 外字の表記

外字は fontutil.exe を使用し、漢字書体番号 101 の日本語ストロークフォントだけに追加できます。追加された外字は図面中の注記や図面枠の標題欄に使用できます。
プロンプト領域やモデルタイトル設定画面には外字は表示できないので、JIS コード入力と同じ形式で表示します。
例えば“担当者 山 {xxxx} 太郎”と表示されます。xxxx は外字の JIS コード。

2.2.2 日本語入力で IIIMF のサポート (Solaris 版、RHEL 版)

[リクエスト番号]: E18073
[コマンド]: -
[リリース]: 18.12
[区分]: 既存
[メニュー]: なし
[更新日]: 2008/03/14
[担当]: ANS

【要望】

日本語入力で IIIMF を使用したい。

【対応】

サポートしました。

2.2.3 半角カタカナの表示

〔リクエスト番号〕 : E18060
〔コマンド〕 : -
〔リリース〕 : 18.10
〔区分〕 : 既存
〔メニュー〕 : なし
〔更新日〕 : 2007/10/03
〔担当〕 : ANS

【要望】

V18 から TrueType フォントを選択すると、半角カタカナが入力できるようになった。ところが他のフォントを選択すると半角カタカナが空白になってしまう。
V17 と同じように、半角カタカナを入力したら、全角カタカナにして欲しい。

【対応】

ベクトルフォント、アウトラインフォントでも、半角カタカナを半角カタカナとして表示するようにしました。

2.2.4 画面にフィットした初期ウインドの表示

〔リクエスト番号〕 : E18027
〔コマンド〕 : -
〔リリース〕 : Windows 版 - 18.01
Solaris 版および Linux 版 - 18.16、19.01
〔区分〕 : 既存
〔メニュー〕 : なし
〔更新日〕 : 2007/05/22
〔担当〕 : ANS

【要望】

Advance CAD 起動時に表示される初期ウインドを画面にフィットさせて欲しい。

【対応】

画面にフィットするようにしました。また、ウインドのリサイズは、その縦横比を保持したまま行います。

2.2.5 ベースウインドをリサイズ時にウインドウ縦横比の保持 (Windows 版)

〔リクエスト番号〕 : E17055
〔コマンド〕 : -
〔リリース〕 : 18.01
〔区分〕 : 機能追加
〔メニュー〕 : なし
〔更新日〕 : 2006/10/13
〔担当〕 : ANS

【要望】

ACAD のベースウインドをリサイズする時に、ウインドウの縦横比を保持した状態にして欲しい (Windows 版)。

【対応】

縦横比を保持した状態で、ベースウインドをリサイズできるようにしました。

2.2.6 スペースキー入力による次候補アイテムの選択

[リクエスト番号]: E18034
 [コマンド]: アイテム選択
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 変更
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2009/04/20
 [担当者]: AYO

【要望】

スペースキーで次候補アイテムを選択できるコマンドがいくつかあるが、全てのコマンドで対応して欲しい。特に平行線コマンドでできると便利。

【対応】

V19で、いくつかのコマンドにスペースキーによる次候補アイテムの選択機能を追加しました。

● スペースキーによる次候補アイテムの選択機能を追加したコマンド

・ LPL OFFSET OFFSET/SEG

アイテム選択（オフセットカーブ作成）後のスペースキー入力で「反転」→「次候補」→「反転」を繰り返すように変更しました。

・ LPLS OFFSET/MULT

オフセット基準線を選択後のスペースキー入力は基準線の「次候補」、オフセット距離を入力後のスペースキー入力は「反転」に変更しました。

・ DRF/EDIT TRM TRM/PP TRM/G TRM/P MTRM MTRM/PP MTRM/G MTRM/P TRM/SEQ CTRM CTRM/PP

V18まではアイテムを選択すると、修正と同時に確定していました。

V19ではアイテムが選択されると修正状態をテンポラリアイテムにします。その状態で次候補アイテムがあればスペース入力で次候補アイテムに切り替えます。別のアイテム選択か<CE>入力でテンポラリアイテムを確定させます。USEACTも同様です。テンポラリアイテム状態のときはバックスペースキー入力で取り消すことができます。CTRL/SHIFT + digによる排除機能も追加しました。

・ ASC_NEW ASC_ADD ASC_REL ASC_BRK ASC_DEL ASC_CNG ASC_VER ASC_MOVE ASC_MOD XHT XHT/REL

アイテム選択後のスペースキー入力で次候補アイテムに切り替える機能を追加しました。

● メッセージで次候補アイテムがあることを明示したコマンド

・ COMP COMP/REL AFL ALF/REL AFL/MOD OUTLINE CLIPPER CLIP_OUTL CLIP_PLY XHT/MOD MTOUCH RTOUCH DIM/AUTO WCP/COPY WCP/CUT ISO COPY MOVE MOVE/HOR MOVE/VRT ROTATE MIRROR STRETCH EXPAND ARY RARY RARY/ROT DRAG RDRAG MDRAG SYM/UPD SYM/BRK SUB/UPD SUB/BRK GLS/MOD REV/MOD LFT/MOD LWT/MOD ATR/MOD BLANK UNBLANK DEL ACT ACT/AUTO

スペースキー入力で次候補アイテムに切り替える機能は付加されていましたが、メッセージで明示していませんでした。

次候補アイテムがある場合はメッセージで明示するように修正しました。

2.2.7 次候補のメッセージを統一

[リクエスト番号]: E20031
[コマンド]: -
[リリース]: 19.14、20.07
[区分]: 変更
[メニュー]: なし
[更新日]: 2015/4/9
[担当者]: AYO

【要望】

次候補のメッセージを統一して欲しい。

【対応】

次候補があるときのメッセージを1行で表示するコマンドと2行で表示するコマンドが混在していました。2行で表示する方法に統一しました。

1行で表示する場合。

アイテムを選択 / S P : 次候補

2行で表示する場合。

アイテムを選択

S P : 次候補

2.3 汎用割込みコマンド

2.3.1 同時設計のペアレント名と選択メンバー名をマクロで抽出する

```
[ リクエスト番号 ]: E18003
[ コマンド       ]: REG
[ リリース      ]: 18.01
[ 区分          ]: 追加
[ メニュー      ]: なし
[ 更新日        ]: 2007/01/25
[ 担当者        ]: AYO
```

【要望】

同時設計で作業中のペアレント名と選択されているメンバー名をマクロで取り出せるようにして欲しい。

【対応】

現在値レジスタに、以下の2つのレジスタを追加しました。

● #CURCCDNAME

処理中のペアレント名。

TON_START、TON_CALL、TON_MDL_READ で指定されたペアレント名を持つ。同時設計作業中ではないときはこのレジスタは未定義になる。

● #CURCCDMEMB

実データ化されているメンバーの名前。

実データ化されていないメンバーがないときはこのレジスタは未定義になる。

【マクロでの使用例】

```
if (vtype(#CURCCDNAME) != 4) {
  /* ペアレント名が設定されていない（同時設計で作業はしていない）*/
} else {
  parent = #CURCCDNAME;
  if (vtype(#CURCCDMEMB) != 4) {
    /* メンバーが選択されていない */
  } else {
    member = #CURCCDMEMB;
  }
}
```

2.3.2 モデルファイルのバージョンを示すレジスタ

```
[ リクエスト番号 ]: E18059
[ コマンド       ]: REG
[ リリース      ]: 18.10
[ 区分          ]: 追加
[ メニュー      ]: なし
[ 更新日        ]: 2007/09/27
[ 担当者        ]: AYO
```

【要望】

モデル保存時に、呼び出したモデルと同じバージョンで保存したい。マクロ内でモデルファイルのバージョンを知ることができればダウンコンバートまでの一連の処理が可能になる。

【対応】

現在値レジスタに、モデルファイルのバージョンを示すレジスタを追加しました。

● #CURMDLVER

処理中のモデルファイルのバージョンを示す。このレジスタを参照するたびに、ディスクに保存されている、処理中のモデルファイルのモデルバージョンを調べてこのレジスタに設定する。

モデル呼出ししたモデルファイルのバージョンを保持しているのではないことに注意。

モデルファイルのバージョン番号と Advance CAD のバージョンの一覧

レジスタの値	Advance CAD のバージョン
1 ~ 8	各々バージョン 1 ~ 8
9	9 , 10
11	11
12	12 , 13
14	14
15	15
16	16 , 17
18	18
19	19
0	モデル名が設定されていない。またはモデルファイルが存在しない。

2.3.3 実行中のコマンド名を示すレジスタ

[リクエスト番号]: E18068
 [コマンド]: REG
 [リリース]: 18.10
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2007/09/27
 [担当者]: AYO

【要望】

アイテムを削除した場合に、重なるアイテムが見にくくなるのでいつも再表示をしている。マクロで対応しようとしたが、アイテムを削除するための <CE> か、コマンドを終了するための <CE> が判別できない。実行中のコマンド名を示すレジスタがあればマクロで対応することができる。

【対応】

実行中のコマンド名を示すレジスタを追加しました。

● #CURCMDNAME

実行中のコマンド名を示す。

コマンドが何も選択されていないときは「未定義」になる。

【マクロでの使用例】

```

/*
 * 削除コマンドを起動し、アイテムが削除されたら再表示をする
 */
DEL
for (;;) {
  [p = getpnt(1)]
  if (vtype(#CURCMDNAME) != 4) {
    /*
     * レジスタ値が未定義。
     * 削除コマンドは終了。
     * コマンドは何も選択されていない。
     */
    break; /* for ループを抜ける。*/
  } else if (#CURCMDNAME != "DEL") {
    /*
     * コマンド名が "DEL" ではない。
     * 削除コマンドは終了。
     * このマクロを起動する前のコマンドが動作中。
     */
    break; /* for ループを抜ける。*/
  } else {
    /*
     * 削除コマンドが継続中。
     */
    if (vtype(p) == 5) {
      /*
       * <GE> が入力された。
       * アイテムが削除されている。
       * 全ビューポートのピクチャを再表示。
       */
      RPT/ALL
      if (#CURCMDNAME != "DEL") {
        /*
         * コマンド名が "DEL" ではない。
         * 再表示コマンドが動作中。
         * 再表示コマンドを終了させる。
         */
        <GE>
      }
    }
  }
} /* End of for (;;) */

```

2.3.4 注記をベリファイしたときのレジスタ

```

[ リクエスト番号 ]: E18070
[ コマンド       ]: VER、REG/VER
[ リリース      ]: 18.10
[ 区分          ]: 追加
[ メニュー      ]: なし
[ 更新日        ]: 2007/12/12
[ 担当者        ]: AY0

```

【要望】

既存の注記のスタイルと全く同じスタイルで別の注記を作成したい。注記をベリファイすれば概ねの情報は把握できるが、枠表示や文字枠のゆとりなどいくつかの情報がレジスタ値になっていない。枠表示など、注記作成に必要な情報をレジスタに追加して欲しい。

【対応】

注記をベリファイしたときのレジスタを追加しました。

●ベリファイレジスタ

#VERJSTHOR : 文字列表示水平基準 (0: 左ヅメ、1: 中央振分け、2: 右ヅメ)
 #VERBOXMOD : 枠表示モード (0: 表示しない、1: 枠を表示する、2: 下線を表示する)
 #VERSPCHOR : 文字枠の水平方向のゆとりサイズ (mm)
 #VERSPCVRT : 文字枠の垂直方向のゆとりサイズ (mm)
 #VERTXTORI : 文字列の向き (0: 横書き、1: 縦書き)

2.3.5 複数ピクチャを一度に削除する

[リクエスト番号]: E18109
 [コマンド]: DEL
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 機能追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/07/08
 [担当者]: AYO

【要望】

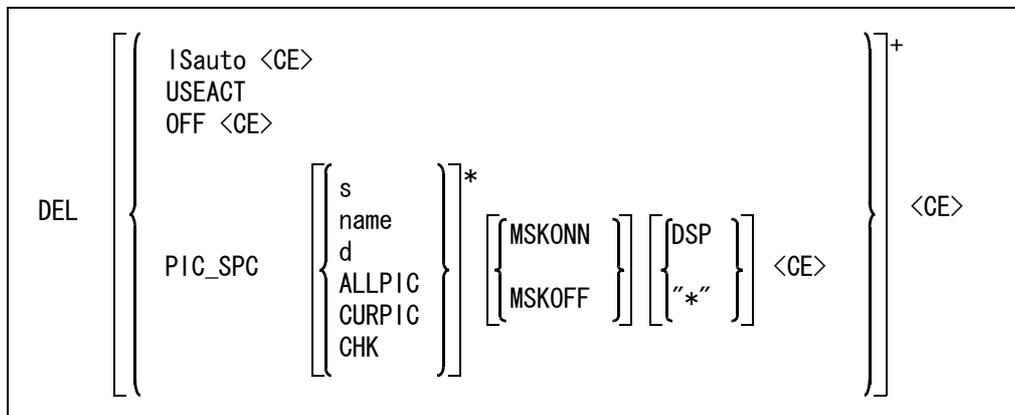
削除のピクチャ指定で、ピクチャ一覧図から複数ピクチャを選択して一度に削除できるようにして欲しい。

【対応】

削除のピクチャ指定で、一度に複数ピクチャを指定できるようにしました。また、一覧図／一覧表から削除するピクチャを選択できるようにしました。

【構文】

●アイテムを削除する



ピクチャ指定でアイテムを削除する。

PIC_SPC : 削除するピクチャを以下の方法で指示する。複数ピクチャを指定できる。
 s : ピクチャ番号で指定する。指定されたピクチャが追加選択される。
 name : ピクチャ名で指定する。指定されたピクチャが追加選択される。
 d : ビューポートをデジタイズする。そのビューポートで表示しているピクチャが追加選択される。
 ALLPIC : すべてのピクチャが選択される。
 CURPIC : アクティブピクチャが追加選択される。
 CHK : 図面配置されていないピクチャだけを選択する。これが指示される以前の選択状態はすべて無効になる。
 DSP : ピクチャ一覧図が表示される。削除するピクチャを一覧図から選択する。
 "*" : ピクチャ一覧表が表示される。削除するピクチャを一覧表から選択する。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = delete に以下の行を追加

+ < 8, 1> " 一覧図 " !DSP! [none, none, c3]

T < 9, 1> " 一覧表 " !"*"! [none, none, c3]

2.3.6 指定ビューポートを全体表示、拡大縮小表示

[リクエスト番号]: E17051
 [コマンド]: ZOOM/ALLB、ZOOM/UPB、ZOOM/DOWNB
 [リリース]: 18.01
 [区分]: 新規
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2006/10/03
 [担当者]: AYO

【要望】

現状の拡大表示や拡大縮小表示はアクティブなビューポートに対してのみ操作するが、マウスカーソルのいるビューポートに対して全体表示や拡大縮小表示ができればマルチビューポートでの作業効率が向上する。

【対応】

全体表示、拡大表示および縮小表示時に、ビューポートを指定できるコマンドを追加しました。

【構文】

- 指定したビューポートを全体表示にする

ZOOM/ALLB d

指定されたビューポートを全体表示にする。

このコマンドがマウスボタンに割り付けられている場合、デジタイズ位置がビューポート内ならば、コマンドの選択とビューポートの選択を兼ねる。

ビューポートの外ならばコマンドが選択されるだけである。続けてビューポートを指示する。

ビューポートを指示する。

d: 全体表示にしたいビューポートを指示する。

- 指定したビューポートを拡大表示する

ZOOM/UPB d

指定されたビューポートを拡大表示する（表示面積を半分にする）。

このコマンドがマウスボタンに割り付けられている場合、デジタイズ位置がビューポート内ならば、コマンドの選択とビューポートの選択を兼ねる。

ビューポートの外ならばコマンドが選択されるだけである。続けてビューポートを指示する。

ビューポートを指示する。

d: 拡大表示したいビューポートを指示する。

- 指定したビューポートを縮小表示する

ZOOM/DOWNB d

指定されたビューポートを縮小表示する（表示面積を2倍にする）。
このコマンドがマウスボタンに割り付けられている場合、デジタイズ位置がビューポート内ならば、コマンドの選択とビューポートの選択を兼ねる。
ビューポートの外ならばコマンドが選択されるだけである。続けてビューポートを指示する。

ビューポートを指示する。

d: 縮小表示したいビューポートを指示する。

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

```
V [91, 1, 17] !ZOOM/ALLB!  
V [91, 1, 18] !ZOOM/UPB!  
V [91, 1, 19] !ZOOM/DOWNB!
```

2.3.7 ビューポートにピクチャ番号を表示する

```
[ リクエスト番号 ]: E18094  
[ コマンド ]: PNUM/DSP  
[ リリース ]: 19.02  
[ 区分 ]: 追加  
[ メニュー ]: あり  
[ 更新日 ]: 2010/03/11  
[ 担当者 ]: AYO
```

【要望】

マルチビューポートの場合、各ビューポートの隅にピクチャ番号を常に表示して欲しい。

【対応】

モデル定数に「ビューポートのピクチャ番号表示」を追加しました。

● ビューポートにピクチャ番号・ピクチャ名を表示する

PNUM/DSP: マルチビューポートの場合に、各ビューポートにピクチャ番号やピクチャ名を表示するかどうかを指定する。

表示するとした場合でも、シングルビューポートの場合は、ステータス領域と重複するので表示しない。この定数は定数ファイルに保存するが、モデルファイルには保存しない。

0: 表示しない。

1: ピクチャ番号を表示する。

2: ピクチャ名が付けられていればピクチャ名を、付けられていなければピクチャ番号を表示する。ピクチャ名は12バイトで打ち切る。

3: ピクチャ番号とピクチャ名の両方を表示する。ピクチャ名は12バイトで打ち切る。

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

```
V [53, 4, 18] !PNUM/DSP!
```

ACADRVP.MEN に以下の行を追加

```
Pagename = rvp_model
```

```
+ <37, 1> "ビューポートのピクチャ番号表示" !PNUM/DSP!
```

```
+ <38, 1> " (0=非表示, 1=番号, 2=名前, 3=両方)"
```

ACADRVP_W.MEN に以下の行を追加

```
Pagename = dlg_model1
```

```
+ <21, 1> "ビューポートのピクチャ番号表示" !PNUM/DSP!
```

```
+ <22, 1> " (0=非表示, 1=番号表示, 2=名前優先, 3=両方表示)"
```

2.3.8 クラス一覧表でより多くのクラスを同時に表示する

[リクエスト番号]: E17056
 [コマンド]: CLS、REV、LFT、LWT 一覧表
 [リリース]: 18.01
 [区分]: 変更
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2006/12/14
 [担当者]: AYO

【要望】

ダイアログを使用しないときのクラス一覧表が画面の左側だけに表示されている。バージョン15までのように画面を左右に分割して、同時により多くのクラスが表示できるようにしたい。

【対応】

一覧表の横幅はピクチャ名やクラス名が設定されているかどうかで変わってきます。左右を分割した画面内に一覧表の横幅が納まる場合は左右に分割して表示するように修正しました。

2.3.9 結合アイテムの構成要素の属性を一括で変更する

[リクエスト番号]: E18035
 [コマンド]: CLS/MOD、REV/MOD、LFT/MOD、LWT/MOD、ATR/MOD
 [リリース]: 18.02
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2007/07/20
 [担当者]: AYO

【要望】

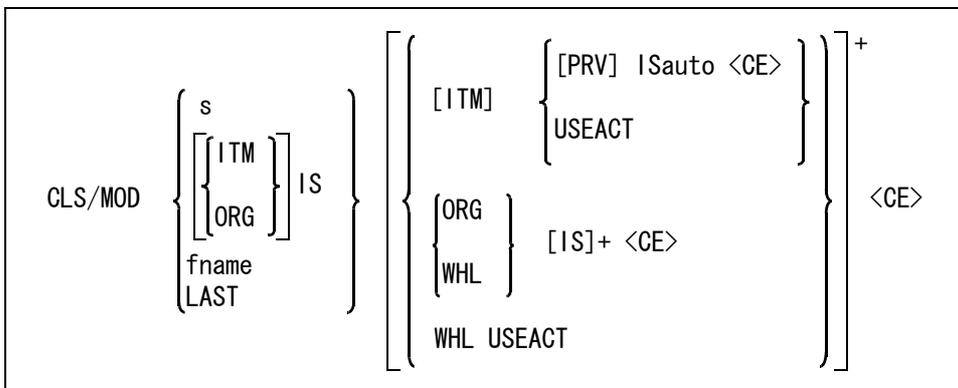
シンボルや複合アイテムの線種を変更するときに「元の属性」で構成要素を一つずつ選択して変更している。結合アイテムを選択することで構成要素の全てが選択できると便利。

【対応】

結合アイテムの構成要素の属性を変更するときに、構成要素の全てを選択する機能を追加しました。

【構文】

- 既存アイテムのクラスを変更する



アイテムのクラスを変更するか、結合アイテム内の元アイテムのクラスを変更するかを指示する。

ITM : アイテムのクラスを変更する。(省略時)
 ORG : 結合アイテム内の元アイテムのクラスを変更する。
 IS でピックアップされた構成要素だけが選択される。

WHL : 結合アイテム内の元アイテムのクラスを変更する。
IS でピックされた結合アイテムの構成要素のうちで、選択マスクで選択が許可されている要素が選択される。
ORG と WHL は構成要素の選択の途中で切り替えることができる。たとえば WHL でシンボルの構成要素全体を選択してから ORG で中心線を排除する。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_atrmod1 と Pagename = mdf_atrmod2 に以下の行を追加
+ <11, 1> "元属性全部" !WHL! [none, none, c3]

2.3.10 属性の変更で元属性全部のときに選択マスクを参照する

[リクエスト番号]: E18080
[コマンド]: CLS/MOD、REV/MOD、LFT/MOD、LWT/MOD、ATR/MOD
[リリース]: 18.12
[区分]: 追加
[メニュー]: なし
[更新日]: 2008/08/14
[担当者]: AYO

【要望】

DXF 呼出しで DXF のブロックデータから作成された複合アイテムには線幅が付いていない。その複合アイテムの特定のクラス（外形線クラス）の特定の線種（実線）の要素を太線に一括変換する機能があれば便利。

【対応】

属性の変更で元属性全部の場合、元属性で選択マスクを見るようにしました。クラス、レビジョン、線種、線幅、要素種別の各選択マスクのどれか一つでも選択不可になっている元図形の元図形は属性変更しないようにしました。

【コマンド操作例】

元図形のクラスが 2 0 1 で線種が 1 の元図形の線幅を 2 に変える。対象の複合アイテムは既にアクティブリストに載っているものとする。

LWT/MOD 2 MCLS 201 MLFT 1 WHL USEACT
または
CLS/SEL 201 <CE>
LFT/SEL 1 <CE>
LWT/MOD 2 WHL USEACT
ATR/SELALL <CE>

2.3.11 部分線種・部分線幅をクリアする

[リクエスト番号]: E16021
[コマンド]: LFT/CLA、LWT/CLA
[リリース]: 19.01
[区分]: 新規
[メニュー]: あり
[更新日]: 2009/11/20
[担当者]: AYO

【要望】

部分線種クリアおよび部分線幅クリアコマンドはアイテムを1つずつしか処理できない。他 CAD からの IGES などを Advance CAD に読み込むと、部分線幅のあるストリングアイテムがたくさんできてしまう。

矩形で囲ったアイテム全ての部分線幅がクリアできると便利。

【対応】

既存の部分線種クリア (PFNT/CLEAR) や部分線幅クリア (PLWT/CLEAR) は、テンポラリアイテムに対する修正を行う割り込みコマンド群の一部なので、「ACT より」や「複数アイテムの自動選択」機能を使用することができません。
新コマンド LFT/CLA、LWT/CLA を追加しました。

【構文】

●部分線種をクリアする

LFT/CLA	{ I Sauto <CE> USEACT }
---------	----------------------------

部分線種をクリアするアイテムを選択する。

- I Sauto : 複数アイテムの自動選択機能で選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての <SP> 入力で次候補アイテムに切り替わる。シフトキー/コントロールキーによる排除機能を使用できる。
- USEACT : アクティブリスト中のアイテムの部分線種をクリアする。

●部分線幅をクリアする

LWT/CLA	{ I Sauto <CE> USEACT }
---------	----------------------------

部分線幅をクリアするアイテムを選択する。

- I Sauto : 複数アイテムの自動選択機能で選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての <SP> 入力で次候補アイテムに切り替わる。シフトキー/コントロールキーによる排除機能を使用できる。
- USEACT : アクティブリスト中のアイテムの部分線幅をクリアする。

【メニュー】

ACADCMD. MEN に以下の行を追加

- + [17, 1, 6] !LFT/CLA!
+ [17, 1, 7] !LWT/CLA!

ACADOSM. MEN

Pagename = itemattr を以下のように変更

Menu [itemattr, 1, 4, c2]		
+ < 1, 1> " 属性の変更 "		[none, none, c4]
+ < 2, 1> " 一括変更 "	!ATR/MOD!	[itemattr, mdf_atrmod1, c0]
+ < 3, 1> " クラス変更 "	!CLS/MOD!	[itemattr, mdf_atrmod2, c0]
+ < 4, 1> " REV 変更 "	!REV/MOD!	[itemattr, mdf_atrmod2, c0]
+ < 5, 1> " 線種変更 "	!LFT/MOD!	[line_font1, mdf_atrmod2, c0]
+ < 6, 1> " 線幅変更 "	!LWT/MOD!	[line_weight, mdf_atrmod2, c0]
+ < 8, 1> " 部分線種線幅 "		[none, none, c4]
+ < 9, 1> " 線種クリア "	!LFT/CLA!	[itemattr, dummy, c0]
+ < 10, 1> " 線幅クリア "	!LWT/CLA!	[itemattr, dummy, c0]
+ < 11, 1> " ACT より "	!USEACT!	[none, none, c3]
+ < 13, 1> " 表示/非表示 "		[none, none, c4]
+ < 14, 1> " 非表示 "	!BLANK!	[itemattr, dummy, c0]
+ < 15, 1> " ACT より "	!USEACT!	[none, none, c3]
+ < 16, 1> " 表示に戻す "	!UNBLANK!	[itemattr, dummy, c0]
+ < 17, 1> " 現ピクチャ "	!CURPIC!	[none, none, c3]
+ < 18, 1> " 全ピクチャ "	!ALLPIC!	[none, none, c3]
+ < 19, 1> " ACT より "	!USEACT!	[none, none, c3]

```
+ <20, 1> "表示⇔非表示" !BLANK/SWITCH! [itemattr, dummy, c0]
```

Pagename = mdf_atrmod1 を以下のように変更

```
Menu [mdf_atrmod1, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 2, 1> "線属性一覧表" !LAST! [none, none, c3]
+ < 3, 1> "全属性" !ALL! [none, none, c3]
+ < 4, 1> "クラス" !NCLS! [none, none, c3]
+ < 5, 1> "REV" !NREV! [none, none, c3]
+ < 6, 1> "線種" !NLFT! [none, line_font1, c3]
+ < 7, 1> "線幅" !NLWT! [none, line_weight, c3]
+ < 9, 1> "アイテム属性" !ITM! [none, none, c3]
+ <10, 1> "元属性" !ORG! [none, none, c3]
+ <11, 1> "元属性全部" !WHL! [none, none, c3]
+ <13, 1> "前回編集要素" !PRV! [none, none, c3]
+ <14, 1> "ACTより" !USEACT! [none, none, c3]
#else // NOMODIFIER
+ < 2, 1> "線属性一覧表" !LAST! [none, none, c3]
+ < 3, 1> "全属性" !ALL! [none, none, c3]
+ < 5, 1> "前回編集要素" !PRV! [none, none, c3]
+ < 6, 1> "ACTより" !USEACT! [none, none, c3]
#endif // End of NOMODIFIER
```

Pagename = mdf_atrmod2 を以下のように変更

```
Menu [mdf_atrmod2, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 3, 1> "アイテム属性" !ITM! [none, none, c3]
+ < 4, 1> "元属性" !ORG! [none, none, c3]
+ < 5, 1> "元属性全部" !WHL! [none, none, c3]
+ < 7, 1> "前回編集要素" !PRV! [none, none, c3]
+ < 8, 1> "ACTより" !USEACT! [none, none, c3]
#else // NOMODIFIER
+ < 3, 1> "前回編集要素" !PRV! [none, none, c3]
+ < 4, 1> "ACTより" !USEACT! [none, none, c3]
#endif // End of NOMODIFIER
```

2.3.12 修正コマンドで次候補アイテムを選択する

```
[ リクエスト番号 ]: E20028
[ コマンド ]: SEG 修正、部分線種変更、文字列修正、マーク修正、寸法要素修正
[ リリース ]: 19.14、20.07
[ 区分 ]: 追加
[ メニュー ]: なし
[ 更新日 ]: 2015/4/9
[ 担当者 ]: AYO
```

【要望】

文字列修正、寸法要素修正などの割り込みコマンドにも次候補アイテムの選択機能を追加して欲しい。

【対応】

SEG 修正、部分線種変更、文字列修正、マーク修正および寸法要素修正の各コマンドに、スペースキー入力による次候補アイテムを選択する機能を追加しました。

2.3.13 片側寸法を傾ける

[リクエスト番号]: E20032
 [コマンド]: DIM/MOVE
 [リリース]: 19.14、20.07
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2015/4/21
 [担当者]: AYO

【要望】

長さ寸法傾け (DIM/MOVE) は寸法参照点を結ぶ直線と寸法線が平行な長さ寸法だけを、傾けることができる仕様だが、片側寸法の場合は平行でないときも傾けることができるようにして欲しい。

【対応】

片側寸法の場合は寸法参照点を結ぶ直線と寸法線が平行でなくても傾けることができるように修正しました。

2.3.14 非表示と表示のアイテムを入れ替える

[リクエスト番号]: E17049
 [コマンド]: BLANK/SWITCH
 [リリース]: 18.12
 [区分]: 新規
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2008/04/24
 [担当者]: AYO

【要望】

設計変更により、BLANK コマンドで非表示にしたアイテムに対しての編集作業が必要になる場合がある。BLANK のアイテムに対しては編集操作ができないので一時的に非表示と表示のアイテムを逆転する機能があると便利。

【対応】

非表示と表示を入れ替えるコマンドを追加しました。

【構文】

- 非表示と表示を入れ替える

BLANK/SWITCH	$\left. \begin{array}{l} \langle CE \rangle \\ \langle BS \rangle \end{array} \right\}$
--------------	---

現ピクチャのアイテムのうち、BLANK または BLANK/SWITCH コマンドにより非表示になっているアイテムを表示に戻し、表示になっているアイテムを非表示にする。

非表示と表示を入れ替える。

⟨CE⟩ : 現ピクチャのアイテムの非表示と表示を入れ替える。

コマンドをキャンセルする。

⟨BS⟩ : 非表示と表示を入れ替えなくてコマンドを終了する。

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加
 V [17, 2, 3] !BLANK/SWITCH!

ACADOSM.MEN

Pagename = itemattr に以下の行を追加

+ <20, 1> "表示⇔非表示" !BLANK/SWITCH! [itemattr, dummy, c0]

2.3.15 スクリーンレイアウトを一覧図から選択する

[リクエスト番号]: E18050
 [コマンド]: SLO、SLO/REL
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/07/03
 [担当者]: AYO

【要望】

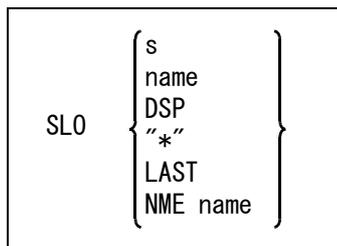
スクリーンレイアウトを切り替えるときに、使用中のスクリーンレイアウトの一覧図から選択する機能を追加して欲しい。

【対応】

スクリーンレイアウトの選択およびスクリーンレイアウトの削除コマンドに、一覧図から選択する機能を追加しました。

【構文】

- スクリーンレイアウトを呼び出す

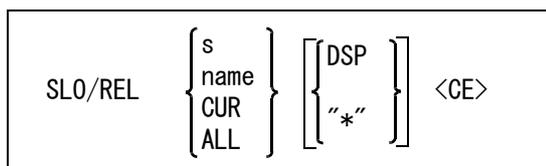


スクリーンレイアウトを次のいずれかの方法で指定する。

- s : 呼び出すスクリーンレイアウトの番号を入力する。未定義のスクリーンレイアウト番号を指示すると、フルサイズのビューポートが1つ設定され、そこにアクティブピクチャを表示する。
- name : スクリーンレイアウトの名前を入力する。
- DSP : 使用されているスクリーンレイアウトの状態が一覧図で表示される。呼び出すスクリーンレイアウトを画面から選択する。
- "*" : 使用されているスクリーンレイアウトの状態が一覧表で表示される。呼び出すスクリーンレイアウトを画面から選択する。
- LAST : 直前に使用していたスクリーンレイアウトに切り換える。

【構文】

- スクリーンレイアウトを削除する



削除するスクリーンレイアウトを次のいずれかの方法で指定する。

- s : スクリーンレイアウトの番号または名前。
- CUR : 現在のスクリーンレイアウト。
- ALL : 全てのスクリーンレイアウト。

削除するスクリーンレイアウトを一覧から指定する。

DSP : スクリーンレイアウトの一覧図から選択する。
 "*" : スクリーンレイアウトの一覧表から選択する。

指定されたスクリーンレイアウトを削除する。

<CE> : 指定されているスクリーンレイアウトを削除する。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_slore! に以下の行を追加
 + <19, 1> "一覧図" !DSP! [none, none, c3]

Pagename = status_slo に以下の行を追加
 + <3, 1> "一覧図" !DSP! [none, none, c3]

2.3.16 ピクチャー一覧図を印刷する／4分割のスクリーンレイアウトを作る

[リクエスト番号]: E18033
 [コマンド]: SLO/PICLST
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 新規
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/02/04
 [担当者]: AYO

【要望】

ピクチャー一覧図状態を印刷できるようにして欲しい。

【対応】

ピクチャー一覧図の画面分割と同様なスクリーンレイアウトを作成するコマンドを追加しました。必要ならば、このスクリーンレイアウト状態でコピー出力やコピー印刷をしてください。4分割のスクリーンレイアウトを作成する場合などにも利用できます。

この機能追加に関連して、ビューポート数の上限を128から512に拡張しました。ただしひとつのスクリーンレイアウト内の最大ビューポート数は256までです。

SPI

【構文】

●ピクチャー一覧のスクリーンレイアウトを作成する

SLO/PICLST $\left\{ \begin{array}{l} \text{OFF} \\ \text{ONN} \end{array} \right\}$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{NUM } s \\ \text{ALLPIC} \end{array} \right\}$ [PAGE s] <CE>
--

アイテムの存在しないピクチャーをレイアウトするかどうかを指定する。

OFF : アイテムの存在しないピクチャーはレイアウトしない。(省略時)
 レイアウトするピクチャー数はアイテムの存在するピクチャーの数。
 ONN : アイテムの存在しないピクチャーもレイアウトする。
 レイアウトするピクチャー数は256。

ひとつのスクリーンレイアウトでの最大分割数(ビューポート数)を指定する。

NUM s : 最大分割数を数値で入力する。
 ALLPIC : OFFの場合はアイテムの存在するピクチャーの数になる。
 ONNの場合は256になる。
 初期値はモデル定数の「一覧図の画面分割数」。

該当するページ番号を指示する。

PAGE s : ページ番号を数値で入力する。(初期値は1)

スクリーンレイアウトを作成する。

<CE> : 現在のSLOのビューポートを全て削除し、指定されたビューポートを作成する。。
ビューポート内のピクチャは全体表示の状態になる。

【例1】

アイテムの存在するピクチャ全てを現在のSLOに配置する。

SLO/PICLST ALLPIC <CE>

【例2】

4分割のスクリーンレイアウトを作成する。

SLO/PICLST ONN NUM 4 <CE>

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

V [49, 11, 4] !SLO/PICLST!

ACADOSM.MEN

Pagename = viewport に以下の行を追加

+ <15, 1> "ピクチャー覧" !SLO/PICLST! [mdf_slopiclst, none, c0]

Pagename = mdf_slopiclst に以下の行を追加

Menu [mdf_slopiclst, 3, 17, c3]

+ <15, 1> "全ピクチャ" !ALLPIC!

#ifdef MODIFIER

+ <16, 1> "画面分割数" !NUM!

+ <17, 1> "ページ番号" !PAGE!

+ <18, 1> "空ピクチャ" [none, none, c4]

+ <19, 1> " __除く" !OFF!

+ <20, 1> " __含む" !ONN!

#endif // End of NOMODIFIER

2.3.17 図面配置ページに作図したアイテムを確認する

[リクエスト番号]: E19010
[コマンド]: PIC
[リリース]: 19.02
[区分]: 新コマンド
[メニュー]: あり
[更新日]: 2010/02/10
[担当者]: AYO

【要望】

図面配置ページに直接作図した場合に、作図したアイテムかピクチャを配置したのかが一目で判別しにくい。確認する機能が欲しい。

【対応】

ピクチャー覧図に、図面配置ページに直接作図したアイテムを持つページを含めるように機能追加しました。一覧図内の図面配置ページは、作図したアイテムだけを表示します。ピクチャー番号は "Dx" と表示します。x は図面配置ページ番号で、たとえばページ番号3の場合は "D3" となります。

ピクチャー覧図に表示された図面配置ページを選択すると、そのページの図面配置状態になります。

2.3.18 ベリファイ時に切出されたアイテムかどうかを表示

[リクエスト番号]: E17018
 [コマンド]: VER、VER/SEG
 [リリース]: 18.01
 [区分]: 変更
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2006/10/03
 [担当者]: AY0

【要望】

ベリファイしたときに部分切り出しで作成されたアイテムかどうかを表示して欲しい。

【対応】

部分切り出しで作成されたアイテムをベリファイしたときは、アイテムタイプの表示に「切出要素:」を付けるようにしました。たとえば直線アイテムをベリファイしたときは「直線」または「切出要素:直線」と表示します。

2.3.19 ベリファイ時にアイテム名で指示する

[リクエスト番号]: E19007
 [コマンド]: VER、VER/CNR
 [リリース]: 19.01
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2009/11/11
 [担当者]: AY0

【要望】

ベリファイコマンドで、アイテム選択がアイテム名で指定できると便利。

【対応】

ベリファイおよび定義点表示コマンドのアイテム選択を、アイテム名でも指定できるように機能追加しました。

【構文】

- アイテムの情報を表示する

VER	$\left\{ \begin{array}{l} \text{IS} \\ \text{name} \\ \text{s} \\ \text{USEACT} \end{array} \right\}$
-----	---

情報を調べるアイテムを次のいずれかの方法で入力する。

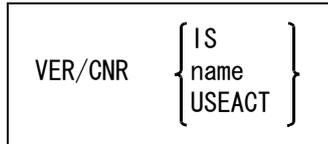
IS : アイテムを選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての<SP>入力で次候補アイテムに切り替わる。
 図面配置状態のときは、頁タイトルも選択できる。

name : アイテム名で指示する。

s : 図面配置状態のとき、情報を調べる頁タイトル番号を入力する。

USEACT : アクティブリスト中のアイテムの情報を表示する。

● アイテムの定義点を表示する



次のいずれかの方法でアイテムを指示する。

- IS : アイテムを選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての〈SP〉入力で次候補アイテムに切り替わる。
- name : アイテム名で指示する。
- USEACT : アクティブリスト中のアイテム。

2.4 図形アイテム

2.4.1 角度分割線の作図位置

[リクエスト番号]:	E18113
[コマンド]:	LADV
[リリース]:	18.17、19.01
[区分]:	変更
[メニュー]:	なし
[更新日]:	2009/12/11
[担当者]:	AYO

【要望】

角度分割線で作成される直線を、指示する2つの要素の間にいれて欲しい。2つの要素が平行線に近い場合、分割線が遠く離れた位置に作成されるために使用者が戸惑っている。

【対応】

選択された2つの要素の交点が2つの要素と離れている場合は、交点と2つの要素との最短距離だけ離れた位置を分割線の始点にするように変更しました。
 選択された2つの要素の交点が要素上にあるときは、従来通りに交点を分割線の始点にします。

2.4.2 重複削除で一度に処理できるアイテム数を拡張

[リクエスト番号]:	E18093
[コマンド]:	PURGE
[リリース]:	18.13
[区分]:	変更
[メニュー]:	なし
[更新日]:	2008/12/11
[担当者]:	AYO

【要望】

重複削除で一度に処理できるアイテム数の上限を超えていると、何も処理されない。メッセージも表示されないので状況が把握できない。アイテム数の上限を拡張して欲しい。また処理できないときはメッセージを表示して欲しい。

【対応】

一度に処理できるアイテム数を、点、線分、円弧、自由曲線、ストリングアイテム各々 10700 アイテムから 32768 アイテムに拡張しました。またアイテム数の上限を超えている場合や処理ができない（空きメモリの不足など）場合はエラーメッセージを表示するようにしました。

●重複削除

以下の順に処理する。アイテム数の上限を超えるなどで処理できない状況が発生したら、それ以降の処理は行わない。

- 完全に一致する点アイテムの重複削除
- 完全に一致する線分アイテムの重複削除
- 部分的な一致を処理するとした場合は、部分的に重なっているかまたは端点が接している、同一線上の線分を一つの線分アイテムにする
- 完全に一致する円弧アイテムの重複削除
- 部分的な一致を処理するとした場合は、部分的に重なっているかまたは端点が接している、同一円周上の円／円弧を一つの円弧アイテムにする
- 完全に一致する自由曲線アイテムの重複削除
- 完全に一致するストリングアイテムの重複削除

2.4.3 重複削除のデフォルトオプションを「全属性を比較する」に変更

[リクエスト番号]: E16020
 [コマンド]: PURGE
 [リリース]: 19.01
 [区分]: 変更
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/11/20
 [担当者]: AYO

【要望】

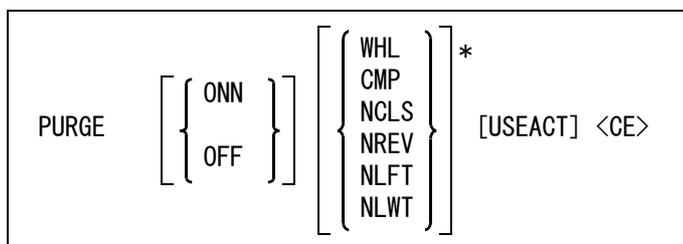
重複削除のデフォルトオプションが「属性比較をしない」になっている。これだとせっかく作図した図面を壊すような結果を招く。複雑な図面だと被害が大きい。間違っても操作しても被害が少ないように「全属性を比較する」をデフォルトオプションにして欲しい。

【対応】

重複削除コマンド選択時のデフォルトオプションを「全属性を比較する」に変更しました。

【構文】

●重複アイテムを消去する



部分的な重なりを処理するかしないかを指示する。

ONN : 部分的な重なりも処理する。(省略時)
 OFF : 完全な重なりだけを処理する。

アイテム属性を比較するかどうかを指示する。比較するとした場合、指定されたアイテム属性が一致するアイテム同士で重なりを処理する。

WHL : 全てのアイテム属性(クラス、レビジョン、線種、線幅)を比較する。(省略時)
 CMP : 全てのアイテム属性を「比較しない」に設定する。
 NCLS : クラスを比較する。
 NREV : レビジョンを比較する。
 NLFT : 線種を比較する。
 NLWT : 線幅を比較する。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_purge を以下のように変更

```

+Menu [mdf_purge, 1, 17, c3]
+ < 2, 1> "ACTより" !USEACT!
#ifdef MODIFIER
+ < 4, 1> "部分重複" [none, none, c4]
+ < 5, 1> "処理する" !ONN!
+ < 6, 1> "完全重複だけ" !OFF!
+ < 8, 1> "属性比較" [none, none, c4]
+ < 9, 1> "比較しない" !CMP!
+ <10, 1> "全属性" !WHL!
+ <11, 1> "クラス" !NCLS!
+ <12, 1> "レビジョン" !NREV!
  
```

```
+ <13, 1> "線種"      !NLFT!
+ <14, 1> "線幅"      !NLWT!
#endif // End of MODIFIER
```

2.4.4 中抜きトリム時にアイテムを分解する

```
[ リクエスト番号 ]: E18054
[ コマンド       ]: CTRM、CTRM/PP
[ リリース      ]: 18.02
[ 区分          ]: 新規
[ メニュー      ]: あり
[ 更新日        ]: 2007/08/23
[ 担当者        ]: AYO
```

【要望】

中抜きトリムをしたときに残った部分が1つのアイテムのままになっている。部分拡大して設計しているときに、中抜きトリムした一部が拡大されていて、削除やトリムをしたときに画面に見えていない部分が消去されてしまい、間違いの元になっている。中抜きトリム時にアイテムが分解できれば誤り防止になり、作業効率も向上する。

【対応】

中抜きトリム時にアイテムを分解する新コマンドを追加しました。

【構文】

- 複数のアイテムを中抜きトリムする

$$\text{CTRM} \left[\left[\begin{array}{c} \text{ISgeom} \\ \text{P} \end{array} \right] \left[\begin{array}{c} \text{ISgeom} \\ \text{P} \end{array} \right] \left[\begin{array}{c} \text{ISauto} \\ \text{USEACT} \end{array} \right] \langle \text{CE} \rangle \right]^+ \langle \text{CE} \rangle$$

トリム境界をつぎのいずれかで2つ指示する。

- ISgeom : 図形アイテムを選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての<SP>入力で次候補アイテムに切り替わる。
- P : テンポラリポイントを入力する。デフォルトはアイテムの選択なので、毎回テンポラリポイントコマンドを入力しなければならない。テンポラリポイントをアイテムに投影した位置でトリムする。

中抜きトリムするアイテムをつぎのいずれかで指示する。確定したアイテムは2つに分解される。

- ISauto : 複数アイテムの自動選択機能で選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての<SP>入力で次候補アイテムに切り替わる。シフトキー/コントロールキーによる排除機能が使用できる。アイテムが選択されるごとにトリムの結果をハイライト表示する。次のアイテムを選択するかまたは<CE>で確定する。
- USEACT : アクティブリスト中のアイテムをトリムする。1つでも正常にトリムされたならばアクティブリストの内容は空になる。

- 複数のアイテムを点で中抜きトリムする

$$\text{CTRM/PP} \left[\text{P P} \left[\begin{array}{c} \text{ISauto} \\ \text{USEACT} \end{array} \right] \langle \text{CE} \rangle \right]^+ \langle \text{CE} \rangle$$

トリム境界点を2つ指示する。

- P : 境界をテンポラリポイントで入力する。テンポラリポイントをアイテムへ投影した位置でトリムする。

中抜きトリムするアイテムをつぎのいずれかで指示する。確定したアイテムは2つに分解される。

- ISauto : 複数アイテムの自動選択機能で選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての<SP>入力で次候補アイテムに切り替わる。シフトキー／コントロールキーによる排除機能を使用できる。
アイテムが選択されるごとにトリムの結果をハイライト表示する。次のアイテムを選択するかまたは<CE>で確定する。
- USEACT : アクティブリスト中のアイテムをトリムする。
1つでも正常にトリムされたならばアクティブリストの内容は空になる。

【メニュー】

ACADCMD. MEN に以下の行を追加

- + [81, 6, 21] !CTRM!
- + [81, 6, 22] !CTRM/PP!

ACADOSM. MEN

Pagename = trim に以下の行を追加

- + <18, 1> " 中抜き・分解 " [none, none, c4]
- + <19, 1> " 両端一図形 " !CTRM! [trim, mdf_trim2, c0]
- + <20, 1> " 両端一点 " !CTRM/PP! [trim, mdf_trim2, c0]

Pagename = mdf_trim2 に以下の行を追加

- Menu [mdf_trim2, 5, 17, c3]
- + <19, 1> " A C T より " !USEACT!

2.4.5 陰線処理で中心線を消去しない

- [リクエスト番号]: E17043
- [コマンド]: CLIPPER、CLIP_OUTL、CLIP_PLY
- [リリース]: 19.01
- [区分]: 追加
- [メニュー]: あり
- [更新日]: 2009/10/16
- [担当者]: AYO

【要望】

陰線処理の内側消去で、中心線を消去しない機能を追加してほしい。

【対応】

内側消去に、線種3の要素を消去しない機能を追加しました。

2.4.6 陰線処理の内側破線（線幅継承）を1操作で指示する

- [リクエスト番号]: E17044
- [コマンド]: CLIPPER、CLIP_OUTL、CLIP_PLY
- [リリース]: 19.01
- [区分]: 追加
- [メニュー]: あり
- [更新日]: 2009/10/16
- [担当者]: AYO

【要望】

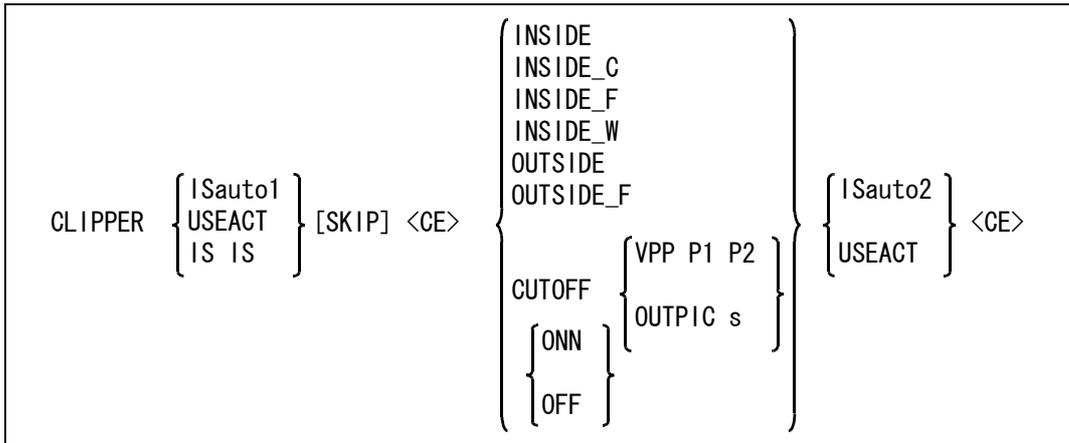
陰線処理の内側破線（線幅継承）を1つの修飾子で指定できるようにして、その状態を保持して欲しい。

【対応】

内側破線（線幅継承）を1つの修飾子で指示できるように修正しました。

【構文】

●指示した図形でクリッピングする



クリッピング範囲内の図形の処理方法をつぎのいずれかの方法で指示する。

- INSIDE : 範囲内を見えなくする。アイテム全体が非表示になったときはそのアイテムは削除される。
- INSIDE_C : 範囲内を見えなくする。アイテム全体が非表示になったときはそのアイテムは削除される。線種 3 の場合は消去しない。
- INSIDE_F : 範囲内を線幅 1 の破線にする。ただし線種 1 以外は破線にはならない。
- INSIDE_W : 範囲内を破線にする。線幅は継承する。ただし線種 1 以外は破線にはならない。
- OUTSIDE : 範囲外を見えなくする。
- OUTSIDE_F : 範囲外をすべて破線にする。ただし線種 1 以外は破線にはならない。
- CUTOFF : 範囲内を切り出し、複製する。
- VPP P1 P2 : CUTOFF を選択したとき、複製した部分の移動量を指示する。点 P1 から点 P2 へ移動する。
- OUTPUTPIC s : CUTOFF を選択したときで、別のピクチャに移したいときピクチャ番号を入力する。

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

```
V [ 34, 1, 159] !INSIDE_C!
V [ 34, 1, 160] !INSIDE_W!
```

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_clipper1 を以下のように変更

```
Menu [mdf_clipper1, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 1, 1> " 内側消去 " [none, none, c4]
+ < 2, 1> " 全線種 " !INSIDE!
+ < 3, 1> " 中心線残す " !INSIDE_C!
+ < 4, 1> " 内側破線 " [none, none, c4]
+ < 5, 1> " 線幅 1 " !INSIDE_F!
+ < 6, 1> " 線幅継承 " !INSIDE_W!
+ < 7, 1> " その他 " [none, none, c4]
+ < 8, 1> " 外側消去 " !OUTSIDE!
+ < 9, 1> " 外側破線 " !OUTSIDE_F!
+ <10, 1> " 内側切出し " !CUTOFF!
+ <11, 1> " 出力 PIC " !OUTPUTPIC!
+ <12, 1> " 二点移動 " !VPP!
+ <14, 1> " 下図処理方法 " [none, none, c4]
+ <15, 1> " 線上も対象 " !OFF!
```

```

+ <16, 1> " 線上は除外 " !ONN!
+ <18, 1> " A C T より " !USEACT!
+ <19, 1> " 全線種 " !SKIP!
#else // NOMODIFIER
+ < 2, 1> " 二点移動 " !VPP!
+ < 3, 1> " A C T より " !USEACT!
#endif // End of NOMODIFIER

```

Pagename = mdf_clipper2 を以下のように変更

```

Menu [mdf_clipper2, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 1, 1> " 内側消去 " [none, none, c4]
+ < 2, 1> " 全線種 " !INSIDE!
+ < 3, 1> " 中心線残す " !INSIDE_C!
+ < 4, 1> " 内側破線 " [none, none, c4]
+ < 5, 1> " 線幅 1 " !INSIDE_F!
+ < 6, 1> " 線幅継承 " !INSIDE_W!
+ < 7, 1> " その他 " [none, none, c4]
+ < 8, 1> " 外側消去 " !OUTSIDE!
+ < 9, 1> " 外側破線 " !OUTSIDE_F!
+ <10, 1> " 内側切出し " !CUTOFF!
+ <11, 1> " 出力 PIC " !OUTPIC!
+ <12, 1> " 二点移動 " !VPP!
+ <14, 1> " 下図処理方法 " [none, none, c4]
+ <15, 1> " 線上も対象 " !OFF!
+ <16, 1> " 線上は除外 " !ONN!
+ <18, 1> " A C T より " !USEACT!
+ <19, 1> " 内側指示 " !INSIDE!
+ <20, 1> " 全線種 " !SKIP!
#else // NOMODIFIER
+ < 3, 1> " 二点移動 " !VPP!
+ < 4, 1> " A C T より " !USEACT!
+ < 5, 1> " 内側指示 " !INSIDE!
#endif // End of NOMODIFIER

```

Pagename = mdf_clipper3 を以下のように変更

```

Menu [mdf_clipper3, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 1, 1> " 内側消去 " [none, none, c4]
+ < 2, 1> " 全線種 " !INSIDE!
+ < 3, 1> " 中心線残す " !INSIDE_C!
+ < 4, 1> " 内側破線 " [none, none, c4]
+ < 5, 1> " 線幅 1 " !INSIDE_F!
+ < 6, 1> " 線幅継承 " !INSIDE_W!
+ < 7, 1> " その他 " [none, none, c4]
+ < 8, 1> " 外側消去 " !OUTSIDE!
+ < 9, 1> " 外側破線 " !OUTSIDE_F!
+ <10, 1> " 内側切出し " !CUTOFF!
+ <11, 1> " 出力 PIC " !OUTPIC!
+ <12, 1> " 二点移動 " !VPP!
+ <14, 1> " 下図処理方法 " [none, none, c4]
+ <15, 1> " 線上も対象 " !OFF!
+ <16, 1> " 線上は除外 " !ONN!
+ <18, 1> " A C T より " !USEACT!
#else // NOMODIFIER
+ < 4, 1> " 二点移動 " !VPP!
+ < 5, 1> " A C T より " !USEACT!
#endif // End of NOMODIFIER

```

2.5 製図アイテム

2.5.1 寸法値移動のデフォルトオプションを「寸法線上」に変更

[リクエスト番号]: E16019
 [コマンド]: DTEXT/MOVE
 [リリース]: 19.01
 [区分]: 変更
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/11/18
 [担当者]: AYO

【要望】

寸法値移動のデフォルトオプションが「自由移動」になっているので、殆んどの場合に「寸法線上」を指定している。頻度が高い「寸法線上」をデフォルトオプションにして欲しい。

【対応】

寸法値移動コマンド選択時のデフォルトオプションを「寸法線上」に変更しました。

2.5.2 寸法値の角度を変更する

[リクエスト番号]: E18071
 [コマンド]: DTEXT/MOVE
 [リリース]: 18.11
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2008/03/12
 [担当者]: AYO

【要望】

角度寸法の寸法値の角度を変更した後で寸法公差を変更すると、寸法値の角度が元に戻ってしまう。寸法公差を変更しても寸法値の角度を変更しないようにして欲しい。

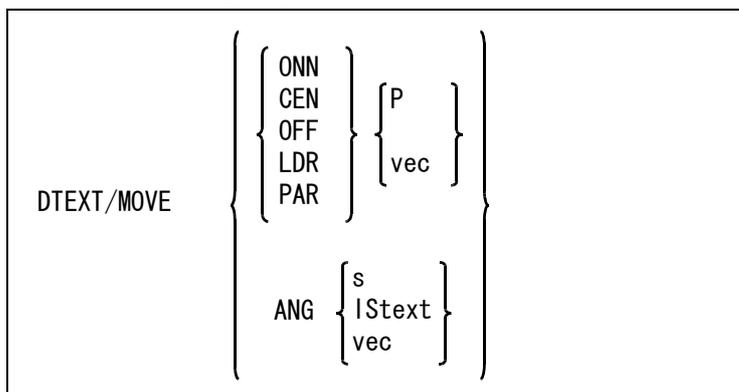
【対応】

寸法公差を変更すると寸法要素の再作成を行います。そのために変更されていた寸法値の角度は元に戻ります。

要望通りにエンハンスすることはできませんが、操作性向上のために「寸法値移動時に寸法値の角度を変更する」機能を追加しました。

【構文】

- 寸法テキストを移動する



寸法値の移動方法をつぎのいずれかで指示する。

- ONN : 寸法線上を移動する。(省略時)
このオプションが指定されると、寸法値は寸法線の中央に移動する。
寸法値の角度は寸法線中央部分の寸法線の角度と平行になる。
- GEN : 寸法値は寸法線の中央に移動する。
寸法値の角度は寸法線中央部分の寸法線の角度と平行になる。
- OFF : 自由な位置に移動する。
寸法値に引出し線は付けない。
寸法値の角度は変更しない。
- LDR : 自由な位置に移動する。
移動した寸法値に引出し線を付加する。
寸法値の角度は0度または90度に調整される。
- PAR : 自由な位置に移動する。
移動した寸法値に引出し線を付加する。
寸法値の角度は変更しない。

移動先をつぎのいずれかで指示する。

- P : 寸法値の位置をテンポラリポイントで入力する。
vec : 寸法値の移動量をベクトルで入力する。

寸法値の角度を変更する。

- ANG : 寸法値の角度を数値(度)、既存のテキストの選択またはベクトルで入力する。
単純に寸法値の角度を変更するだけである。引出線の角度などは調整しない。
角度寸法線の寸法値の角度を0度にする場合などに使用する。

【メニュー】

ACADOSM.MEN を以下のように変更

```
Pagename = mdf_moddim2
Menu [mdf_moddim2, 5, 17, c3]
+ < 5, 1> " 引出線なし " [none, none, c4]
+ < 6, 1> " 寸法値位置 " [none, none, c4]
+ < 7, 1> " 寸法線上 " !ONN!
+ < 8, 1> " 中央 " !CEN!
+ < 9, 1> " 自由移動 " !OFF!
+ <11, 1> " 引出線付加 " [none, none, c4]
+ <12, 1> " 寸法値角度 " [none, none, c4]
+ <13, 1> " 水平/垂直 " !LDR!
+ <14, 1> " 調整しない " !PAR!
+ <16, 1> " 寸法値角度 " [none, none, c4]
+ <17, 1> " 変更 " !ANG!
```

2.5.3 公差変更で修正前の値を入力領域に表示

```
[ リクエスト番号 ]: E16023
[ コマンド ]: ULTOL、UTOL、LTOL
[ リリース ]: 19.01
[ 区分 ]: 変更
[ メニュー ]: なし
[ 更新日 ]: 2009/11/24
[ 担当者 ]: AYO
```

【要望】

公差変更で、モデルタイトルと同様に " ↑ " キーで現在の公差が入力領域に表示されるようにして欲しい。

【対応】

"↑"キーではなく、寸法値変更やテキスト変更コマンドと同様に、該当寸法が選択されたときに公差値を入力領域に表示するようにしました。

2.5.4 注記や寸法値に打消し線をいれる

[リクエスト番号]: E18112
 [コマンド]: TEXT/DENIAL、DTEXT/DENIAL
 [リリース]: 19.02
 [区分]: 新コマンド
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2010/02/10
 [担当者]: AYO

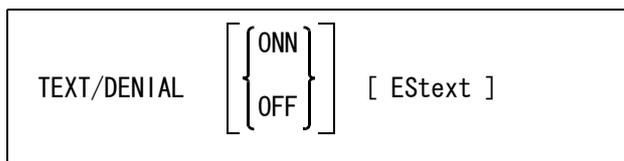
【要望】

注記や寸法値に打消し線（文字の上に二重線）をいれる機能を追加して欲しい。

【対応】

注記に打消し線を入れるコマンドと寸法値に打消し線をいれるコマンドを追加しました。

●テキスト打消し線を表示または消去する



打消し線を表示するか消去するかを指示する。

ONN : テキスト打消し線を表示する。

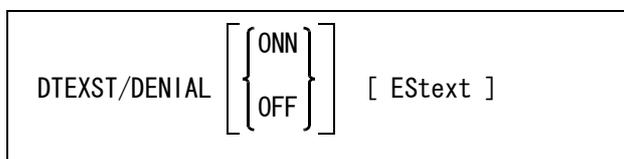
OFF : テキスト打消し線を消去する。

ONN も OFF も指示しなければ、テキスト打消し線があれば除去しなければ表示する。

修正するテキストを選択する。

EStext : テキストを選択する。アイテムにテキストが1つだけしかない時は必要ない。

●寸法値打消し線を表示または消去する



打消し線を表示するか消去するかを指示する。

ONN : 寸法値打消し線を表示する。

OFF : 寸法値打消し線を消去する。

ONN も OFF も指示しなければ、寸法値打消し線があれば除去、なければ表示する。

修正する寸法値を選択する。

EStext : 寸法値を選択する。アイテムに寸法値が1つだけしかない時は必要ない。

●製図用定数の値を変更する

打消し線の間隔

TEXT/DENIALGAP s : 二重線の間隔。(0.0 ~ 327.0)

打消し線の端部延長量

TEXT/DENIALOVS s : オーバーシュートの長さ。(0.0 ~ 327.0)

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

```
V [ 37, 1, 87] !ETEXT/DENIALGAP!
V [ 37, 1, 88] !ETEXT/DENIALOVS!
V [ 53, 1, 87] !TEXT/DENIALGAP!
V [ 53, 1, 88] !TEXT/DENIALOVS!
+ [ 82, 1, 22] !TEXT/DENIAL!
+ [ 82, 2, 14] !DTEXT/DENIAL!
```

ACADOSM.MEN に以下の行を追加

```
Pagename = mod_dim1
+ <17, 1> " 打消し線 " !DTEXT/DENIAL! [mod_dim1, dummy5, c0]
Pagename = mod_text
+ <15, 1> " 打消し線 " !TEXT/DENIAL! [mod_text, dummy5, c0]
```

ACADRVP.MEN

Pagename = rvp_drf に以下の行を追加

```
+ <23, 1> " 打消し線の間隔 " !TEXT/DENIALGAP!
+ <24, 1> " 打消し線の端部延長量 " !TEXT/DENIALOVS!
```

Pagename = rvp_drfedit に以下の行を追加

```
+ <25, 1> " 打消し線の間隔 " !ETEXT/DENIALGAP!
+ <26, 1> " 打消し線の端部延長量 " !ETEXT/DENIALOVS!
```

2.5.5 注記に二重線の下線をいれる

```
[ リクエスト番号 ]: E19012
[ コマンド       ]: TEXT/DOUBLE
[ リリース      ]: 19.02
[ 区分         ]: 新コマンド
[ メニュー      ]: あり
[ 更新日       ]: 2010/02/10
[ 担当者       ]: AYO
```

【要望】

注記に二重線の下線をいれる機能を追加して欲しい。

【対応】

注記に二重線の下線を入れるコマンドを追加しました。

●テキストに二重下線を表示または消去する

TEXT/DOUBLE	$\left[\begin{array}{c} \text{ONN} \\ \text{OFF} \end{array} \right]$	[EStext]
-------------	--	------------

二重下線を表示するか消去するかを指示する。

- ONN : 二重下線を表示する。
 OFF : 二重下線を消去する。
 ONN も OFF も指示しなければ、二重下線があれば除去、なければ表示する。

修正するテキストを選択する。

EStext : テキストを選択する。アイテムにテキストが1つだけしかない時は必要ない。

●製図用定数の値を変更する

二重下線 二番目の下線と文字の間隔

TEXT/DOUBLEGAP s : 二番目の下線と文字の間隔。(0.0 ~ 327.0)
 一番目の下線は「枠/下線と文字の間隔 上下」で指定された位置になる。
 ここでは二重線のもう一方の線と文字の間隔を指定する。

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

V [37, 1, 89] !ETEXT/DOUBLEGAP!
 V [53, 1, 89] !TEXT/DOUBLEGAP!
 + [82, 1, 23] !TEXT/DOUBLE!

ACADOSM.MEN

Pagename = mod_text

+ <14, 1> "二重下線" !TEXT/DOUBLE! [mod_text, dummy5, c0]

ACADRVP.MEN

Pagename = rvp_drf に以下の行を追加

+ <22, 1> "二重下線と文字の間隔" !TEXT/DOUBLEGAP!

Pagename = rvp_drfedit に以下の行を追加

+ <24, 1> "二重下線と文字の間隔" !ETEXT/DOUBLEGAP!

2.5.6 製図一括修正の文字高さ倍率を記憶

[リクエスト番号]: E20037
 [コマンド]: DRF/EDIT
 [リリース]: 19.14、20.07
 [区分]: 設定追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2015/05/27
 [担当者]: AYO

【要望】

製図一括修正で入力した値（文字高さ倍率）を記憶しておいて欲しい。

【対応】

製図一括修正で入力した値（文字高さ倍率）を製図定数領域に記憶するよう修正しました。

2.5.7 製図一括修正：構文を変更しました

[リクエスト番号]: E20038
 [コマンド]: DRF/EDIT
 [リリース]: 19.14、20.07
 [区分]: 変更
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2015/06/11
 [担当者]: AYO

【要望】

製図一括修正 (DRF/EDIT) で、編集するアイテムを選択すると現状の形状と編集後のテンポラリ形状が表示される。
見にくいので V18 までと同じように編集後の形状だけを表示して欲しい。

【対応】

次候補アイテムの選択機能のために編集直後はテンポラリ図形にしています。
トリムと同じ様に、最初の <CE> で編集を確定し、テンポラリ図形のないときの <CE> でコマンドを終了するように構文を変更しました。

2.6 結合アイテム

2.6.1 シンボル・サブモデル配置のドラッグング

[リクエスト番号]: E18041
 [コマンド]: SYM、SUB
 [リリース]: 18.02
 [区分]: 変更
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2007/07/27
 [担当者]: AYO

【要望】

シンボル配置で回転角度や反転指定をした場合、<CE> を入力しないとドラッグングが行われない。<CE> なしでドラッグングして欲しい。

【対応】

シンボル配置、サブモデル配置ともに<CE> なしでドラッグングするように修正しました。

2.6.2 配置済みシンボルからシンボル配置情報を設定する

[リクエスト番号]: E17013
 [コマンド]: SYM
 [リリース]: 18.01
 [区分]: 変更
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2006/10/03
 [担当者]: AYO

【要望】

シンボル配置で、配置済みのシンボルを選択してシンボル名を指定するときに、同時に縮尺値も選択したシンボルと同じ値に設定して欲しい。

【対応】

配置済みのシンボルを選択して、すべての配置情報（シンボル名、角度、縮尺、反転）を設定する機能を追加しました。また、角度や縮尺を指定するときに、配置済みのシンボルと同じ値を設定する機能を追加しました。

【構文】

- シンボルを配置する

$$\text{SYM} \left[\left[\begin{array}{l} \text{ALL IS} \\ \text{[NME]} \left\{ \begin{array}{l} \text{name} \\ \text{IS} \end{array} \right\} \end{array} \right] \right]^+ \left[\text{ANG} \left\{ \begin{array}{l} \text{s} \\ \text{vec} \\ \text{IS} \end{array} \right\} \right]^* \left[\text{SCF} \left\{ \begin{array}{l} \text{s} \\ \text{IS} \end{array} \right\} \right]^* \left[\text{XSCF} \left\{ \begin{array}{l} \text{s} \\ \text{IS} \end{array} \right\} \right]^*$$

$$\left[\text{YSCF} \left\{ \begin{array}{l} \text{s} \\ \text{IS} \end{array} \right\} \right]^* \left[\begin{array}{l} \text{XMIR} \\ \text{YMIR} \end{array} \right]^* \left[\text{DSP} \right]^* \left[\begin{array}{l} \text{DRGITM} \\ \text{DRGBOX} \end{array} \right] \langle \text{CE} \rangle \left[\text{P} \right]^+ \langle \text{CE} \rangle$$

配置済みのシンボルで、シンボル名、配置角度、配置縮尺値、反転指定を設定する。
 ALL IS : 配置済みのシンボルを選択する。これから配置するシンボルの名前、配置角度、配置縮尺値、反転指定を選択したシンボルと同じ値にする。

配置角度を指定する。省略時は0度。配置原点を中心として回転配置する。
 ANG IS : 配置角度を参照する、配置済みのシンボルを選択する。

配置縮尺値を指定する。省略すると X および Y 方向縮尺値とも 1。
 SCF IS : X および Y 方向縮尺値を参照する、配置済みのシンボルを選択する。
 XSCF IS : X 方向縮尺値を参照する、配置済みのシンボルを選択する。
 YSCF IS : Y 方向縮尺値を参照する、配置済みのシンボルを選択する。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

```
Pagename = mdf_sym を以下のように修正
#ifdef MODIFIER
+ < 1, 1> "パラメータ設定" [none, none, c4]
+ < 2, 1> "シンボル名" !NME!
+ < 3, 1> "検索" !LIST/SYMBOL! [list_sym, none, c2]
+ < 4, 1> "回転角度" !ANG! [angle, none, c0]
+ < 5, 1> "X Y 縮尺値" !SCF!
+ < 6, 1> "X 縮尺値" !XSCF!
+ < 7, 1> "Y 縮尺値" !YSCF!
+ < 8, 1> "X 軸反転" !XMIR!
+ < 9, 1> "Y 軸反転" !YMIR!
+ < 11, 1> "パラメータ参照" [none, none, c4]
+ < 12, 1> "シンボル要素から" !ALL!
+ < 14, 1> "ドラッグモード" [none, none, c4]
+ < 15, 1> "ボックス" !DRGBOX!
+ < 16, 1> "アイテム" !DRGITM!
+ < 18, 1> "確認表示" [none, none, c4]
+ < 19, 1> "する" !DSP!
+ < 20, 1> "しない" !OFF!
#else // NOMODIFIER
+ < 1, 1> "パラメータ設定" [none, none, c4]
+ < 2, 1> "シンボル名" !NME!
+ < 3, 1> "検索" !LIST/SYMBOL! [list_sym, none, c2]
+ < 4, 1> "X Y 縮尺値" !SCF!
+ < 6, 1> "パラメータ参照" [none, none, c4]
+ < 7, 1> "シンボル要素から" !ALL!
+ < 9, 1> "確認表示" [none, none, c4]
+ < 10, 1> "する" !DSP!
+ < 11, 1> "しない" !OFF!
#endif // End of NOMODIFIER
```

2.6.3 シンボルリストで現ピクチャのシンボル数を表示

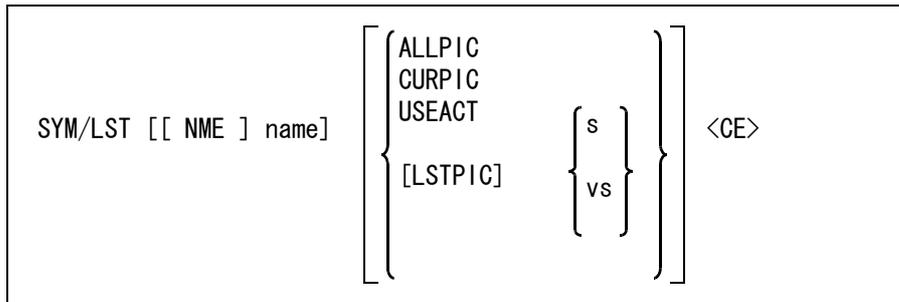
```
[ リクエスト番号 ]: E18039
[ コマンド ]: SYM/LST、SUB/LST
[ リリース ]: 19.02
[ 区分 ]: 変更
[ メニュー ]: なし
[ 更新日 ]: 2010/03/03
[ 担当者 ]: AYO
```

【要望】

シンボルリストの画面表示でシンボル名と全体の個数が表示されているが、現ピクチャの個数も同時に表示して欲しい。

【対応】

シンボルリストおよびサブモデルリストの画面表示に現ピクチャの個数も表示するようにしました。また、リストファイル名は必ず指定しなければなりませんでした。指定しない場合は、ファイル出力を省略して、画面表示だけを行うように変更しました。



●シンボルをリストする

シンボルリストファイル名を指示する。

NME name : シンボルリストファイル名を入力する。ワイルドカードを使用できる。
省略したときはファイル出力はしないで、画面表示のみを行う。
どこのシンボルをリストするかをつぎのいずれかの方法で指示する。

ALLPIC : モデル中のすべてのシンボルをリストする。(省略時)

CURPIC : アクティブピクチャのシンボルをリストする。

USEACT : アクティブリスト中のシンボルをリストする。

LSTPIC s, vs : 指示したピクチャのシンボルをリストする。

ピクチャ番号を入力するか、ビューポートを選択する。

画面表示する内容。

ALLPIC の場合は、シンボル名、全モデルの個数、現ピクチャの個数を表示する。

その他の場合は、シンボル名、指定されたピクチャまたはアクティブリスト中のシンボルの個数を表示する

2.6.4 モデル表示で <SP> や <BS> で前後のモデルを表示する

```

[ リクエスト番号 ]: E17021
[ コマンド       ]: MODEL/DSP、SUB/DSP、SYM/DSP
[ リリース      ]: 19.02
[ 区分         ]: 変更
[ メニュー      ]: あり
[ 更新日       ]: 2010/01/06
[ 担当者       ]: AY0

```

【要望】

モデル表示で、モデル一覧から表示するモデルを選択した場合も <SP> や <BS> で前後のモデルを表示するようにして欲しい。

【対応】

モデル表示、サブモデル表示、シンボル表示を要望のように修正しました。
構文の変更はありませんが、メニューの表現を以下のように変更しました。

- " 図形表示 "

指定されたモデルを図形表示する。ワイルドカードが指定できる。
省略時の状態であり、今回の変更で明示的にメニューに記述しました。
- " 一覧表示 "

以前の " 一覧後表示 " を " 一覧表示 " に変更しました。
指定されたモデルファイル名を一覧表示する。ワイルドカードが指定できる。
"A*" などの絞込みができる。
一覧表から選択されたモデルの図形を表示する。<SP> や <BS> で前後のモデルを表示する。
- " 全一覧後表示 " を廃止

" 全一覧後表示 " は旧メニューでは " 一覧後表示 " → " 全モデル " を実行するマクロが埋め込まれていました。
このメニューは廃止しました。" 一覧表示 " → " 全モデル " と選択することで同じことが行えます。

【構文】

- モデルファイルを画面に表示する。

MODEL/DSP	$\left[\left[\begin{array}{l} \text{[DSPPIC] s} \\ \text{ALLPIC} \\ \text{CURSLO} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} \text{ACTPLN} \\ \text{TMPPLN} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} \text{NME} \\ \text{FMN} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} \text{ALL} \\ \text{name} \end{array} \right]^+ \right.$
-----------	--

図形表示かモデルファイル名の一覧表示かを指示する。

NME : 以後に指定されたモデルファイルの図形を表示する。(省略時)

FMN : 以後に指定されたモデルファイル名の一覧表を表示する。

図形表示または一覧表示するモデルファイル名を指定する。

ALL : 全モデル。

name : モデルファイル名を指定する。ワイルドカードが指定できる。

- サブモデルを画面に表示する。

SUB/DSP	$\left[\left[\begin{array}{l} \text{[DSPPIC] s} \\ \text{ALLPIC} \\ \text{CURSLO} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} \text{ACTPLN} \\ \text{TMPPLN} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} \text{NME} \\ \text{FMN} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} \text{ALL} \\ \text{name} \end{array} \right]^+ \right.$
---------	--

図形表示かサブモデルファイル名の一覧表示かを指示する。

NME : 以後に指定されたサブモデルファイルの図形を表示する。(省略時)

FMN : 以後に指定されたサブモデルファイル名の一覧表を表示する。

図形表示または一覧表示するサブモデルファイル名を指定する。

ALL : 全サブモデル。

name : サブモデルファイル名を指定する。ワイルドカードが指定できる。

- シンボルを画面に表示する。

SYM/DSP	$\left[\begin{array}{l} \text{ACTPLN} \\ \text{TMPPLN} \end{array} \right] \left\{ \begin{array}{l} \text{NME} \\ \text{FNM} \end{array} \right\} \left[\begin{array}{l} \text{ALL} \\ \text{name} \end{array} \right] +$
---------	---

図形表示かシンボルファイル名の一覧表示かを指示する。

NME : 以後に指定されたシンボルファイルの図形を表示する。(省略時)

FNM : 以後に指定されたシンボルファイル名の一覧表を表示する。

図形表示または一覧表示するシンボルファイル名を指定する。

ALL : 全シンボル。

name : シンボルファイル名を指定する。ワイルドカードが指定できる。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_mdldsp を以下のように変更

```
Menu [mdf_mdldsp, 3, 17, c3]
+ < 6, 1> " 図形／一覧表 "           [none, none, c4]
+ < 7, 1> " 図形表示 "             !NME!
+ < 8, 1> " 一覧表示 "             !FNM!
+ <10, 1> " 全モデル "             !ALL!
#ifdef MODIFIER
+ <12, 1> " 表示ピクチャ "         [none, none, c4]
+ <13, 1> " 指定ピクチャ " !DSPPIC!
+ <14, 1> " 全ピクチャー " !ALLPIC!
+ <15, 1> " S L O 合わせ " !CURSLO!
+ <17, 1> " 表示色 "               [none, none, c4]
+ <18, 1> " カラー "             !ACTPLN!
+ <19, 1> " 単色 "             !TMPPLN!
#endif // End of MODIFIER
```

Pagename = mdf_subdsp を以下のように変更

```
Menu [mdf_subdsp, 3, 17, c3]
+ < 7, 1> " 図形／一覧表 "           [none, none, c4]
+ < 8, 1> " 図形表示 "             !NME!
+ < 9, 1> " 一覧表示 "             !FNM!
+ <11, 1> " 全サブモデル " !ALL!
#ifdef MODIFIER
+ <13, 1> " 表示ピクチャ "         [none, none, c4]
+ <14, 1> " 指定ピクチャ " !DSPPIC!
+ <15, 1> " 全ピクチャー " !ALLPIC!
+ <16, 1> " S L O 合わせ " !CURSLO!
+ <18, 1> " 表示色 "               [none, none, c4]
+ <19, 1> " カラー "             !ACTPLN!
+ <20, 1> " 単色 "             !TMPPLN!
#endif // End of MODIFIER
```

Pagename = mdf_symdsp を以下のように変更

```
Menu [mdf_symdsp, 3, 17, c3]
+ <10, 1> " 図形／一覧表 "           [none, none, c4]
+ <11, 1> " 図形表示 "             !NME!
+ <12, 1> " 一覧表示 "             !FNM!
+ <14, 1> " 全シンボル "           !ALL!
```

```

#ifdef MODIFIER
+ <16, 1> " 表示色 " [none, none, c4]
+ <17, 1> " カラー " !ACTPLN!
+ <18, 1> " 単色 " !TMPPLN!
+ <20, 1> " 画面分割数 " !NUM!
#endif // End of NOMODIFIER

```

2.6.5 サブモデル配置で BLANK 要素を含めない

```

[ リクエスト番号 ]: E18007
[ コマンド ]: SUB、SUB/UPD
[ リリース ]: 19.00
[ 区分 ]: 変更
[ メニュー ]: なし
[ 更新日 ]: 2009/01/21
[ 担当者 ]: AYO

```

【要望】

サブモデル配置で、サブモデル元の BLANK 要素はサブモデルに含めないで欲しい。

【対応】

サブモデル配置で、サブモデルまたは複合アイテムとして配置する場合は BLANK 要素を含めないように変更しました。分解して配置する場合は BLANK 要素は BLANK のままで読み込みます。

2.6.6 サブモデル更新でビューポートのクリックでピクチャを指定する

```

[ リクエスト番号 ]: E18065
[ コマンド ]: SUB/UPD
[ リリース ]: 19.00
[ 区分 ]: 追加
[ メニュー ]: なし
[ 更新日 ]: 2009/01/21
[ 担当者 ]: AYO

```

【要望】

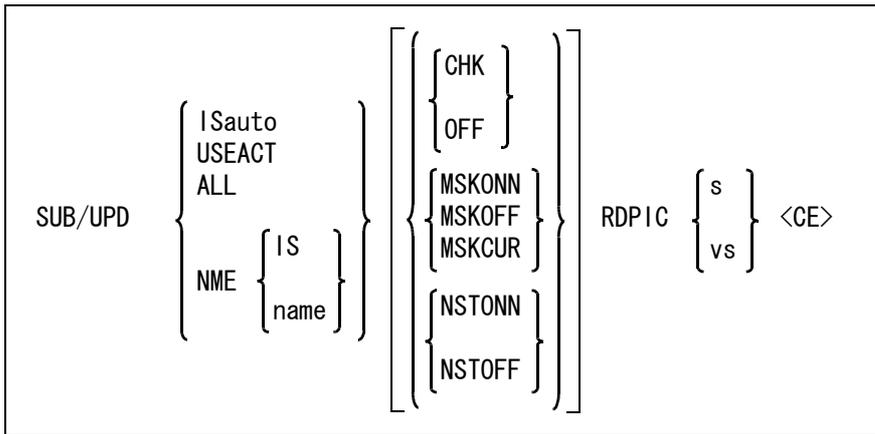
サブモデル更新でピクチャ変換する時に、ビューポートのクリックでピクチャ指定ができるようにして欲しい。

【対応】

ピクチャ指定時に、クリックされたビューポートのピクチャにする機能を追加しました。

【構文】

●サブモデルアイテムを更新する



配置ピクチャを変更する。

RDPIC : 変換後のピクチャを番号入力かまたはビューポートのピックで指定する。

2.6.7 サブモデル更新情報表示で全候補を更新にする

[リクエスト番号]: E18018
 [コマンド]: SUB/ULS
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/01/21
 [担当者]: AYO

【要望】

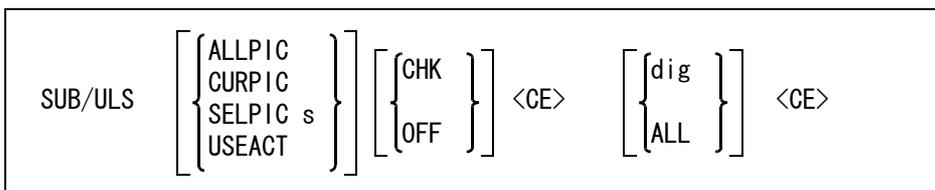
サブモデル更新情報表示で、全候補が更新になるコマンド修飾子を追加して欲しい。

【対応】

全候補が更新になるコマンド修飾子を追加しました。

【構文】

●サブモデルの元図に変更が加えられたか一覧表示する



一覧されている候補を選択する。

dig : ピックされたサブモデルの更新する/しないを反転する。
 ALL : 一覧されている全候補を更新にする。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_subuls に以下の行を追加

+ <18, 1> " 一覧表 " [none, none, c4]

+ <19, 1> " 全候補を選択 " !ALL!

2.6.8 サブモデル更新情報表示にモデル主タイトルを表示する

[リクエスト番号]: E18025
 [コマンド]: SUB/ULS
 [リリース]: 18.02
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2007/03/28
 [担当者]: AYO

【要望】

サブモデル更新情報表示の一覧表にサブモデルのモデル主タイトルを表示して欲しい。

【対応】

モデル定数の「モデル一覧のタイトル表示」がオンの場合に、サブモデル名の下段にモデル主タイトルを表示するようにしました。

2.6.9 ピクチャ参照

[リクエスト番号]: E17020
 [コマンド]: -
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2009/01/21
 [担当者]: AYO

【要望】

同一モデル内に、部品図としてのピクチャと、そのピクチャをサブモデルとして配置した組み図用のピクチャを持っている。流用設計や管理上の都合でモデル名を変更すると部品図としてのサブモデルのリンクが切れてしまう。

モデル名を変更してもリンクが切れないようにして欲しい。

現状では手作業でサブモデル名を変更しなければならない。

【対応】

「ピクチャ参照」機能を追加しました。

●ピクチャ参照

同一モデル内に、部品図としてのピクチャと、そのピクチャをサブモデルとして配置した組み図用のピクチャを持つ場合に、モデル名を変更しても自分自身のモデル内のピクチャであることを認識する機能をピクチャ参照と呼びます。

ピクチャ参照機能を使用すると若干のコマンドに制限が発生します。そのために、ピクチャ参照機能を使用するかどうかは選択できるようになっています。標準では、ピクチャ参照機能は使用しません。

●ピクチャ参照の概要

サブモデルアイテムは、サブモデル名（参照元のモデル名）と参照元のピクチャ番号を持ちます。

自分自身のピクチャをサブモデルとして配置した場合は、モデル名とサブモデル名が同一ですが、モデル名を変更するとモデル名とサブモデル名が一致なくなり、リンクが切れてしまいます。

サブモデルアイテムに新たにピクチャ参照フラグを持つようにしました。

サブモデル配置時に、自分自身のモデルのピクチャを配置して作成したサブモデルアイテムはピクチャ参照フラグをオンにして配置します。

モデル名が変更された場合にはピクチャ参照フラグを利用し、サブモデル名をモデル名と同じ名前に変更することでリンクを保ちます。

●ピクチャ参照を使用する

ピクチャ参照機能を使用する場合は以下の二つの方法のどちらかを指定します。両方が指定されていてもかまいません。

- ・ Advance CAD の起動オプションで指定する

起動時のオプションとして `-DEFINE_ENABLE_PICTURE_REFERENCE` と指定します。

起動例)

```
acad. exe -DEFINE_ENABLE_PICTURE_REFERENCE
```

- ・ コンフィグレーションファイルで指定する

コンフィグレーションファイル内に1カラム目から `ENABLE_PICTURE_REFERENCE` と記述します。

ACAD.SET の例)

```
/
/ ACAD.SET
/
ENABLE_PICTURE_REFERENCE
```

●ピクチャ参照を使用した場合の制限

ピクチャ参照機能の完全な保障ができないために以下のコマンドに若干の制限を設けました。

- ・ モデル呼出し (MODEL/READ)

新規モードで、読み込みピクチャを指定するかまたは選択マスクを参照するとしてのモデル呼出しはできません。この場合は以下のエラーメッセージを表示します。

「ピクチャ参照機能が設定されている。マスクやピクチャ指定はできません。」

- ・ モデルタイトル (MODEL/TITLE)

モデルタイトル項目番号 202 「モデル名」は入力禁止になります。モデル名の変更はモデル保存で行う必要があります。

モデルタイトルテンプレートに項目番号 202 について記述されていると、その記述を優先します。その結果、入力可能になる場合があります。モデルタイトルコマンドでモデル名を変更した場合は、直後にモデル保存した方が安全です。

●ピクチャ参照を処理するコマンド

ピクチャ参照のために用意したコマンドはありません。配置はサブモデル配置コマンドで、更新はサブモデル更新コマンドを使用します。

モデルファイル内のピクチャを読み込んで配置するので、サブモデル配置やサブモデル更新をする前にモデルファイルを更新しておかないと古い形状で配置します。

各コマンドで行っているピクチャ参照処理は以下の通り。入れ子のサブモデルも同様に処理します。

注意)

現在のモデル名が標準の拡張子でない場合はピクチャ参照処理は行いません。たとえば、トラブル対応で .OLD や .PLT ファイルを読み込んだ場合などです。このような場合は、正しいモデル名で保存してから作業をしてください。

- ・サブモデル配置 (SUB)

配置されるサブモデル名と現在のモデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにして配置する。

- ・サブモデル更新 (SUB/UPD)

更新されるサブモデル名と現在のモデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにして更新する。

- ・サブモデル名称変更 (SUB/RNM)

変更後のサブモデル名と現在のモデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにする。

- ・モデル保存 (MODEL/WRITE) : 全ピクチャを保存する場合

ピクチャ参照フラグがオンのサブモデルは、サブモデル名を保存するモデル名に変更して保存する。(モデル保存時にモデル名を変えて保存する場合への対応)

ピクチャ参照フラグがオフのサブモデルは、サブモデル名と保存先モデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにして保存する。

- ・モデル保存 (MODEL/WRITE) : その他の保存の場合

サブモデル名と保存先モデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにして保存する。

- ・ピクチャ書込み (MODEL/RPLPIC)

サブモデル名と保存先モデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにして保存する。

- ・モデル呼出し (MODEL/READ) : 新規モードで呼び出す場合

ピクチャ参照フラグがオンのサブモデルは、サブモデル名を呼出しモデル名に変更して配置する。(Explorerなどでファイル名を変更した場合への対応)

ピクチャ参照フラグがオフのサブモデルは、サブモデル名と呼出しモデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにして配置する。
(V18以下のモデルやピクチャ参照機能を使用しないで作成したモデルへの対応)

- ・モデル呼出し (MODEL/READ) : 追加モードで呼び出す場合

サブモデル名と現在のモデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにして配置する。

- ・共通データ書込み (COMMON/WRITE)

- ・簡易コピー (WCP/COPY、WCP/CUT)

ピクチャ参照フラグは常にオフにして出力する。

- ・ 共通データ読み込み (COMMON/READ)
- ・ ペースト (WCP/PASTE)

サブモデル名と現在のモデル名をフルパスで比較する。一致する場合はピクチャ参照フラグをオンに、一致しない場合はオフにして配置する。

新規モードでの共通データ読み込みの場合は、現在のモデル名が空になるのでピクチャ参照フラグは常にオフで配置される。

- ・ ピクチャ移動 (PIC/MOVE)

サブモデル名と現在のモデル名のフルパスが一致し、参照元のピクチャ番号が移動前のピクチャの場合、参照元ピクチャ番号を移動後のピクチャに変更する。

ピクチャ参照フラグは変更しない。

? この処理は、ピクチャ参照機能を使用しない場合も行われる。

- ・ ベリファイ (VER)

サブモデルアイテムをベリファイした場合、ピクチャ参照フラグがオンの場合はアイテムタイプを「ピクチャ参照」と表示し、システムレジスタ #VERPICREF の内容を 1 にする。

- 参考：ピクチャ参照を使用しない場合のピクチャ参照フラグの取り扱い

- ・ モデル呼出し (MODEL/READ)

新規モードで全ピクチャを呼び出す場合は、ピクチャ参照フラグを変更しない。その他の場合は、ピクチャ参照フラグをオフにして配置する。

- ・ モデル保存 (MODEL/WRITE)

全ピクチャを保存する場合は、ピクチャ参照フラグを変更しない。その他の場合は、ピクチャ参照フラグをオフにして保存する。

- ・ ピクチャ書込み (MODEL/RPLPIC)
- ・ 共通データ書込み (COMMON/WRITE)
- ・ 簡易コピー (WCP/COPY、WCP/CUT)

ピクチャ参照フラグをオフにして出力する。

- ・ サブモデル配置 (SUB)
- ・ サブモデル更新 (SUB/UPD)
- ・ サブモデル名称変更 (SUB/RNM)
- ・ 共通データ読み込み (COMMON/READ)
- ・ ペースト (WCP/PASTE)

ピクチャ参照フラグをオフにして配置する。

2.7 アイテムの編集

2.7.1 移動コマンドでの移動量の表示

[リクエスト番号]: E16022
 [コマンド]: MOVE、MOVE/HOR、MOVE/VRT
 [リリース]: 19.01
 [区分]: 変更
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2009/11/24
 [担当者]: AYO

【要望】

移動コマンドでの移動量の表示を、補助座標が有効なときは補助座標系での X 軸方向成分・Y 軸方向成分を表示して欲しい。

【対応】

補助座標が有効な場合は補助座標系での移動量と、絶対座標系での移動量の両方を表示するように変更しました。

例

補助座標が有効なとき

移動量 XW 1 0 0 X 7 0 . 7 1
 移動量 YW 0 Y 7 0 . 7 1

?XW と YW は補助座標系での移動量。X と Y は絶対座標系での移動量。

補助座標が有効でないとき

移動量 X 7 0 . 7 1
 移動量 Y 7 0 . 7 1

?X と Y は絶対座標系での移動量。

2.7.2 切出更新で移動後の位置へ更新して欲しい

[リクエスト番号]: E18087
 [コマンド]: IMOVE、IMOVE/HOR、IMOVE/VRT、MOVE、MOVE/HOR、MOVE/VRT、DRAG
 [リリース]: 18.12
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2008/08/12
 [担当者]: AYO

【要望】

切出抽出で作成したアイテムを移動した後で切出更新すると、移動前の位置に更新されてしまう。移動後の位置に更新するかまたは移動コマンドでは移動できないようにして欲しい。

【対応】

切出抽出で作成したアイテムを、部分的に陰線処理をしたり移動することは多々発生すると思われまます。

切出抽出コマンドで関連付けをオンにして作成されたアイテムを選択したときに

- ・切出抽出で作成されたアイテムが選択されたことをメッセージで表示する。
- ・選択されている切出アイテムの数をステータス領域に表示する。

ように、以下のコマンドを修正しました。

- ・ IMOVE、IMOVE/HOR、IMOVE/HOR
- ・ MOVE、MOVE/HOR、MOVE/HOR
- ・ DRAG

2.7.3 X Y 縮尺値の入力方法を統一

[リクエスト番号]: E18095
[コマンド]: EXPAND、SYM、SYM/CMP、SUB
[リリース]: 19.00
[区分]: 変更
[メニュー]: なし
[更新日]: 2009/03/18
[担当者]: AYO

【要望】

拡大縮小で縮尺値の入力が、最初の入力は X 縮尺と Y 縮尺になるが、2度目の入力では Y 縮尺だけが設定される。最初の入力を間違えた場合、次に指定した値が Y だけに設定されることになり、間違った結果を招きやすい。

X 縮尺だけまたは Y 縮尺だけを設定する機能があるので、X Y 縮尺の設定では常に X 縮尺と Y 縮尺を同時に設定して欲しい。

【対応】

拡大縮小、シンボル配置、複合シンボル配置、サブモデル配置コマンドの X Y 縮尺指定を、X Y 縮尺値だけの入力とするように変更しました。

- アイテムを拡大または縮小する

EXPAND [SCF] s

SCF s : X 方向と Y 方向の倍率を数値で指定する。

- シンボルを配置する

SYM SCF s

SCF s : X 方向と Y 方向の縮尺値を数値で指定する。

- 複数シンボルをまとめて一度に配置する

SYM/CMP SCF s

SCF s : X 方向と Y 方向の縮尺値を数値で指定する。

- サブモデルを配置する

SUB SCF s

SCF s : X 方向と Y 方向の縮尺値を数値で指定する。

2.7.4 コピーペーストでの配置に反転機能を追加

[リクエスト番号]: E18032
[コマンド]: WCP/PASTE
[リリース]: 18.02
[区分]: 追加
[メニュー]: あり
[更新日]: 2007/07/25
[担当者]: AYO

【要望】

ペーストコマンドで配置するとき、現在は回転角度だけが指定できるが、反転機能も付けて欲しい。

【対応】

ペーストコマンドに反転機能を追加しました。

【構文】

- アイテムをペーストファイルからペーストする

WCP/PASTE	$\left[\begin{array}{c} \text{XMIR} \\ \text{YMIR} \end{array} \right]$	$\left[\text{[ANG]} \begin{array}{c} \text{s} \\ \text{vec} \end{array} \right]$	[P] + <CE>
-----------	--	---	--------------

反転して配置したいときに指定する。

XMIR : X 軸反転の指示、または解除スイッチ。
 YMIR : Y 軸反転の指示、または解除スイッチ。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_wcpp に以下の行を追加

+ <17, 1> "X 軸反転" !XMIR!
 + <18, 1> "Y 軸反転" !YMIR!

2.7.5 切出抽出で出力先ピクチャをビューポートを選択して指定する

[リクエスト番号]: E18037
 [コマンド]: CUT_MOVE
 [リリース]: 18.02
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2007/08/15
 [担当者]: AYO

【要望】

切出抽出の出力先ピクチャの指定を、移動・回転コマンドと同様に、ビューポートを選択することで指定できるようにして欲しい。

【対応】

出力先ピクチャをビューポートを選択することで指定できるようにしました。

【構文】

- 指示した範囲のデータ部分を切り出して移動する

CUT_MOVE	$\left[\text{OUTPIC} \begin{array}{c} \text{s} \\ \text{vs} \end{array} \right]$	$\left[\begin{array}{c} \text{SCF s} \\ \text{ORG P} \\ \text{ASC} \end{array} \right]$	$\left[\begin{array}{c} \text{ONN} \\ \text{OFF} \end{array} \right]$	[IS P]+ <CE>
----------	---	--	--	----------------

出力先ピクチャを指定する。

OUTPIC : 出力先のピクチャ番号を数値で入力するかまたはビューポートを選択する。

2.8 図面配置と図面出力

2.8.1 インプレースエディット対象のピクチャを一覧図で切り替える

[リクエスト番号]: E18104
 [コマンド]: VIE
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/03/09
 [担当者]: AYO

【要望】

図面配置状態でピクチャ要素を編集する場合のウインドウ選択に、一覧図または一覧表から選択する機能を追加して欲しい。
 かなり入り組んだ S X F 部分図があり、図面配置画面からは選択しにくい。一覧図からのほうが簡単に選択できる。

【対応】

図面配置状態でアイテム編集をする場合は、VIE コマンドで編集するピクチャを選択します。配置されているピクチャウインドウを、一覧図または一覧表から選択する機能を追加しました。

【構文】

- 図面配置状態でピクチャアイテムを修正する

```
VIE { d
      { DSP
      { "*" }
```

インプレースエディットの対象ウインドウを切り換える。

ウインドウをつぎのいずれかの方法で指定する

- | | | |
|-----|---|---|
| d | : | 配置されているウインドウをデジタル化する。
インプレースエディットを終了する場合は、ウインドウ以外をデジタル化する。 |
| DSP | : | 配置されているウインドウの一覧図から選択する。
一覧図の最後には図面枠と配置ページに入力されたアイテムが表示される。
インプレースエディットを終了する場合は、これを選択する。 |
| "*" | : | 配置されているウインドウの一覧表から選択する。
一覧表の最後には図面枠が表示される。インプレースエディットを終了する場合は、これを選択する。 |

【メニュー】

ACADOSM.MEN

```
Pagename = status_vie に以下の行を追加
+ < 2, 1> " 一覧図 " !DSP!
T < 3, 1> " 一覧表 " !"*"!

```

2.8.2 インプレースエディット中に配置ウインドウの枠を表示する

[リクエスト番号]: E18077
 [コマンド]: VIE、PIC、WIN

[リリース]: 19.02
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2009/12/25
 [担当者]: AYO

【要望】

図面配置状態でのピクチャアイテムの修正（インプレースエディット）中にアクティブなピクチャ切り替えるための【AVP】ボタンを押したときに、図面配置してある各ウインドウ枠を表示して欲しい。

【対応】

インプレースエディット中に VIE、PIC、WIN コマンドが選択されたときに、配置されているウインドウの枠、原点およびピクチャ番号を表示するようにしました。

2.8.3 コピー出力にピクチャ番号を描画する

[リクエスト番号]: E18096
 [コマンド]: HCOPIY、QPLOT
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2009/02/04
 [担当者]: AYO

【要望】

コピー出力を設計時の参考資料として利用している。各ピクチャの図形と合わせて、ピクチャ番号が描画されていると便利。

【対応】

コピー出力（HCOPIY）の作画領域定義ファイルで、ピクチャ番号を描画するかどうかを指定できるようにしました。
 クイック出力（QPLOT）も同様。

●コピー出力の作画領域定義ファイルの例

```

/ file name : HCOPIY.PRM
/
A4      Template-name  "HA4"
A4      Plotter-zone   < 0 , 0 > < 259.5 , 199 >
A4      G-zone-plot    "NO"
A4      V-zone-plot    "YES"
A4      P-number-form  "PIC. %d"
A4      P-number-size  "3.0"
/
N4      Plotter-zone   < 0 , 0 > < 259.5 , 199 >
N4      G-zone-plot    "YES"
N4      V-zone-plot    "YES"
/
/ end of file

```

- カラム 1 が / の行は注釈行です。
- カラム 1 から始まる A4,N4 は、プロッタ出力プログラムに -sz オプションでサイズが指定されたとき（たとえば -szA4）、一致した行を処理の対象とします。

このオプションを指定しないときは、すべての行が処理の対象となります。実際には各キーワードの最後に定義した行が有効になります。これは6文字以内で定義します。

キーワード	内容
Template-name	“ 図面枠シンボル名 ” 使用する図面枠シンボル名を定義する。 使用しなければ、この行は不要。 例では A4 のときは HA4.SYM を使うが、N4 のときは使わない。
Plotter-zone	< 左側 X , 下側 Y > < 右側 X , 上側 Y > Graphic-zone に対応する出力領域を定義する。単位は mm 。 Graphic-zone と相似形にする。 図面枠シンボルを使うときは、図面枠シンボルの原点が 0,0 点となる。図面枠シンボルがマイナス座標を含んでいるときはその分だけオフセットされることに注意。図面枠シンボルを使わないときは、用紙の左下が 0,0 点となる。この行は必ず定義する。
G-zone-plot	“YES” または “NO” グラフィックゾーンを描画するかどうかを定義する。 描画するときは “YES”、しないときは “NO” とする。 省略すると “YES” となる。
V-zone-plot	“YES” または “NO” マルチビューポートのときにビューポートゾーンを描画するかどうかを定義する。 描画するときは “YES”、しないときは “NO” とする。 省略すると “YES” となる。
P-number-form	“ 書式 ” (たとえば “PIC. %d”、“P%d”、“%d” など) ピクチャ番号を描画するときに指定する。この行がなければピクチャ番号は描画しない。描画位置は左上。 書式には “%d” の記述が1つだけ必要で、%d がピクチャ番号に置き換わる。 その他の文字はそのまま描画される。
P-number-size	“ 文字高さ ” (例えば “3.0”) ピクチャ番号を描画する時の文字高さを実数で指定する。単位は mm。 省略時は 3.0mm

2.8.4 HPGL 出力での PS 命令を規格サイズにする

```
[ リクエスト番号 ]: E18053
[ コマンド       ]: ap_HPGL
[ リリース      ]: 18.02
[ 区分         ]: 追加
[ メニュー      ]: なし
[ 更新日       ]: 2007/07/31
[ 担当者       ]: AYO
```

【要望】

HPGL/2 プリンタの PS 命令では図面枠の実際の大きさが出力されている。通常はこれで問題ないがあるプリンタでは PS 命令で指定されたサイズで用紙がカットされる。現在、用紙サイズごとにパラメータファイルを切り換えながら図面出力しているが、PS 命令で規格サイズに変換して出力できればパラメータファイルを切り換える必要がなくなる。

【対応】

HPGL 出力のパラメータで規格サイズを出力する機能を追加しました。

● DRWHEAD 行で用紙サイズを出力する

X : 図面枠の X サイズ (実際の大きさ mm)
 Y : 図面枠の Y サイズ (実際の大きさ mm)
 W : 図面枠の X サイズ (規格サイズ mm)
 H : 図面枠の Y サイズ (規格サイズ mm)

規格サイズの求め方

- 図面枠の短辺長さと等しいかまたはより大きい短辺の用紙を以下の順で選ぶ。
 A4、B4、A3、B3、A2、B2、A1、B1、A0、B0
 図面枠の短辺長さが B0 の短辺を超えるときは規格サイズに変換しないで実際の大ききで出力する。
- 短辺長さで求められた用紙サイズの長辺が図面枠の長辺長さと等しいかまたはより大きい場合はその用紙サイズとする。
 短辺長さで求められた用紙サイズの長辺が図面枠の長辺長さより小さいとき (長尺図面) は規格サイズに変換しないで実際の大ききで出力する。

2.8.5 ap_HPGL : PS 命令の長さ・幅を JIS 規格サイズで表現する

[リクエスト番号]: E20039
 [コマンド]: ap_HPGL
 [リリース]: 19.14、20.07
 [区分]: 変更
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2015/7/16
 [担当者]: AYO

【要望】

ap_HPGL で、PS コマンドによる用紙サイズが、JIS 規格サイズで表現ができるようになっているが、長尺図面を縮小した場合には実サイズで表現されている。
 長尺図面を縮小した場合も、縮小後のサイズを JIS 規格サイズで表現して欲しい。

【対応】

\W で用紙の長さを、\H で用紙の幅を JIS 規格の A または B サイズで表現するようにしていましたが、A サイズで表現するように変更しました。
 長尺図面を縮小した場合は、実サイズで表現していましたが、縮小後のサイズを JIS 規格の A サイズで表現するように変更しました。A 0 を超える場合は実サイズで表現します。

2.9 その他の機能

2.9.1 ラスター背景を異なる縦横比で配置する

[リクエスト番号]: E18101
 [コマンド]: RAS/ADD、RAS/PRM
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/02/20
 [担当者]: AYO

【要望】

スキャナで読み取ったイメージが、用紙の伸縮によって縦横比が異なる場合がある。ラスター背景として貼り付けるときにXY異縮尺で配置できるようにしてほしい。

【対応】

ラスター背景の配置と変更に「横幅だけ」および「高さだけ」を変更する機能を追加しました。

【構文】

- ラスター背景を配置する

$\text{RAS/ADD [NME] name} \left\{ \begin{array}{l} \text{XSCF size} \\ \text{YSCF size} \\ \text{SCL_X size} \\ \text{SCL_Y size} \end{array} \right\} \left[\text{ANG angle} \right] \left\{ \begin{array}{l} \text{ONN} \\ \text{MSKONN} \\ \text{OFF} \end{array} \right\}$
$\left\{ \begin{array}{l} \text{DIT_NONE} \\ \text{DIT_AVRG} \\ \text{DIT_FLYD} \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} \text{RVS_OFF} \\ \text{RVS_ONN} \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} \text{PIX_OR} \\ \text{PIX_AND} \end{array} \right\} \left[\text{PAT s} \right] \text{P}$

ラスター背景の縮尺を設定する。

- XSCF size : 横幅をモデル座標系の数値またはベクトルで入力する。高さは横幅と同縮尺になるように調整される。
- YSCF size : 高さをモデル座標系の数値またはベクトルで入力する。横幅は高さと同縮尺になるように調整される。
- SCL_X size : 横幅をモデル座標系の数値またはベクトルで入力する。高さは変更しない。XY異縮尺になる。
- SCL_Y size : 高さをモデル座標系の数値またはベクトルで入力する。横幅は変更しない。XY異縮尺になる。

●ラスター背景の表示属性を変更する

RAS/PRM [NME] name	$\left\{ \begin{array}{l} \text{XSCF size} \\ \text{YSCF size} \\ \text{SCL_X size} \\ \text{SCL_Y size} \\ \text{PSCF P1 P2 s} \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{ANG angle} \\ \text{HOR angle} \\ \text{VRT angle} \end{array} \right\}$	[CEN P]	[ORG P]	[RPL fname]	
[NCLS s]	$\left\{ \begin{array}{l} \text{ONN} \\ \text{MSKONN} \\ \text{OFF} \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{BOX d1 d2} \\ \text{ALL} \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{DIT_NONE} \\ \text{DIT_AVRG} \\ \text{DIT_FLYD} \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{RVS_OFF} \\ \text{RVS_ONN} \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{PIX_OR} \\ \text{PIX_AND} \end{array} \right\}$	[PAT s]

ラスター背景の縮尺を設定する。

- XSCF size : 横幅をモデル座標系の数値またはベクトルで入力する。高さは横幅と同縮尺になるように調整される。
- YSCF size : 高さをモデル座標系の数値またはベクトルで入力する。横幅は高さと同縮尺になるように調整される。
- SCL_X size : 横幅をモデル座標系の数値またはベクトルで入力する。高さは変更しない。XY異縮尺になる。
- SCL_Y size : 高さをモデル座標系の数値またはベクトルで入力する。横幅は変更しない。XY異縮尺になる。
- PSCF P1 P2 s : ラスター背景上の2点をテンポラリポイントで指示し、その2点間の距離をモデル座標系の数値で入力する。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_raster1 に以下の行を追加

- + < 6, 1> "Xのみ変更" !SCL_X!
- + < 7, 1> "Yのみ変更" !SCL_Y!

Pagename = mdf_raster2 に以下の行を追加

- + < 6, 1> "Xのみ変更" !SCL_X!
- + < 7, 1> "Yのみ変更" !SCL_Y!

2.9.2 ラスター背景のディレクトリを変更する

[リクエスト番号]: E18063
 [コマンド]: RAS/PRM
 [リリース]: 18.12
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2008/05/16
 [担当者]: AYO

【要望】

モデル内に配置したラスター背景のリストが欲しい。それを使用してマクロでラスターファイルのディレクトリを変更したい。

【対応】

ラスター背景変更コマンドに、一覧表をファイルに出力する機能とラスターファイルのディレクトリを変更する機能を追加しました。

【構文】

- ラスター背景の一覧表をファイルに出力する

```
RAS/PRM FNM name <CE>
```

一覧表出力ファイルのデフォルトディレクトリは ACAD.SET のキーワード #RASTER:LIST# で指示します。

#RASTER:LIST# "~/files/" !.LST! Raster listing file
 #RASTER:LIST# が記述されていないときは、ディレクトリは作業ディレクトリ、ファイル拡張子は ".LST" になる。

一覧表の出力先ファイルを指定する

FNM name : ファイル名を入力する。ワイルドカードが指定できる。

一覧表を出力する

<CE> : 一覧表を出力する。ソート順は以下の通り。
 ピクチャ番号、クラス番号、ファイル名（ディレクトリとファイル拡張子は含まない）の小さい順。

- ラスター背景の表示属性を一覧表で変更する

```
RAS/PRM DSP [ NME { d } [ NCLS s ] [ { ONN MSKONN OFF } ] [ RPL fname ] ] * <CE>
```

一覧表でラスター背景の表示属性を設定する場合に指定する

DSP : 配置されているラスター背景の一覧表が表示される。表示／非表示を切り換えるラスター背景の行をピックアップする。

表示属性を変更するラスター背景を次のいずれかで指定する

NME d : 画面に表示されている一覧表の該当行をピックアップする。
 NME s : 一覧表の行番号を数値で指示する。

クラスを変更する。

NCLS s : 変更後のクラス番号を指示する。表示／非表示が「クラス表示マスクに従う」に設定された場合に有意になる。

ラスター背景の表示／非表示を設定する。

ONN : 表示にする。
 MSKONN : クラス表示マスクに従う。
 OFF : 非表示にする。

ディレクトリおよびファイル名を変更する。

RPL fname : 変更後のディレクトリ、ファイル名、拡張子を入力する。
 入力された文字列からディレクトリ、ファイル名、ファイル拡張子を抽出し、各々指定された部分を置き換える。
 たとえばディレクトリだけが指定されていればディレクトリを、ディレクトリとファイル名が指定されていればディレクトリとファイル名を置き換える。

ディレクトリだけを置き換える場合は最後にディレクトリデリミタ "/" または "\$" を記述する。
 たとえば "/acad/images/" とする。

入力された文字列からディレクトリ、ファイル名、ファイル拡張子を抽出する方法は以下の通り。
 入力された文字列の最後のディレクトリデリミタまでをディレクトリとする。それ以降をファイル名とするが、もし "." が含まれていれば "." 以前をファイル名とし、"." 以降をファイル拡張子とする。

ワイルドカードを指定してファイル一覧から選択することもできる。その場合はディレクトリ、ファイル名、ファイル拡張子の全てが指定されたものとする。

ピクセル数の異なるファイルを指定することはできない。

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf_raster2 に以下の行を追加

+ <12, 1> “名前変更” !RPL!

+ <16, 1> “一覧表出力” !FNM!

【マクロでの使用例】

```

/*
 * ラスター背景の保存先を “/acad/images/” に変更したので、モデル内に配置
 * されているラスター背景のディレクトリを “/acad/images/” に置き換える。
 */
newdir = “/acad/images/”;

MENU/OFF /* メニュー表示を抑止する */
LIST/OFF /* 一覧表の表示を抑止する */

RAS/PRM DSP
for (row = 1; ; row += 1) {
  error(); /* エラーフラグをクリアしておく */
  NME [row]
  if (error()) {
    /* ラスター背景の終了 */
    break;
  }
  RPL [newdir]
  if (error()) {
    /*
     * 指定したディレクトリ内に該当するファイルがないかまたは
     * ラスター背景の大きさが異なるなどのエラー。
     */
    break;
  }
}

/* EOF */

```

2.9.3 ラスター背景を名前で削除する

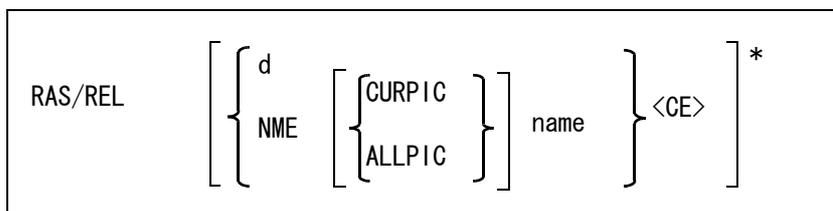
[リクエスト番号]: E19008
 [コマンド]: RAS/REL
 [リリース]: 18.17、19.02
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2010/01/20
 [担当者]: AYO

【要望】

マクロ内からラスター背景を削除するときに、座標値を指定すると目的以外のラスター背景が削除される心配がある。削除するラスター背景をファイル名で指定できると便利。

【対応】

ファイル名で削除する機能を追加しました。



削除するラスタ背景を名前で指定する。

- NME : 名前を指定することを宣言する。
- CURPIC : 現ピクチャのラスタ背景を削除の対象にする。(省略時)
- ALLPIC : 全ピクチャのラスタ背景を削除の対象にする。
- name : 削除するラスタ背景をファイル名で指定する。

ディレクトリの指定は任意。

ディレクトリが指定されていた場合は、指定および配置されているラスタ背景をフルパスにして、ディレクトリの一致も調べる。
ディレクトリが指定されていない場合は、配置されているラスタ背景のディレクトリは一致を調べる対象にしない。デフォルトのディレクトリ以外のラスタ背景でも、ディレクトリ名は一致を調べる対象にしない。

拡張子の指定は任意。

拡張子が指定されていた場合は、指定および配置されているラスタ背景の拡張子の一致も調べる。拡張子が指定されていない場合は、配置されているラスタ背景の拡張子は一致を調べる対象にしない。デフォルトの拡張子以外のラスタ背景でも、拡張子は一致を調べる対象にしない。

ファイル名（ディレクトリと拡張子を除いた部分）は必ず指定する。

ファイル名にはワイルドカードが指定できる。

例

- ・ファイル名が“ABC”で始まる、全ピクチャのラスタ背景を削除する。
RAS/REL NME ALLPIC “ABC*” <CE>
- ・現ピクチャの全てのラスタ背景を削除する。
RAS/REL NME “*” <CE>

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = note2 の以下の行を変更

+ < 4, 1> “削除” !RAS/REL! [note2, mdf_rasrel, c0]

Pagename = mdf_rasrel を追加

/

/ Pagename = mdf_rasrel

/

Menu [mdf_rasrel, 1, 17, c3]

+ < 4, 1> “名前指定” !NME!

+ < 5, 1> “現ピクチャ” !CURPIC!

+ < 6, 1> “全ピクチャ” !ALLPIC!

2.10 定数の設定

2.10.1 モデルファイルの一覧表示に複数のモデルタイトルを表示する

[リクエスト番号]: E17038
 [コマンド]: モデルファイルの一覧表示
 [リリース]: 18.02
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2007/05/02
 [担当者]: AYO

【要望】

ダイアログを使用しないときのモデルファイル一覧表示で、モデル主タイトル以外のモデルタイトルも表示できるようにしてほしい。

【対応】

ダイアログでのモデルファイルの一覧表示では、表示するモデルタイトルの項目番号を最大4つまで指定できるようになっています。サブウィンドウでのモデルファイルの一覧表示でもダイアログでの設定を利用するように修正しました。

2.10.2 モデルタイトルをモデル情報ファイルから取り出す

[リクエスト番号]: E18107
 [コマンド]: MDL/LSTOUT
 [リリース]: 18.14
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/04/09
 [担当者]: AYO

【要望】

モデルファイルの一覧表示でモデルタイトルを表示するときに、ファイルサーバの状態によって非常に遅い場合がある。タイトルの収集方法を工夫するなどの対策をして、実用的な表示時間にしてほしい。

【対応】

モデル定数「モデル一覧のタイトル表示」の設定に、モデルタイトルをモデル情報ファイル(*.MDI)から取り出す機能を追加しました。

● モデル一覧のタイトル表示

モデルとサブモデルのファイル名を一覧表示するときにモデルタイトルも表示するが、ファイル数が多いと表示時間がかかる。

このパラメータで、モデルタイトルを表示するかしないかを選択できる。

Windows版のときは、表示するモデルタイトルの項目番号を最大4つまで指定できる。項目番号の指定はモデル一覧の選択ダイアログで行う。この情報はWindowsのレジストリに登録されるので使用する各PCで設定する必要がある。サブウィンドウモードで使用する場合もダイアログで指定された項目を表示する。

MDL/LSTOUT s : モデルタイトルを表示するかどうかを指定する。

s の値	内容
2	モデル情報ファイルがあればモデル情報ファイル、モデル情報ファイルがなければモデルファイル内のモデルタイトルを表示する
1	モデルファイル内のモデルタイトルを表示する
0	表示しない

【メニュー】

ACADRVP. MEN

Pagename = rvp_model に以下の行を追加

+ <30, 1> “モデル一覧のタイトル表示” !MDL/LSTOUT!

+ <31, 1> “(0=No, 1=MDL から, 2=MDI 優先)”

ACADRVP_W. MEN

Pagename = dlg_model2 に以下の行を追加

+ <7, 1> “モデル一覧のタイトル表示” !MDL/LSTOUT!

+ <8, 1> “(0=No, 1=MDL から, 2=MDI 優先)”

2.10.3 ピクチャー一覧図の画面分割数を指定する

[リクエスト番号]: E18067
 [コマンド]: FIG/COUNT
 [リリース]: 18.13
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2008/09/10
 [担当者]: AYO

【要望】

ピクチャ複製の一覧図で、同時に 256 ピクチャが表示されるために図形が見づらい。ページ送り機能を付けて見やすくして欲しい。

【対応】

モデル定数に「一覧図の画面分割数」を追加しました。

● 一覧図の画面分割数を設定する

一覧図表示の画面分割数を指定する。この値は以下のコマンドの一覧図表示で参照する。

- ・ PIC、CLS、LFT、LWT
- ・ SLO/PICLST
- ・ PIC/COPY、PIC/MOVE
- ・ DRAW/PAGE、DRAW/ADD、DRAW/DLEL、PLOT、PLOT/ONN
- ・ ITM/SEL、CLS/SEL、REV/SEL、LFT/SEL、LWT/SEL
- ・ ITM/DSP、CLS/DSP、REV/DSP、LFT/DSP、LWT/DSP

FIG/COUNT s : 一覧図表示の画面分割数を指定する。初期値は 64。

【メニュー】

ACADCMD. MEN に以下の行を追加

V [53, 4, 15] !FIG/COUNT!

ACADRVP. MEN

Pagename = rvp_model に以下の行を追加

+ <14, 1> “一覧図の画面分割数” !FIG/COUNT!

ACADRVP_W.MEN

Pagename = dlg_model1 に以下の行を追加
+ < 5, 1> “一覧図の画面分割数” !FIG/COUNT!

2.10.4 文字高さを JIS Z8313 1998 年改定版に変更

[リクエスト番号]: E18069
[コマンド]: TEXT/SIZE など
[リリース]: 18.16、19.01
[区分]: 変更
[メニュー]: あり
[更新日]: 2009/11/05
[担当者]: AYO

【要望】

文字高さ選択メニューおよびダイアログの文字高さ選択コンボボックスの内容を JIS Z8313 の最新に対応して欲しい。

【対応】

- ・メニューページ “char_size” の内容を JIS Z8313 (1998 年) に変更しました。

変更前: 2.24、3.15、4.5、6.3、9
変更後: 1.8、2.5、3.5、5、7、10、14、20

- ・文字高さ選択コンボボックスの内容を、メニューページ “char_size” から取り出すように変更しました。
メニューページ “char_size” が見つからない場合は JIS Z8313 (1998 年) の内容を埋め込みます。
- ・以下の項目の初期値を 3.0 から 2.5 に変更しました。

TEXT/SIZE	文字高さ
DIM/TOLSIZE2	± 寸法許容差文字高さ
RFN/TEXTSIZE	風船文字高さ
SEC/TEXTSIZE	切断線文字高さ
FCSDTM/TEXTSIZE	データム文字高さ
HYOU/THIGHT	作表文字高さ
WMARK/TEXTSIZE	溶接記号文字高さ
SMARK/TEXTSIZE	面の肌記号文字高さ

※ DIM/TOLSIZE 上下寸法許容差文字高さ は以前から 2.5。

- ・製図定数メニューおよびダイアログでの表現を「文字高さ」「面の肌記号」に統一しました。

文字の高さ、文字の大きさ、文字サイズなど → 文字高さ
面の指示記号 → 面の肌記号

- ※ 改定前の値に戻す、またはその他の値に変更したい場合は、menu フォルダの USEROSM.MEN (なければこの名前で作成してください) のメニューページ名 “char_size” で指定します。

例)

```
Menu [char_size, 0, 2, c4]
N < 1, 1> "2.24" [none, none, c0, 0, 2.24]
N < 2, 1> "3.15" [none, none, c0, 0, 3.15]
N < 3, 1> "4.5" [none, none, c0, 0, 4.5]
N < 4, 1> "6.3" [none, none, c0, 0, 6.3]
```

N < 5, 1> "9" [none, none, c0, 0, 9]

※ 初期値を改定前の 3.0 またはその他の値にするには Advance CAD を起動し、「その他設定」→「定数設定」→「製図」で該当項目の値を変更し、「定数保存」して Advance CAD 起動時の初期値を設定しておきます。

【メニュー】

ACADOSM. MEN

Pagename = char_size を以下のように変更

N < 1, 1> "1.8" [none, none, c0, 0, 1.8]
 N < 2, 1> "2.5" [none, none, c0, 0, 2.5]
 N < 3, 1> "3.5" [none, none, c0, 0, 3.5]
 N < 4, 1> "5" [none, none, c0, 0, 5]
 N < 5, 1> "7" [none, none, c0, 0, 7]
 N < 6, 1> "10" [none, none, c0, 0, 10]
 N < 7, 1> "14" [none, none, c0, 0, 14]
 N < 8, 1> "20" [none, none, c0, 0, 20]

ACADRVP. MEN

Pagename = rvp_drf

表現を「文字高さ」「面の肌記号」に統一

2.10.5 寸法線スタブ長さの最小値

[リクエスト番号]: E18069
 [コマンド]: DIM/STUB
 [リリース]: 18.10
 [区分]: 変更
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2007/12/19
 [担当者]: AYO

【要望】

寸法線スタブ長さとして設定できる最小値が 1.0 になっているが、もっと小さい値を設定したい。非常に狭い部分に寸法を記入する場合でもなるべく内側に寸法値を記入したいが、スタブ長さの最小が 1.0 までなので寸法値が外側になってしまう。

【対応】

寸法線スタブ長さの最小値を 0.01 に変更しました。

● 寸法線のスタブ長さ

DIM/STUB s : スタブ長さ (0.01 ~ 320)。
 寸法線の最長長を設定する。通常寸法線の矢の長さの 2 倍程度に設定する。この値を矢の長さよりも短くすると寸法数値と矢が重なってしまうことがあるので、それを防ぐためである。寸法数値を外においたとき、寸法長がスタブ長さの 2 倍以上あれば内側矢印になり、それよりも狭ければ外側矢印になる。寸法数値がない側の外側寸法線の長さはスタブ長になる。

2.10.6 コマンド別のアイテム属性バンドルテーブルにサブモデルを追加

[リクエスト番号]: E18048
 [コマンド]: 線種線幅定数、SUB
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2009/01/07
 [担当者]: AYO

【要望】

コマンド別のアイテム属性バンドルテーブルを利用しているが、サブモデル配置コマンドを選択したときにもこの機能が働くようにして欲しい。

【対応】

コマンド別の線種・線幅・クラス・レビジョンのバンドルテーブルにサブモデル作成コマンドを追加しました。

● 作図コマンドと線種・線幅・クラス・レビジョンのバンドルテーブル

線種・線幅・クラス・レビジョンを、コマンド別に設定する。たとえば図形作成コマンドでは太い実線(線種1、線幅3)で、寸法コマンドでは細い実線(線種1、線幅1)に自動的に切り換えたいときなどに設定する。

LFTn s : ここで n は次の 1 ~ 13 である。s は線種番号。
 LWTn s : ここで n は次の 1 ~ 13 である。s は線幅番号。
 CLSn s : ここで n は次の 1 ~ 13 である。s はクラス番号。
 REVn s : ここで n は次の 1 ~ 13 である。s はレビジョン番号。

n	アイテムタイプ	コマンド番号
1	幾何図形	[1 ~ 5, *, *][8, *, *][10 ~ 31, *, *]
2	寸法	[7, *, *]
3	注釈	[6, 1, *][6, 5, 5]
4	記号	[6, 2, *]
5	風船	[6, 3, *]
6	幾何公差	[6, 6, *]
7	切断線	[6, 4, 1]
8	円中心線	[6, 4, 2]
9	ハッチング	[9, 1, 1]
10	複合アイテム	[3, 3, *]
11	APG	[21, *, *]
12	パーツ	[29, *, *]
13	サブモデル	[19, 2, 2]

s = 0 設定しない。
 s > 0 正の値のときはその値を使う。たとえば円中心線の線種テーブルには 3 が設定してある。円中心線コマンドは現在の線種を無視して線種テーブルの値を使用する。このとき線種コマンド(LFT)で線種を 1 に設定すればそれが有効になる。しかし次に円中心線コマンドを実行したときは、また線種テーブルの設定値を使う。
 s < 0 負の値のときはその絶対値を使う。たとえば図形アイテムの線幅テーブルに -2 と設定してあったとする。線分アイテムを作るコマンドは現在の線幅を無視して線幅テーブルの値 2 を使用する。このとき線幅コマンド(LWT)で線幅を 3 に設定すれば、それが有効になる。
 そしてその線幅を今後の図形アイテムの線幅として保持する。
 したがって次に線分アイテムを作るコマンドを実行したときは線幅テーブルの設定値を使うがそれは 3 になっている。

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加
 V [53, 6, 23] !LFT13!

```
V [53, 6, 43] !LWT13!
V [53, 6, 63] !CLS13!
V [53, 6, 83] !REV13!
```

ACADRVP. MEN

```
Pagename = rvp_fntwet に以下の行を追加
+ <9, 2> "サブモデルの 線種 " !LFT13!
+ <10, 2> " _____ 線幅 " !LWT13!
+ <11, 2> " _____ クラス " !CLS13!
+ <12, 2> " _____ レビジョン " !REV13!
```

ACADRVP_W. MEN

```
Pagename = dlg_fntwet3 に以下の行を追加
+ <14, 1> "サブモデル"
+ <14, 2> " " !LFT13!
+ <14, 3> " " !LWT13!
+ <14, 4> " " !CLS13!
+ <14, 5> " " !REV13!
```

2.10.7 ピクチャ名の設定でピクチャ名の表示が重ならないようにする

```
[ リクエスト番号 ]: E18082
[ コマンド ]: RVP/REVNAME、RVP/PICNAME、RVP/SLONAME、RVP/CLNAME、RVP/DRWNAME
RVP/SCF、RVP/PZV、RVP/LFTNAME
[ リリース ]: 18.12
[ 区分 ]: 変更
[ メニュー ]: あり
[ 更新日 ]: 2008/07/16
[ 担当者 ]: AYO
```

【要望】

サブウィンドウモードでのピクチャ名の設定で、長いピクチャ名を入力すると、他のピクチャのピクチャ名と重なってしまい正しく判別できない。重ならないようにしてほしい。

【対応】

サブウィンドウモードでの以下の定数設定では、内容（レビジョン名、ピクチャ名など）の長さにより1画面の表示項目数を調整することで表示内容が重ならないようにしました。

- ・レビジョン名
- ・ピクチャ名
- ・SLO名
- ・クラス名
- ・ドロ잉名
- ・縮尺
- ・Z値
- ・線種名

【メニュー】

ACADOSM. MEN

```
Pagename = utility に以下の行を追加
+ <4, 1> "定数設定" !RVP! [none, rvp, c1]
+ <5, 1> "定数呼出" !CONS/READ!
#ifdef MODIFIER
+ <6, 1> "定数保存" !CONS/WRITE! [mdf_cnswrite, none, c0]
#else
+ <6, 1> "定数保存" !CONS/WRITE!
#endif
```

```
Pagename = mdf_cnswrite に以下の行を追加
```

```

#ifdef MODIFIER
Menu [mdf_cnswrite, 1, 17, c3]
+ <17, 1> " 定数保存 "      !CONS/WRITE! [mdf_cnswrite, none, c2]
+ <18, 1> " ファイル名 "    !NME!
+ <19, 1> " タイトル "      !TITLE!
+ <20, 1> " 定数種類選択 " !DSP!
#endif

```

ACADRVP. MEN

Pagename = rvp の以下の行を削除

```

+ <19, 1> " 定数呼出 "      !CONS/READ!
#ifdef MODIFIER
+ <20, 1> " 定数保存 "      !CONS/WRITE! [mdf_cnswrite, none, c0]
#else
+ <20, 1> " 定数保存 "      !CONS/WRITE!
#endif

```

ACADRVP. MEN の以下のページ名のメニューページを削除

```

mdf_cnswrite
rvp_picnm*
rvp_clsnm*
rvp_revnm*
rvp_drwnm*
rvp_slonm*
rvp_pzvm*
rvp_scale*
rvp_lftnm*

```

ACADRVP_W. MEN の以下のダイアログ定義を削除

```

Dialogbox [rvp_pzv_dlg, 3, 10, c0] " ピクチャ Z 値 "
Dialogbox [rvp_scale_dlg, 3, 10, c0] " ドローイング、ピクチャ縮尺値 "

```

2.10.8 ピクチャタイトルを一覧表で設定する

```

[ リクエスト番号 ]: E18083
[ コマンド       ]: RVP/PICTTL、CLA/PICTTL
[ リリース      ]: 18.12
[ 区分         ]: 追加
[ メニュー      ]: あり
[ 更新日       ]: 2008/07/16
[ 担当者       ]: AYO

```

【要望】

ピクチャタイトルを一覧表で設定したい。

【対応】

定数設定にピクチャタイトルの設定を追加しました。定数ファイルに含めることもできます。

【構文】

- ピクチャタイトルを設定する

RVP/PICTTL s $\left. \begin{array}{l} \text{title} \\ \text{REL} \end{array} \right\}$ RVP/END
--

ピクチャを指示する。

s : ピクチャ番号 (1 ~ 256) を入力する。

つぎのいずれかを入力する。

title : ピクチャタイトルを入力する。タイトルは 128 バイト (全角で 64 文字) 以下。

REL : ピクチャタイトルを削除する。

- ピクチャタイトルを全部削除する

CLA/PICCTL

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

V [53, 20, 0] !RVP/PICCTL!

V [53, 20, 999] !CLA/PICCTL!

ACADRVP.MEN

Pagename = rvp に以下の行を追加

+ <19, 1> "ピクチャタイトル" !RVP/PICCTL!

2.10.9 図面配置頁へのアイテム作成を禁止する

[リクエスト番号]: E20034
 [コマンド]: DLO/ITM
 [リリース]: 19.14、20.07
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2015/6/30
 [担当者]: AYO

【要望】

図面配置頁へのアイテム作成を禁止できるようにして欲しい。

【対応】

モデル定数に「図面配置頁へのアイテムの作成」を許可するかどうかの定数を追加しました。「許可しない」に設定するとバージョン 17 までと同様に、図面配置状態で作図コマンドを選択した場合は図面配置を終了します。

- 図面配置頁へのアイテム作成を禁止または許可する

DLO/ITM s : アイテム作成を許可するときは 1、禁止するときは 0 を設定する。

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

V [53, 4, 20] !DLO/ITM!

ACADRVP.MEN の Pagename = rvp_model に以下の行を追加

+ <38, 3> "図面配置頁へのアイテム作成" !DLO/ITM!

+ <39, 3> " (0= 不可, 1= 許可)"

ACADRVP_W.MEN の Pagename = dlg_model1 に以下の行を追加

+ <24, 1> "図面配置頁へのアイテム作成 (0= 不可, 1= 許可)" !DLO/ITM!

2.11 ユティリティ

2.11.1 SXF 変換 : Ver3.0, Ver3.1 に対応

[リクエスト番号]: なし
 [コマンド]: SXF/READ, SXF/WRITE (Windows 版のみ)
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 機能追加
 [メニュー]: 追加・変更あり
 [更新日]: 2009/03/25
 [担当者]: YMA

【要望】

SXF Ver3.0, Ver3.1 に対応してほしい。
 OCF 検定の認証を取得した機能にしてほしい。

【対応】

SXF Ver3.0, Ver3.1 に対応しました。
 属性付加機構には対応していません。
 OCF 検定 (CC1) の認証 (11309420148) を取得しました。
 制限事項等につきましては OCF ホームページ (URL <http://www.ocf.or.jp>) にて
 確認ください。

Ver2.0 から Ver3.0 での変更点

等高線の表現方法が変更されました。
 イメージの表現方法が変更されました。
 JPEG イメージが配置できるようになりました。
 複数のイメージが配置できるようになりました。
 背景色を変換できるようになりました。
 表題欄フィーチャが追加されました。

Ver3.0 から Ver3.1 での変更点

円弧長寸法線フィーチャが追加されました。
 クロソイド曲線フィーチャが追加されました。(アイテムの作成はできません)
 既定義ハッチング Area_control フィーチャが追加されました。
 アイテムの表示順 (アイテムの並び順に表示) が追加されました。
 朱書きファイルの入出力が追加されました。
 ファイルのヘッダ情報に SXF ファイルのバージョンが追加されました。

2.11.2 SXF 変換 : SXF Ver3.0、Ver3.1 に対応および OCF 検定認証取得に当たっての機能追加・変更・削除

SXF の各コマンドは、
 シートは図面配置、
 部分図はピクチャ、
 レイヤはクラス、
 色はレビジョン、
 線種は線種、
 線幅は線幅
 に固定して処理しています。

対応にあたり次のコマンドを修正・追加しました。

- SXF/READ : 朱書きファイルの読み込み機能を追加しました。
 弧長寸法フィーチャの読み込み
 クロソイドフィーチャの読み込み (折れ線近似)
 背景色の読み込み
 図面表題欄フィーチャの読み込み
 複数 (.TIF, .JPG) イメージの読み込み
- SXF/WRITE : 朱書きファイルの書き込み機能を追加しました。
 弧長寸法フィーチャの書き込み
 (下位のバージョンへの出力は角度寸法に変換します。)
 クロソイドフィーチャの書き込み
 (読み込んだクロソイドフィーチャが変更されなかった場合、
 変更された場合または下位のバージョンへの出力はは
 折れ線に変換します。)
 背景色の書き込み
 図面表題欄フィーチャの書き込み
 複数 (.TIF, .JPG) イメージの出力。
 (Ver2.0 への出力は最初に現れた .TIF のみを出力します。)
- SXF/HATCH_DEF : 既定義ハッチング Area_control を作成するコマンドを追加しました。
- SXF/TTL_SET : 表題欄を設定するコマンドを追加しました。
- SXF/SFIG_GEN : 複合図形 (作図グループ・作図部品) を作成するコマンドを追加しました。
- SXF/SFIG_REF : 複合図形 (作図グループ・作図部品) を配置するコマンドを追加しました。
- SXF/SFIG_EDT : 複合図形 (作図部品) の配置情報を修正するコマンドを追加しました。
- SXF/SFIG_DET : 複合図形 (作図グループ・作図部品) を削除するコマンドを追加しました。
- SXF/SEQUENCE : アイテムの表示順を変更するコマンドを追加しました。
- SXF/MOVE : 複合図形 (作図グループ・作図部品) を含めたアイテムの移動・回転・縮小・拡大コマンドを追加しました。
- SXF/LAY : 表示レイヤ、選択レイヤ、朱書きレイヤの設定
 割込みコマンドに変更しました。
- SXF/CNT : 等高線作成・修正
 単位を指定できるようにしました。
 割込みコマンドに変更しました。
- SXF/VER : 図形確認
 非表示既定義ハッチング Area_control の表示・非表示の制御
 割込みコマンドに変更しました。

表示順の規則にしたがって表示 / 印刷を行うコマンドを追加しました

- SXF/ZOOMALL : 全体

SXF/ZOOMALLVIE : 全体_全部
 SXF/ZOOM : 対角2点
 SXF/ZOOMUP : 拡大
 SXF/ZOOMDOWN : 縮小
 SXF/PAN : 位置の移動
 SXF/RPT : 再表示
 SXF/PRINT : 図面印刷 (図面範囲を印刷)
 SXFCOPY/PRINT : コピー印刷 (画面に表示されている部分を印刷)

メニューの追加・変更

V [16, 24, 1] !SXF/READ!
 V [16, 24, 2] !SXF/WRITE!
 V [16, 24, 3] !SXF/TEMPLATE!
 V [16, 24, 4] !SXF/CONTOUR! <-- 削除: 割込みコマンドに変更
 V [16, 24, 5] !SXF/MARKER!
 V [16, 24, 6] !SXF/HATCH_USR!
 V [16, 24, 7] !SXF/HATCH_PAT!
 V [16, 24, 8] !SXF/HATCH_FIL!
 V [16, 24, 9] !SXF/HATCH_DEF! <-- 追加
 V [16, 24, 10] !SXF/SFIG_BRK!
 V [16, 24, 12] !SXF/USER_CLR!
 V [16, 24, 13] !SXF/USER_LFT!
 V [16, 24, 14] !SXF/USER_LWT!
 V [16, 24, 15] !SXF/PIC_LIST!
 V [16, 24, 16] !SXF/PIC_SCF!
 V [16, 24, 17] !SXF/LAYER! <-- 削除: 割込みコマンドに変更
 V [16, 24, 18] !SXF/LIST!
 V [16, 24, 19] !SXF/VERIFY! <-- 削除: 割込みコマンドに変更

 V [16, 24, 20] !SXF/TTL_SET! <-- 追加
 V [16, 24, 23] !SXF/SFIG_GEN! <-- 追加
 V [16, 24, 24] !SXF/SFIG_REF! <-- 追加
 V [16, 24, 25] !SXF/SFIG_EDT! <-- 追加
 V [16, 24, 26] !SXF/SFIG_DEL! <-- 追加
 V [16, 24, 27] !SXF/SEQUENCE! <-- 追加
 V [16, 24, 28] !SXF/MOVE! <-- 追加
 V [16, 24, 29] !SXF/PRINT! <-- 追加
 V [16, 24, 30] !SXFCOPY/PRINT! <-- 追加

 V [34, 3, 101] !SFC! <-- 追加
 V [34, 3, 102] !P21! <-- 追加
 V [34, 3, 103] !MODEL_SPC! <-- 追加
 V [34, 3, 104] !PAPER_SPC! <-- 追加
 V [34, 3, 116] !ACTL_SHOW! <-- 追加
 V [34, 3, 117] !ACTL_NOSHOW! <-- 追加

 V [34, 3, 141] !FRONTITEM! <-- 追加
 V [34, 3, 142] !FRONTMOST! <-- 追加
 V [34, 3, 143] !FRONTONE! <-- 追加
 V [34, 3, 144] !BEHINDITEM! <-- 追加
 V [34, 3, 145] !BEHINDMOST! <-- 追加
 V [34, 3, 146] !BEHINDONE! <-- 追加
 V [34, 3, 147] !REPAINT! <-- 追加

```

V [ 57, 3, 2] !SXF/ATTR!
V [ 57, 3, 3] !SXF/LAY!           <-- 追加
V [ 57, 3, 4] !SXF/CNT!           <-- 追加
V [ 57, 3, 5] !SXF/VER!           <-- 追加

V [ 94, 1, 1] !SXF/ZOOMALL!        <-- 追加
V [ 94, 1, 2] !SXF/ZOOMALLVIE!    <-- 追加
V [ 94, 1, 3] !SXF/ZOOM!           <-- 追加
V [ 94, 1, 8] !SXF/ZOOMUP!        <-- 追加
V [ 94, 1, 9] !SXF/ZOOMDOWN!      <-- 追加
V [ 94, 1, 10] !SXF/PAN!           <-- 追加
V [ 94, 1, 11] !SXF/RPT!          <-- 追加

/
/ Pagename = exchange
/
Menu [exchange, 1, 4, c2]
+ < 1, 1> " 共通データ "           [none, none, c4]
#ifdef MODIFIER
+ < 2, 1> " 読込み "               !COMMON/READ! [exchange, mdf_commonread, c0]
#else // NOMODIFIER
+ < 2, 1> " 読込み "               !COMMON/READ! [exchange, dummy, c0]
#endif // End of NOMODIFIER
+ < 3, 1> " 書込み "               !COMMON/WRITE! [exchange, mdf_commonwrite, c0]
+ < 4, 1> " I G E S "              [none, none, c4]
+ < 5, 1> " 読込み "               !IGES/READ!   [exchange, dummy, c0]
#ifdef MODIFIER
+ < 6, 1> " 書込み "               !IGES/WRITE!  [exchange, mdf_igeswrite, c0]
#else // NOMODIFIER
+ < 6, 1> " 書込み "               !IGES/WRITE!  [exchange, dummy, c0]
#endif // End of NOMODIFIER
+ < 7, 1> " ポンチ絵 "             !IGES/PUNCH!  [exchange, dummy, c0]
#ifdef WIN32
+ <10, 1> " S X F "                [exchange, dummy, c4]
+ <11, 1> " 読込み "               !SXF/READ!    [exchange, mdf_sxfread, c0]
+ <12, 1> " 書込み "               !SXF/WRITE!   [exchange, mdf_sxfwrite, c0]
+ <13, 1> " 名称一覧 "             !SXF/LIST!    [exchange, dummy, c0]
+ <14, 1> " 部分図確認 "           !SXF/PIC_LIST! [exchange, dummy, c0]
+ <15, 1> " レイヤ設定 "           !SXF/LAY!     [exchange, dummy, c0]
+ <16, 1> " 図形確認 "             !SXF/VER!     [exchange, dummy, c0]
+ <17, 1> " 分解 "                 !SXF/SFIG_BRK! [exchange, dummy, c0]
+ <18, 1> " 図面印刷 "             !SXF/PRINT!   [exchange, dummy, c0]
+ <19, 1> " コピー印刷 "           !SXFCOPY/PRINT! [exchange, dummy, c0]
+ <20, 1> " 次ページ "            [exchange3, dummy, c0]
#endif
#endifif

/
/ データ交換 SXF
/
/ Pagename = exchange3
/
#ifdef WIN32

```

```

Menu [exchange3, 1, 4, c2]
+<1, 1> " S X F " [exchange3, mdf_sxfzoom, c4]
+<2, 1> " 読み込み " !SXF/READ! [exchange3, mdf_sxfread3, c0]
+<3, 1> " 書き込み " !SXF/WRITE! [exchange3, mdf_sxfwrite3, c0]
+<4, 1> " 確認 " [exchange3, dummy, c4]
+<5, 1> " 部分図確認 " !SXF/PIC_LIST! [exchange3, dummy, c0]
+<6, 1> " 名称一覧 " !SXF/LIST! [exchange3, dummy, c0]
+<7, 1> " 図形確認 " !SXF/VER! [exchange3, mdf_sxfverify, c0]
+<8, 1> " 図形作成編集 " [exchange3, dummy, c4]
+<9, 1> " 等高線 " !SXF/CNT! [exchange3, mdf_sxfcontour, c0]
+<10, 1> " マーカー " !SXF/MARKER! [exchange3, mdf_sxfmarker, c0]
+<11, 1> " ハッチング " [exchange3, mdf_sxfhatch, c1]
+<12, 1> " 移動・回転 " !SXF/MOVE! [exchange3, mdf_sxfmove, c0]
+<13, 1> " 表示順 " !SXF/SEQUENCE! [exchange3, mdf_sxfseq, c0]
+<14, 1> " 設定 " [exchange3, dummy, c4]
+<15, 1> " レイヤ設定 " !SXF/LAY! [exchange3, dummy, c0]
+<16, 1> " 部分図倍率 " !SXF/PIC_SCF! [exchange3, dummy, c0]
+<17, 1> " 再表示 " [exchange3, mdf_sxfzoom, c1]
+<20, 1> " 次ページ " [exchange4, dummy, c1]
/

```

```

Menu [exchange4, 1, 4, c2]
+<1, 1> " 表題欄 " [exchange4, dummy, c4]
+<2, 1> " 表題欄設定 " !SXF/TTL_SET! [exchange4, dummy, c0]
+<3, 1> " 複合図形 " [exchange4, dummy, c4]
+<4, 1> " 配置 " !SXF/SFIG_REF! [exchange4, dummy, c0]
+<5, 1> " 作成・編集 " !SXF/SFIG_GEN! [exchange4, dummy, c0]
+<6, 1> " 配置修正 " !SXF/SFIG_EDT! [exchange4, dummy, c0]
+<7, 1> " 削除 " !SXF/SFIG_DEL! [exchange4, dummy, c0]
+<8, 1> " 分解 " !SXF/SFIG_BRK! [exchange4, dummy, c0]
+<9, 1> " ユーザ定義 " [exchange4, dummy, c4]
+<10, 1> " 色 " !SXF/USER_CLR! [exchange4, dummy, c0]
+<11, 1> " 線種 " !SXF/USER_LFT! [exchange4, dummy, c0]
+<12, 1> " 線幅 " !SXF/USER_LWT! [exchange4, dummy, c0]
+<13, 1> " 製図基準 " [exchange4, dummy, c4]
+<14, 1> " テンプレート " !SXF/TEMPLATE! [exchange4, mdf_sxftemplate, c0]
+<15, 1> " 再表示 " [exchange4, mdf_sxfzoom, c1]
+<20, 1> " 前ページ " [exchange3, dummy, c1]
#endif

```

```
#ifdef WIN32
```

```
/
```

```
/ Pagename = mdf_sxfread
```

```
/
```

```

Menu [mdf_sxfread, 1, 17, c3]
+<12, 1> " ファイル名 " !FNM!
+<13, 1> " 新規 " !NEW!
+<14, 1> " 追加 " !ADD!
+<15, 1> " 製図基準 " !CADSTD!
+<16, 1> " 図面種別 " !PLANTYP!
+<17, 1> " 朱書ファイル " [none, none, c4]
+<18, 1> " 読み込む " !ONN!
+<19, 1> " 読み込まない " !OFF!

```

```

+<20, 1> " 変換 P A R M"          !PARAM!
/
/ Pagename = mdf_sxfread3
/
Menu [mdf_sxfread3, 1, 17, c3]
+<2, 1> " ファイル名 "          !FNM!
+<3, 1> " 新規 "                !NEW!
+<4, 1> " 追加 "                !ADD!
+<5, 1> " 製図基準 "            !CADSTD!
+<6, 1> " 図面種別 "            !PLANTYP!
+<7, 1> " 朱書ファイル "        [none, none, c4]
+<8, 1> " 読込む "              !ONN!
+<9, 1> " 読込まない "          !OFF!
+<10, 1> " 変換 P A R M"        !PARAM!
/
/ Pagename = mdf_sxfwrite
/
Menu [mdf_sxfwrite, 1, 17, c3]
+<14, 1> " ファイル名 "         !FNM!
+<15, 1> " ページ番号 "         !PAGE!
+<16, 1> " 作成者 "             !NME!
+<17, 1> " 組織 "               !ORG!
+<18, 1> " 変換 P A R M"        !PARAM!
/
/ Pagename = mdf_sxfwrite3
/
Menu [mdf_sxfwrite3, 1, 17, c3]
+<3, 1> " ファイル名 "         !FNM!
+<4, 1> " ページ番号 "         !PAGE!
+<5, 1> " 作成者 "             !NME!
+<6, 1> " 組織 "               !ORG!
+<7, 1> " 変換 P A R M"        !PARAM!
/
/ Pagename = mdf_sxfmove
/
Menu [mdf_sxfmove, 1, 17, c3]
+<12, 1> " 移動・回転 "         [none, none, c4]
+<13, 1> " 複製しない "         !OFF!
+<14, 1> " 複製する "           !DUP!
+<15, 1> " 原点 "               !ORG!
+<16, 1> " 倍率 XY"             !SCF!
+<17, 1> " 倍率 X"              !XSCF!
+<18, 1> " 倍率 Y"              !YSCF!
+<19, 1> " 角度 "               !ANG!
/
/ Pagename = mdf_sxftemplate
/
Menu [mdf_sxftemplate, 1, 17, c3]
+<18, 1> " ファイル名 "         !FNM!
/
/ Pagename = mdf_sxfverify
/

```

```

Menu [mdf_sxfverify, 1, 17, c3]
+<7, 1> " 図形確認 " [none, none, c4]
+<8, 1> " Area 表示 " !ACTL_SHOW!
+<9, 1> " Area 非表示 " !ACTL_NOSHOW!
/
/Pagename = mdf_sxfcontour
/
Menu [mdf_sxfcontour, 1, 17, c3]
+<9, 1> " 等高線 " [none, none, c4]
+<10, 1> " 高さ " !ALTITUDE!
+<11, 1> " 自動通番 " !NUM!
+<12, 1> " 名称入力 " !NME!
/
/Pagename = mdf_sxfmarker
/
Menu [mdf_sxfmarker, 1, 17, c3]
+<10, 1> " 種別 " [none, none, c4]
T<11, 1> " * " !MRK 291!
T<12, 1> " ○ " !MRK 292!
T<13, 1> " ・ " !MRK 0!
T<14, 1> " + " !MRK 294!
T<15, 1> " □ " !MRK 295!
T<16, 1> " △ " !MRK 296!
T<17, 1> " × " !MRK 297!
+<18, 1> " 倍率 " !SCF!
+<19, 1> " 角度 " !ANG!
/
/Pagename = mdf_sxfhatch
/
Menu [mdf_sxfhatch, 1, 17, c3]
+<11, 1> " ハッチング " [none, none, c4]
+<12, 1> " ユーザ定義 " !SXF/HATCH_USR!
+<13, 1> " パターン " !SXF/HATCH_PAT!
+<14, 1> " 塗り " !SXF/HATCH_FIL!
+<15, 1> " 既定義 " !SXF/HATCH_DEF!
/
/Pagename = mdf_sxfseq
/
Menu [mdf_sxfseq, 1, 17, c2]
+<12, 1> " 表示順 " [none, none, c4]
+<13, 1> " 最前面 " !FRONTMOST!
+<14, 1> " 前面 " !FRONTONE!
+<15, 1> " 後面 " !BEHINDONE!
+<16, 1> " 最後面 " !BEHINDMOST!
+<17, 1> " アイテムの " [none, none, c4]
+<18, 1> " 前面 " !FRONTITEM!
+<19, 1> " 後面 " !BEHINDITEM!
+<20, 1> " 再表示 " !REPAINT!
/
/Pagename = mdf_sxfzoom
/
Menu [mdf_sxfzoom, 7, 17, c3]

```

```

+<10, 1> " 拡大／縮小 " [none, none, c4]
+<11, 1> " 再表示 " !SXF/RPT!
+<12, 1> " 対角2点 " !SXF/ZOOM!
+<13, 1> " 拡大 " !SXF/ZOOMUP!
+<14, 1> " 縮小 " !SXF/ZOOMDOWN!
+<15, 1> " 全体 " !SXF/ZOOMALL!
+<16, 1> " 全体_全部 " !SXF/ZOOMALLVIE!
+<17, 1> " 位置の移動 " !SXF/PAN!
#endif // WIN32

```

○読み込み

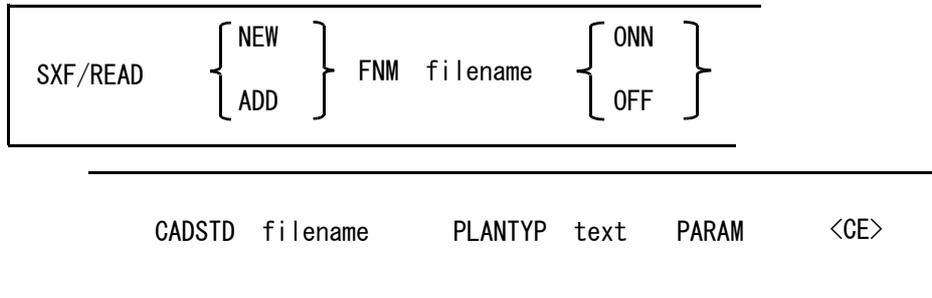
朱書きファイルの読み込み

朱書きファイルを読み込む場合、図面配置ピクチャにレイヤ名はすべて”朱書き”として読み込みます。

レイヤはクラスに割当てます。

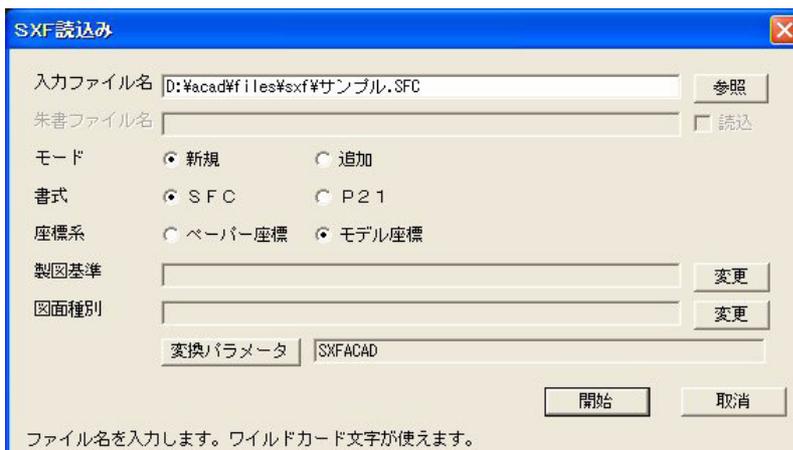
また複合図形（作図グループ・作図部品）は各要素に展開して読み込みます。

【構文】



- ONN : 朱書きファイルを読み込む
- OFF : 朱書きファイルを読み込まない

朱書きファイルがない場合

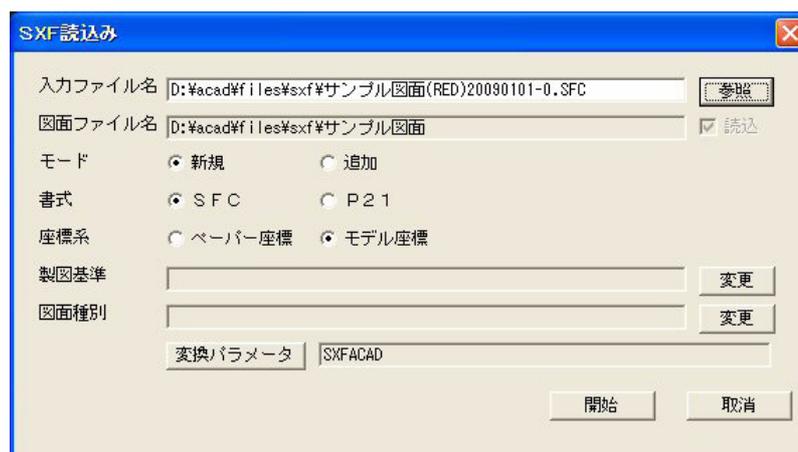


朱書きファイルがある場合



図面ファイルに朱書きファイルがある場合は朱書きファイルを読み込むかどうかを選択します。
朱書きファイルを読み込んだ場合レイヤ（クラス）の選択マスクは、朱書きレイヤのみが選択不可でそれ以外のレイヤは選択可になっています。

朱書きファイルを入力ファイルに指定した場合

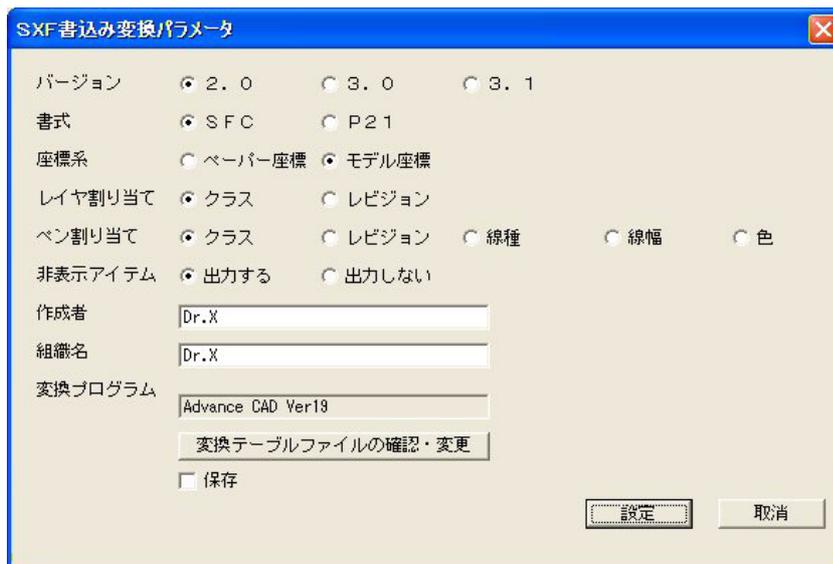


朱書きファイルを入力ファイルに指定した場合、関連する図面ファイルを読み込んだ後朱書きファイルを読み込みます。
読み込み後レイヤ（クラス）の選択マスクは、朱書きレイヤのみが選択可でそれ以外のレイヤは選択不可になっています。

○書込み

変換パラメータにバージョンを追加

変換パラメータ



Ver2.0 : 図形のみ
 イメージは最初に現れた TIF イメージを 1 つだけ出力します。
 その他のイメージは出力されません。
 円弧長寸法線は角度寸法線に変換して出力します。
 クロソイド曲線は折れ線に変換して出力します。
 表題欄フィーチャは出力されません。
 背景色は出力されません。

Ver3.0 : 図形および背景色・表題欄を出力
 Ver2.0 からの変更点

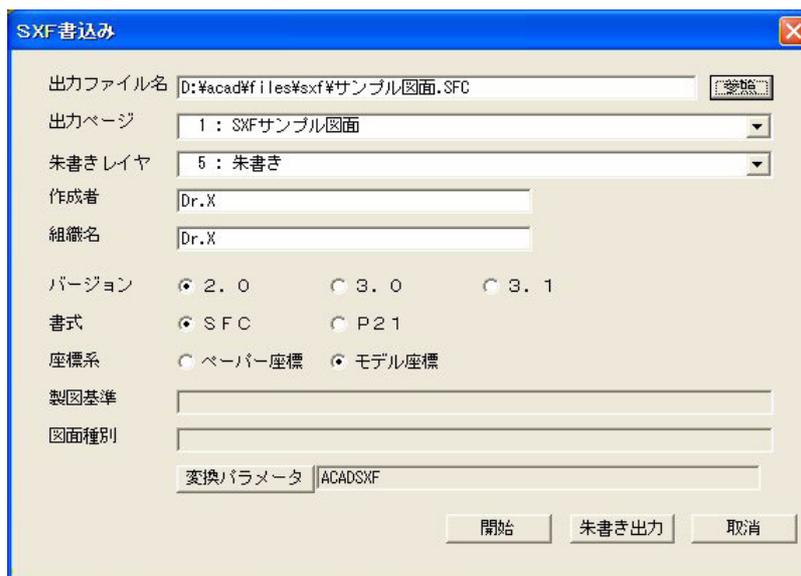
- ・複数イメージ
- ・JPEG イメージ
- ・背景色
- ・図面表題欄フィーチャ
- ・既定義ハッチング Area_control
- ・等高線のデータ表現方法の変更
- ・イメージのデータ表現方法の変更

円弧長寸法線は角度寸法線に変換して出力します。
 クロソイド曲線は折れ線に変換して出力します。

Ver3.1 : 図形および背景色・表題欄を出力
 Ver3.0 からの変更点

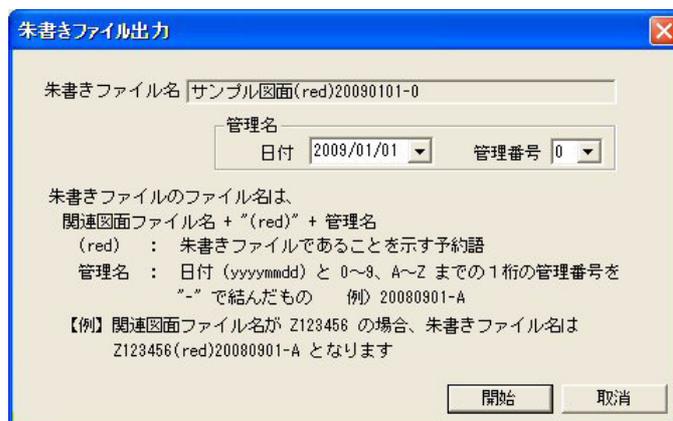
- ・孤長寸法フィーチャの追加
- ・クロソイドフィーチャの追加
 (アイテムが編集された場合は折れ線に変換して出力します)
- ・ファイルのヘッダ情報に SXF ファイルのバージョン追加

朱書きファイルの書込み (ダイアログモードのみ)



朱書きレイヤが設定されている場合、朱書きファイルの書込みができます。
レイヤはクラスに割当てられているものとして処理しています。
朱書きファイルの書込みを行う場合は関連図面ファイルが存在する必要があります。
朱書きレイヤは『レイヤ設定』(SXF/LAY)の[朱書きレイヤ]で設定できます。
朱書きの図形は図面配置ピクチャに作成された図形を変換します。
朱書き図形に複合図形(作図グループ、作図部品)は使用できません。

朱書き出力



管理名 [日付]、[管理番号] を入植。
[開始] で朱書きファイルへ書込む。

備考) 朱書きファイル名の命名規則

関連図面ファイル名 + "(red)" + 管理名

(red) : 朱書きファイルであることを示す予約語
管理名 : 日付 (yyyymmdd) と 0 ~ 9、A ~ Z までの 1 桁の管理番号を
"-" で結んだもの。 例) 20090101-A

【例】関連図面ファイル名が Z123456 の場合、朱書きファイル名は
Z123456(red)20090101-A となります。

○ SXF/CNT

等高線を作成する。
 選択したアイテムで等高線をレイヤ0（元アイテムでの表示）で作成する。

【構文】

SXF/CNT	ALTITUDE	h	$\left. \begin{array}{l} \text{NUM} \\ \text{NME name} \end{array} \right\}$	ATTR_UNIT	u	[IS]+	<CE>
---------	----------	---	--	-----------	---	-------	------

ALTITUDE h : 高さを入力。
 NUM : 名称は8桁(00000001～)の通し番号にする。(既定値)
 NME name : 名称を入力。
 ATTR_UNIT u : 単位を入力。(m,cm または mm 既定値:m)
 IS : 等高線にするアイテムを選択する。
 選択できるアイテムは、直線、円弧、自由曲線、ストリング。

○レイヤ設定 (SXF/LAY) (ダイアログモードのみ)

レイヤの表示マスク、選択マスク及び朱書きレイヤを設定する。
 レイヤはクラスに割当てられているものとして処理しています。

【構文】

SXF/LAY

表示マスク

表示マスクを設定します。
 『表示クラス』(CLS/DSP) 『全でのピクチャへの設定』(ALLPIC) と同等の処理です。



『表示マスク』を選択します。
 レイヤ名を選択します。
 『設定』を選択して表示レイヤを設定します。

選択マスク

選択マスクを設定します。
『選択クラス』(CLS/SEL) と同等の処理です。
図面データを編集する場合に朱書きデータを保護
朱書きデータを編集する場合に図面データを保護する意味合いがあります。



『選択マスク』を選択します。
レイヤ名を選択します。
〔設定〕を選択して選択レイヤを設定します。

朱書きレイヤ

朱書きレイヤを設定します。
朱書きレイヤに設定された図形は図面ファイルには出力されません。
図面ファイルとは別の朱書きファイルに出力されます。



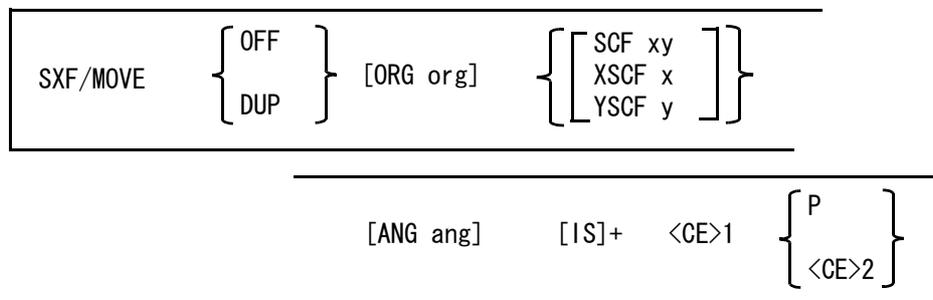
『朱書きレイヤ』を選択します。
レイヤ名を選択します。
〔設定〕を選択して朱書きレイヤを設定します。
レイヤ名を変更して朱書きレイヤ名が変更された場合
再度朱書きレイヤの設定を行ってください。

○移動・回転 (SXF/MOVE)

複合図形（作図グループ・作図部品）を含めたアイテムを移動・回転・縮小・拡大します。移動・回転・縮小・拡大した作図グループは各図形要素に展開されます。

備考： 作図グループは原点 <0,0>、角度 0 度、倍率 <1,1> で 1 回だけ配置できます。
作図部品は原点任意、角度任意、倍率任意で複数回配置できます。

【構文】



- OFF : 複製しない
- DUP : 複製する
- ORG org : 移動・縮小・拡大・回転の基準点を入力
- SCF xy : 縮小・拡大倍率を入力 (X=Y)
- XSCF x : X 倍率を入力
- YSCF y : Y 倍率を入力
- ANG ang : 回転角度 (度) を入力
- [IS]+ : アイテムを選択
- <CE>1 : 設定条件を確定する (選択したアイテムを囲う外形矩形をラバーバンドする)
- P : 移動後の位置を入力
- <CE>2 : 移動しないで縮小・拡大、回転する

○表示順 (SXF/SEQUENCE)

アイテムの並び順を変更します。

表示順はアイテムの並び順に表示します。

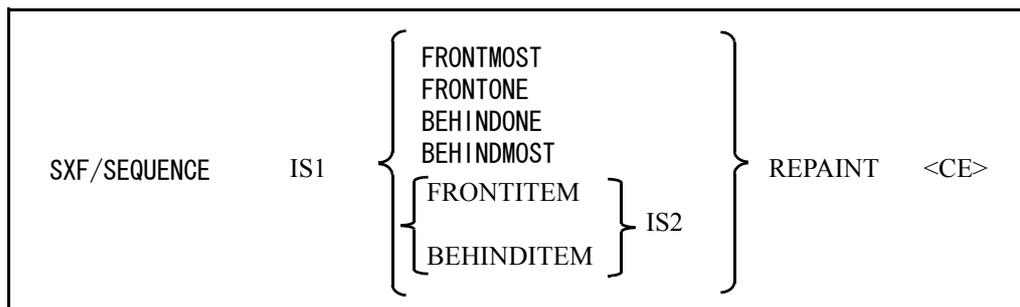
表示順のとおりに表示させるためには SXF 表示コマンドを使用してください。

表示コマンド : SXF/RPT SXF/ZOOM SXF/ZOOMALL SXF/ZOOMALLVIE SXF/ZOOMUP SXF/ZOOMDOWN SXF/PAN。

注)

表示順の変更操作ではモデルにアイテム数と同じ空き容量が必要となります。表示順の操作を行っていてアイテムの空き容量がアイテム数より少なくなると表示順の操作はできなくなります。その場合、モデル圧縮またはモデル保存を行って空き容量を増やしてください。

【構文】



- IS1 : 表示順を変更するアイテムを選択する
- FRONTMOST : 最前面に表示する
- FRONTONE : 1つ前面に表示する
- BEHINDMOST : 最後面に表示する
- BEHINDONE : 1つ後面に表示する
- FRONTITEM : 指定したアイテムの前面に表示する
- BEHINDITEM : 指定したアイテムの後面に表示する
- IS2 : 表示順の基準になるアイテムを選択する
- REPAINT : 画面を再表示する（確定の前に表示順を確認する）
- <CE> : 表示順を確定する
確定しないでコマンドを終わらせると表示順は変更されません。

○ハッチング・既定義 (SXF/HATCH_DEF)

既定義ハッチング (Area_control) を作成する。

【構文】

SXF/HATCH_DEF	[IS]+	<CE>
---------------	-------	------

- IS : 既定義ハッチングにする閉じたストリングを選択。
- <CE> : 確定する。

○表題欄設定 (ダイアログ版のみ) (SXF/TTL_SET)

表題欄の各項目の内容の設定 (変更) を行います。
表題欄フィーチャーは SXF Ver3.0、Ver3.1 では出力されますが SXF Ver2.0 では出力されません。

事業名、工事名、契約区分、図面名、図面番号、図面総数、図面種別、尺度、図面作成日（西暦年・月・日）、受注会社名、受注事務所名を入力します。

事業名、工事名、契約区分、図面名、図面種別、尺度、受注会社名、受注事務所名の入力

事業名、工事名、契約区分、図面名、図面種別、尺度、受注会社名、受注事務所名は複数行入力できます。

○表示関係

再表示、対角 2 点、拡大、縮小、全体、全体_全部、↑、↓、←、→、位置の移動

- ・再表示
画面を再表示する。

【構文】

SXF/RPT

- ・対角 2 点
指定した矩形で拡大

【構文】

SXF/ZOOM [P1 P2]+ < CE>

P1 P2 : 矩形の対角点を指示する。
 矩形の範囲がビューポートいっぱいに表示される。
 続けて何度でも範囲を指定できる。

- ・拡大表示

【構文】

SXF/ZOOMUP

表示する領域の面積が半分になる。
 倍率 = $\sqrt{2} = 1.414$

- ・縮小表示

【構文】

SXF/ZOOMDOWN

表示する領域の面積が倍になる。
 倍率 = $1/\sqrt{2} = 0.7071$

- ・全体を表示する

【構文】

SXF/ZOOMALL

アイテムの最大外形を表示範囲として画面に表示する。
 図面配置のときは図面枠の最大外形を表示範囲として画面に表示する。

- ・データ全体を表示する

【構文】

SXF/ZOOMALLVIE

アイテムの最大外形を表示範囲として画面に表示する。
 図面配置のときは図面枠と配置されているウィンドウのウィンドウ枠の最大外形を表示範囲として画面に表示する。

- ・位置の移動

【構文】

SXF/PAN [P1 P2]+ <CE>

P1 : 移動する基準となる点を指示する。

P2 : P1 の移動後の点を指示する。

P1 の位置を P2 の位置へ移動する。続けて指示できる。

○複合図形

配置、作成・編集、配置修正、削除、分解

・配置 (ダイアログ版のみ)

【構文】

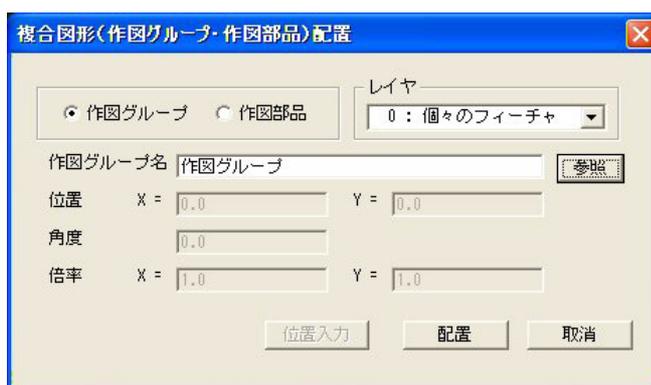
SXF/SFIG_REF

作図グループ配置

作図グループを配置します。

作図グループは、配置位置 (0, 0)、倍率 (1, 1)、角度0度で配置されます。

1度配置した作図グループは再度配置することはできません。



〔作図グループ〕を選択します。

〔レイヤ〕を選択します。

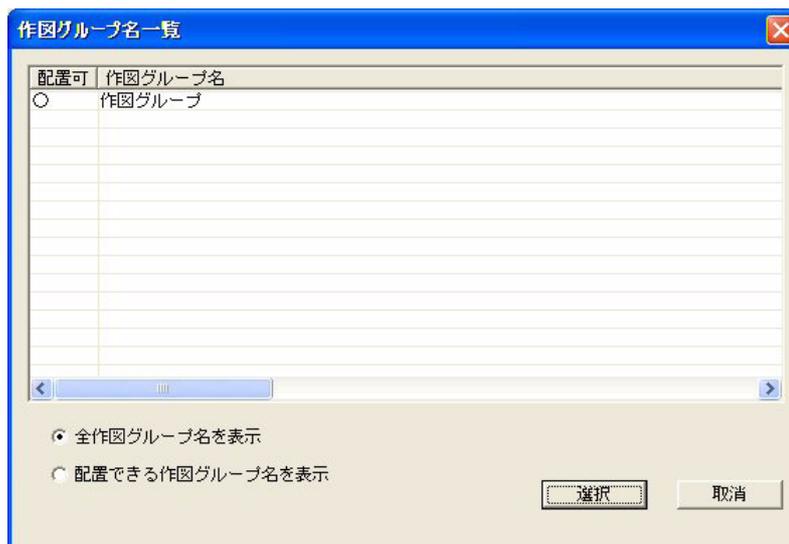
レイヤ0は、作図グループ内の個々の図形で表示の制御を行います。

レイヤ n は、作図グループで表示の制御を行います。

〔作図グループ名〕入力又は〔参照〕で名前を入力します。

〔配置〕で作図グループを配置します。

作図グループの参照



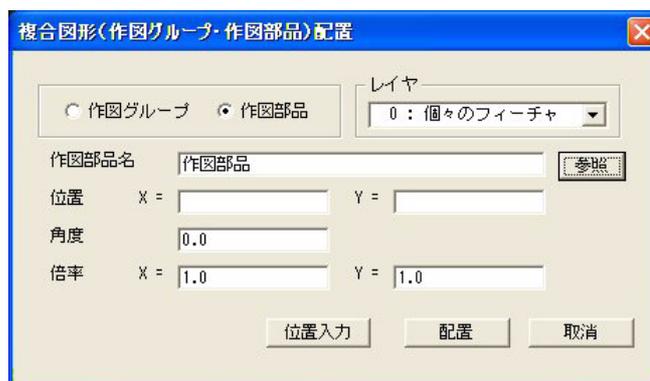
〔全作図グループ名を表示〕又は〔配置できる作図グループ名を表示〕で一覧を表示。

作図グループを選択。既に配置されている作図グループは選択できません。

作図部品配置

作図部品を配置します。

作図部品は、配置位置：任意、倍率：任意、角度：任意で配置できます。



〔作図部品〕を選択します。

〔レイヤ〕を選択します。

レイヤ 0 は、作図部品内の個々の図形で表示の制御を行います。

レイヤ n は、作図部品で表示の制御を行います。

〔作図部品名〕又は〔参照〕で名前を入力します。

〔位置〕、〔角度〕、〔倍率〕を入力します。

〔配置〕で作図部品を配置します。

〔位置〕入力かわりに〔位置入力〕を選択するとデジタル入力で配置位置が入力できます。

作図部品の参照

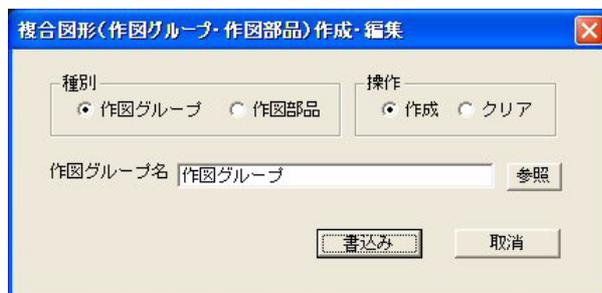


〔全作図部品を表示〕又は〔配置されていない作図部品名を表示〕で一覧を表示。作図部品を選択。すべての作図部品が配置可能です。

- ・作成・修正（ダイアログ版のみ）
- 【構文】

SXF/SFIG_GEN

作図グループ（作図部品）の作成
作図グループ（作図部品）を作成します。
現ピクチャに図形があると作成（又はクリア）処理になります。



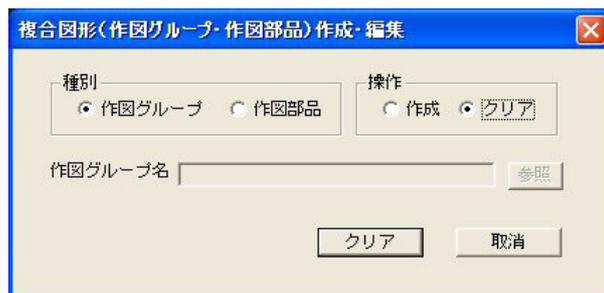
〔作図グループ〕（〔作図部品〕）を選択
〔作成〕を選択
〔作図グループ名〕（〔作図部品名〕）入力又は〔参照〕で名前を入力
〔書込み〕で作図グループ（作図部品）を作成します。

作成では次の点に注意してください。

1. 作図グループ・作図部品共配置するピクチャ倍率と同じピクチャ倍率で図形を作成してください。（文字、マーク等の大きさに影響します）
2. 作図グループ内に作図グループ・作図部品を配置することができます。
3. 作図部品内に作図部品は配置できますが作図グループは配置できません。

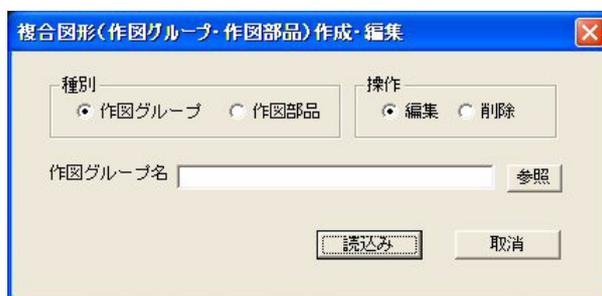
作図グループ（作図部品）のクリア
作成中（修正中）の作図グループ（作図部品）をクリア（現ピクチャの名前及び図形を削除）します。

現ピクチャに図形があるとクリア（又は作成）処理になります。



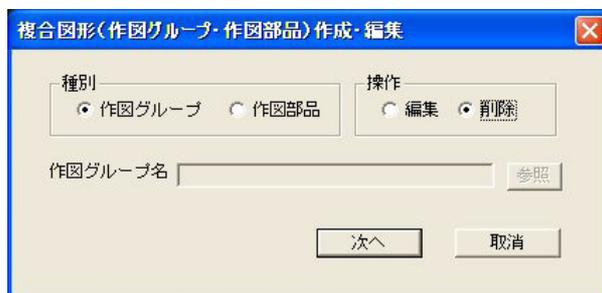
[クリア] を選択
[クリア] で作図グループ（作図部品）をクリア。

作図グループ（作図部品）の修正
作図グループ（作図部品）を修正します。
現ピクチャに図形がなければ修正（又は削除）処理になります。
ピクチャ倍率を配置するピクチャの倍率と同じにしてから修正を行ってください。（文字、マーク等の大きさに影響します）



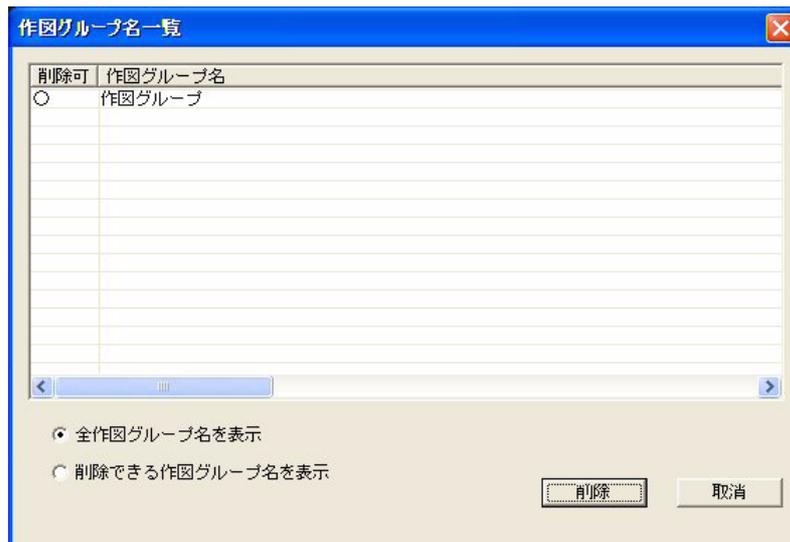
[作図グループ]（[作図部品]）を選択。
[編集] を選択。
[作図グループ名]（[作図部品名]）入力又は [参照] で名前を入力。
[読み込み] で作図グループ（作図部品）を現ピクチャに読み込む。
ピクチャ名に作図グループ（作図部品）名が設定されます。
図形を編集した後、作図グループ（作図部品）の作成で修正を反映させます。

作図グループ（作図部品）の削除
作図グループ（作図部品）を削除します。
現ピクチャに図形がなければ削除（又は修正）処理になります。



[作図グループ]（[作図部品]）を選択。
[削除] を選択。
[次へ] で作図グループ（作図部品）名の一覧を表示する。

削除する作図グループ（作図部品）名を選択



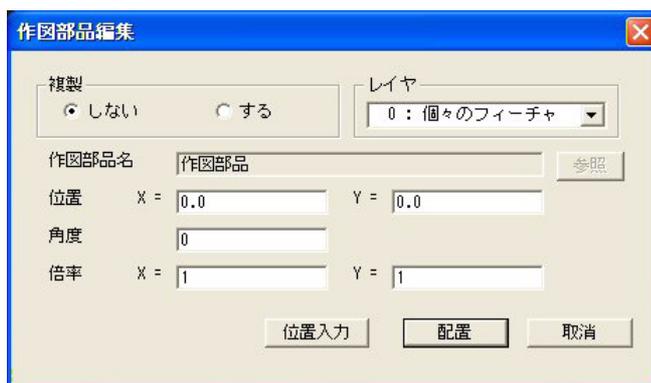
〔全作図グループ名を表示〕（〔全作図部品名を表示〕）又は
 〔削除できる作図グループ名を表示〕（〔削除できる作図部品名を表示〕）で
 作図グループ（作図部品）名の一覧を表示。
 削除する作図グループ（作図部品）名を選択。
 〔削除〕で作図グループ（作図部品）を削除。
 配置されている作図グループ（作図部品）は削除できません。

- ・ 配置修正（ダイアログモードのみ）
 配置されている作図部品の配置情報（位置、角度、倍率）を修正又は複製します。

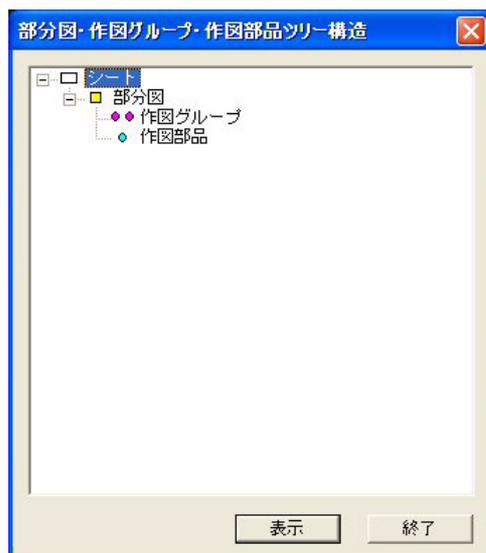
【構文】



IS : 修正する作図部品を選択



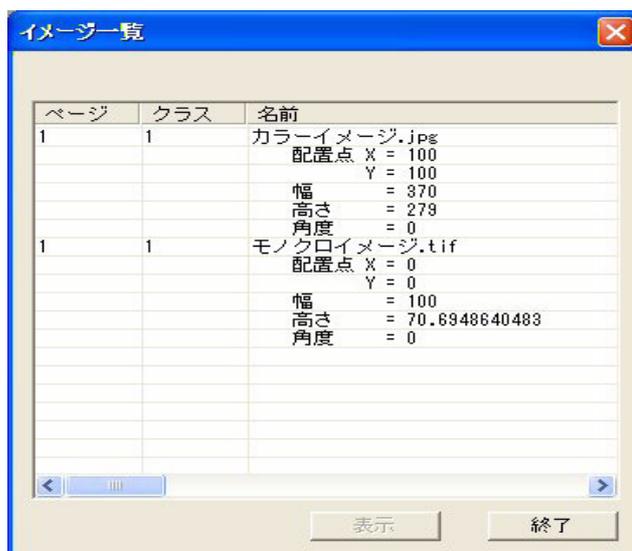
複製〔しない〕〔する〕を選択。
 〔レイヤ〕を選択。
 レイヤ0は、作図部品内の個々の図形で表示の制御を行います。
 レイヤnは、作図部品で表示の制御を行います。
 〔位置〕、〔角度〕、〔倍率〕を入力。
 〔配置〕で配置情報を修正（複製）。
 〔位置〕を入力するかわりに〔位置入力〕を選択すると
 デジタル入力での位置入力ができます。



部分図（ピクチャ）、作図グループ、作図部品を選択して〔表示〕を選択すると選択された部分図（ピクチャ）、作図グループ、作図部品を点滅表示します。

- ・イメージ一覧

図面配置ピクチャに配置されているイメージ（TIFF、JPEG）の一覧を表示します。



イメージを選択して〔表示〕を選択すると選択されたイメージを点滅表示します。

- ・レイヤ名一覧

レイヤ名の一覧を表示します。

レイヤはクラスに割当てられているものとして処理しています。

4. ペンの数は256に固定する。
5. 既定義色（1～16）は、POP ファイルの定義を使用する。
ユーザ定義色（17～256）は、モデルに定義されている色を使用する。
6. 既定義線幅（1～9）は、POP ファイルの定義を使用する。
ユーザ定義線幅（11～16）は、モデルに定義されている線幅を使用する。定義がない場合は線幅1を使用する。

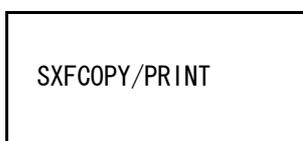
です。

POP ファイルのサンプル SXFPRINT.POP は、sample/PLOT にあります。

○コピー印刷（SXFCOPY/PRINT）（ダイアログモードのみ）

図面をコピー印刷する。

【構文】



SXFCOPY/PRINT は HCOPY/PRINT とほぼ同じ機能ですが違いは、

1. 現在の図面配置ページの画面に表示されている部分を印刷する。
2. アイテムの並び順に印刷する。
3. ペン割当はカラーに固定する。
4. ペンの数は256に固定する。
5. 既定義色（1～16）は、POP ファイルの定義を使用する。
ユーザ定義色（17～256）は、モデルに定義されている色を使用する。
6. 既定義線幅（1～9）は、POP ファイルの定義を使用する。
ユーザ定義線幅（11～16）は、モデルに定義されている線幅を使用する。定義がない場合は線幅1を使用する。

です。

POP ファイルのサンプル SXFPRINT.POP は、sample/PLOT にあります。

2.11.3 モデルファイルのダウンコンバート

〔リクエスト番号〕：E18001
 〔コマンド〕：mdlconv
 〔リリース〕：18.01
 〔区分〕：機能追加
 〔メニュー〕：
 〔更新日〕：2006/09/01
 〔担当者〕：YMA

【要望】

モデルファイルを下位のバージョンでも読込めるようにしてほしい。

【対応】

モデルファイルを下位のバージョンでも読めるようにしました。

2.11.4 モデル検索：モデル情報変更時レジスターにモデル情報をセット

〔リクエスト番号〕：E18004
〔コマンド〕：MDLDISP, INFUPDATE
〔リリース〕：18.01
〔区分〕：機能追加
〔メニュー〕：
〔更新日〕：2007/02/19
〔担当者〕：YMA

【要望】

『モデル検索』『情報変更』でモデル選択したときにレジスターにモデル情報をセットしてほしい。

【対応】

『モデル検索』『情報変更』でモデル選択したときにレジスターにモデル情報をセットするようにしました。
B18033で修正済みです。

2.11.5 モデル検索：モデル情報変更で非表示の項目も値が設定できるようにしてほしい

〔リクエスト番号〕：E18005
〔コマンド〕：MDLDISP, INFUPDATE
〔リリース〕：18.02
〔区分〕：機能追加
〔メニュー〕：
〔更新日〕：2007/02/19
〔担当者〕：YMA

【要望】

モデル情報変更でモデルタイトルの非表示の項目も値が設定できるようにしてほしい。

【対応】

モデル情報変更で非表示の項目も値が設定できるようにしました。

2.11.6 モデル検索：モデル情報変更で変更内容をレジスタにセットしてほしい

〔リクエスト番号〕：E18023
〔コマンド〕：MDLDISP, INFUPDATE
〔リリース〕：18.02
〔区分〕：機能追加
〔メニュー〕：
〔更新日〕：2007/02/29
〔担当者〕：YMA

【要望】

モデル情報変更で項目内容を変更後「書込み」しないとレジスタに変更内容がセットされないが「書込み」しなくてもセットするようにしてほしい。

【対応】

モデル情報変更で変更内容をレジスタにセットするようにしました。

2.11.7 モデル検索：モデル情報変更で変更前の内容を履歴リストにセットしてほしい

〔リクエスト番号〕：E18024
〔コマンド〕：MDLDISP, INFUPDATE
〔リリース〕：18.02
〔区分〕：機能追加

[メニュー] :
 [更新日] : 2007/03/29
 [担当者] : YMA

【要望】

- ①情報を変更するモデルをピック
 (モデルタイトルが表示される)
- ②項目番号をピック (既に設定されている内容を"○×△"とする)
- ③ここでキーボードの↑キーを押す
- ④既に設定設定されていた内容"○×△"がプロンプト領域に出てくる

③、④ができるようにしてほしい。

【対応】

モデル情報変更で変更前の内容を履歴リストにセットするようにしました。

2.11.8 共通データファイル

[リクエスト番号] : なし
 [プログラム] : COMMON/WRITE、COMMON/READ
 [リリース] : 19.00
 [区分] : 変更
 [メニュー] : なし
 [更新日] : 2009/04/01
 [担当者] : AYO

【対応】

バージョン 19 の共通データファイルでは以下の変更がなされています。

- ・バージョン番号レコード
- ・ドロ잉ヘッダーレコード
- ・サブレコードタイプの廃止と統合

2.11.9 マクロのテンポラリウインドでサブグラフィックウインドを利用する

[リクエスト番号] : E18016
 [コマンド] : マクロ関数 mopen
 [リリース] : V18.02
 [区分] : 追加
 [メニュー] : なし
 [更新日] : 2007/02/28
 [担当者] : AYO

【要望】

マクロ関数 `mopen(m, uv1, uv2, ncol, nrow)` ではグラフィックウインドを超える位置が指定できないが、サブグラフィックウインドやメニューゾーンの上を開けるようにしてほしい。これができるれば図形全体を見ながらテンポラリウインドを使用した作業ができる。

【対応】

`mopen(m, uv1, uv2, ncol, nrow)` で指定できる範囲を画面全体に拡張しました。

- テンポラリウインドを開く

`mopen(m, uv1, uv2, ncol, nrow)`

`uv1, uv2` : テンポラリウインドの位置。メニューゾーン定義ファイル `ACADZON.MEN` の `Graphic zone` 行で定義されている領域 `<0, 0> <2665, 2047>` の範囲内で指定する。

2.11.10 マクロのテンポラリウインドウの縦横比率が初期状態と異なっている

[リクエスト番号]: E20041
 [コマンド]: マクロ関数 msym
 [リリース]: 19.15, 20.08
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2015/11/12
 [担当者]: AYO

【要望】

ウインドウがリサイズや最大化されていると、テンポラリウインドウの縦横比率が初期状態と異なっている。このような場合にマクロ関数 msym() でシンボルを表示すると、シンボル形状が縦横比率の変化に対応できていないので、他の情報との位置関係がずれている。msym() でシンボルを表示するときに、縦横比率の変化に対応して、シンボル形状を伸縮させて表示する機能を用意して欲しい。

【対応】

テンポラリウインドウにシンボルを表示する関数 msym() に、引数 flag を追加しました。

```
msym(name, x, y, flag)
msym(name, uv, flag)
```

シンボル形状をウインドウの縦横比率の変化に合わせて伸縮させて表示するかどうかを指定する。省略可。

```
flag == 0 : 伸縮しない。(省略時)
flag == 1 : 伸縮させる。
```

2.11.11 マクロ実行中にピクチャの表示を抑止する

[リクエスト番号]: E18051
 [コマンド]: RPT/ONN、RPT/OFF
 [リリース]: 18.02
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2007/07/06
 [担当者]: AYO

【要望】

マクロで全ピクチャを順番に処理する場合、ピクチャの切り替えと全体表示で図形要素が二度表示される。表示を抑止できればマクロの処理時間が短縮できる。

【対応】

ピクチャや図面配置の表示を抑止するコマンドを追加しました。

- ピクチャ図形や図面配置状態の表示を一時的に抑止する

マクロの処理時間を短縮するために、PIC コマンドでピクチャを切り替えたときや全体表示にしたときに図形表示を抑止するすることができます。

```
RPT/OFF : ピクチャの図形要素や図面配置状態の表示をスキップする。
RPT/ONN : 表示をスキップしない。
```

マクロを終了したときには RPT/ONN の状態に戻る。

【マクロでの使用例】

```

/*
 * 全ピクチャの、クラス 100 の要素をクラス 201 にする。
 */
RPT/OFF
MENU/OFF
LIST/OFF

picsave = #CURPIC;
PIC NXT
pic1st = #CURPIC;
for (;;) {
  PIC NXT
  ZOOM/ALL
  MCLS 100
  error();
  ACT/ALL <CE>
  if (error() == 0) {
    GLS/MOD 201 USEACT
  }
  if (#CURPIC == pic1st) { break; }
}

RPT/ONN
PIC [picsave]
MAIN

```

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加
 V [98, 6, 7] !RPT/ONN!
 V [98, 6, 8] !RPT/OFF!

2.11.12 モデル変更の有無を設定するマクロ関数

```

[ リクエスト番号 ]: E19009
[ コマンド       ]: マクロ関数 dbchgd()
[ リリース      ]: 18.17、19.02
[ 区分         ]: 追加
[ メニュー      ]: なし
[ 更新日       ]: 2010/01/21
[ 担当者       ]: AYO

```

【要望】

出図時にマクロで図面配置情報を一時的に変更している。複数のモデルの出図を連続で行う場合、出図モデルを呼び出すときに直前のモデルの保存確認の警告が表示される。この警告を出さないようにしてほしい。

【対応】

マクロ関数 dbchgd() に、モデル変更の有無を設定する機能を追加しました。

- モデル変更の有無を調べる。

```
s = dbchgd();
```

モデルが変更されているときは 1、変更されていないときは 0 を返す。
 モデルが変更されているというのは以下のうちの一つ以上が該当する。

- (1) アイテムが変更されている。
- (2) ラスター背景が変更されている。
- (3) 図面配置情報が変更されている。
- (4) モデルタイトルが変更されている。
- (5) ドローイングタイトルが変更されている。

●モデル変更の有無を設定する。

dbchgd(val)

val : モデル変更の有無
 == 0 : モデルは変更されていない。
 == 1 : モデルは変更されている。

- ・ Advance CAD version 18 以下
 ここでの設定対象は、上記「モデル変更の有無を調べる」での (2) ~ (5) の変更状態を設定します。
 (1) のアイテムが変更されている状態に対しての設定はできません。
- ・ Advance CAD version 19 以上
 ここでの設定対象は、上記「モデル変更の有無を調べる」での (3) ~ (5) の変更状態を設定します。
 (1) のアイテムが変更されている状態に対しての設定はできません。
 V19 から、ラスター背景はアイテム化されました。
 (2) のラスター背景が変更されている状態は (1) に含まれます。

使用例

```
/* 現在のモデル変更の有無を保持しておく */
modified = dbchgd();

|

図面配置情報を変更し、出図する

|

/* モデル変更の有無を元に戻す */
dbchgd(modified);
```

2.11.13 マクロの実行結果を1度のアンドゥで元に戻す

[リクエスト番号]: E20026
 [コマンド]: マクロ
 [リリース]: 19.14、20.07
 [区分]: 追加
 [メニュー]: あり
 [更新日]: 2015/2/2
 [担当者]: AYO

【要望】

マクロで一連の処理をして作成されたアイテムを元に戻そうとすると、相当な回数の編集戻しが必要になる。
 一連の処理でできるアイテムを同一ブロック内として、1回の編集戻しで元に戻るようにして欲しい。

【対応】

<CE> 入力時のアンドゥブロックカウントの自動更新を中止するコマンドを追加しました。
このコマンドはマクロ内から呼び出します。

UNDO/OFF : このコマンドが呼び出された後は <CE> によるアンドゥブロックカウンの自動更新は行いません。

この設定は UNDO/ONN コマンドが呼び出された場合、またはマクロの実行を終えた場合に解除します。

UNDO/ONN : 現在の位置でアンドゥブロックカウントを更新します。

このコマンドが呼び出された後は <CE> によるアンドゥブロックカウントの自動更新を行います。(通常の状態)

【メニュー】

ACADCMD.MEN に、以下の行を追加

V [98, 6, 11] !UNDO/ONN!

V [98, 6, 12] !UNDO/OFF!

2.11.14 アテンションキー入力を無効にする

[リクエスト番号]: E20027
[コマンド]: マクロ
[リリース]: 19.14、20.07
[区分]: 追加
[メニュー]: あり
[更新日]: 2015/2/2
[担当者]: AYO

【要望】

アテンションキー入力でマクロの実行を終了しないようにして欲しい。

【対応】

アテンションキー入力を無効にするコマンドを追加しました。
このコマンドはマクロ内から呼び出します。

ATTN/OFF :

このコマンドが呼び出された後はアテンションキー入力を無効にします。

この設定は ATTN/ONN コマンドが呼び出された場合、またはマクロの実行を終えた場合に解除します。

ATTN/ONN :

このコマンドが呼び出された後はアテンションキー入力を有効にします。(通常の状態)

【メニュー】

ACADCMD.MEN に、以下の行を追加

V [98, 6, 13] !ATTN/ONN!

V [98, 6, 14] !ATTN/OFF!

2.12 システム管理者向けの機能

2.12.1 メニューとメッセージのフォントサイズ

[リクエスト番号]: E18106
[コマンド]: -
[リリース]: Windows 版 - 18.15
Solaris 版、Linux 版 - 18.16、19.01
[区分]: 変更
[メニュー]: なし
[更新日]: 2009/07/10
[担当者]: ANS

【要望】

解像度が大きくて、サイズが比較的小さなモニタ（12インチ程度）で Advance CAD を使用すると、メッセージとプロンプト領域に表示される英数字が小さくて読みにくい。フォントサイズを指定できるようにしてほしい。

【対応 - Windows 版】

フォントサイズとして ACADDEF.MEN で指定する BTNFONT の値を採用するように変更しました。

●メッセージエリアのフォントサイズ（Windows 版）

デフォルトのフォントサイズは menu フォルダのファイル ACADDEF.MEN の BTNFONT 行で 12 ドットに指定しています。

変更する場合は menu フォルダのファイル USERDEF.MEN の BTNFONT 行で指定します。USERDEF.MEN がなければ、ACADDEF.MEN を USERDEF.MEN にコピーし、コピー後の USERDEF.MEN を修正します。

例えば 14 ドットにしたい場合は次のように記述します。

変更前: GDIENV !BTNFONT! [12]
変更後: GDIENV !BTNFONT! [14]

8 以下の値が指定されると 8 になります。上限のチェックは行っていません。BTNFONT 行がない場合は自動計算します。ディスプレイの縦横比によって異なりますが、概ね、横方向の解像度の 1/100 となります。

ウィンドウがリサイズされた場合、ここで規定されたフォントサイズとリサイズの比率によって、表示で使用するフォントサイズを決定します。

【対応 - Solaris 版、Linux 版】

●メッセージエリアのフォントサイズ（Solaris 版、Linux 版）

メニューやメッセージで使用するフォントは、Advance CAD バージョン 18 から X のリソースで指定するようになっていました。具体的には、ホームディレクトリのファイル Acad 内の記述を .cshrc で X のリソースとして設定します。

バージョン 19 では、ホームディレクトリにファイル AcadUser があれば、AcadUser での記述を優先するように変更しました。ユーザがフォントやフォントサイズを変更するために追加した機能です。

Acadには以下のように記述されています。
 (フォント名が長いので以下の記述ではフォント名を省略しています。正しいフォント名は実際のAcadをご覧ください。)

Solaris 版

```
!
! Filename : Acad
!
! Solaris 10
AdvanceCAD. Alphafont. Large: -ricoh-hg .. --12-0-0-0-m-0-jisx0201. 1976-0
AdvanceCAD. Kanjifont. Large: -ricoh-hg .. --12-0-0-0-m-0-jisx0208. 1983-0
!
! Exceed V9 for Windows
!AdvanceCAD. Alphafont. Large: -ricoh-hg .. --12-0-0-0-m-0-jisx0201. 1976-0
!AdvanceCAD. Kanjifont. Large: -ricoh-hg .. --12-0-0-0-m-0-jisx0208. 1983-0
!
! End of file
```

Linux 版

```
!
! Filename : Acad
!
! RHEL ES V4
AdvanceCAD. Alphafont. Large: -mplus .. --12-120-75-75-c-60-jisx0201. 1976-0
AdvanceCAD. Kanjifont. Large: -mplus .. --12-120-75-75-c-120-jisx0208. 1990-0
AdvanceCAD. Alphafont. Medium: -mplus .. --10-100-75-75-c-50-jisx0201. 1976-0
AdvanceCAD. Kanjifont. Medium: -mplus .. --10-100-75-75-c-100-jisx0208. 1990-0
AdvanceCAD. Alphafont. Small: -mplus .. --8-0-75-75-c-0-jisx0201. 1976-0
AdvanceCAD. Kanjifont. Small: -mplus .. --8-0-75-75-c-0-jisx0208. 1990-0
!
! Exceed V9 for Windows
!AdvanceCAD. Alphafont. Large: -ricoh-hg .. --12-0-0-0-m-0-jisx0201. 1976-0
!AdvanceCAD. Kanjifont. Large: -ricoh-hg .. --12-0-0-0-m-0-jisx0208. 1983-0
!
! End of file
```

書式は以下の通りです。

- ・ 1カラム目からアプリケーション名、書体、サイズ分類、フォント名を記述します。
 アプリケーション名
 "Advance CAD"で固定。
- 書体
 Alphafont : 英数字書体。jisx0201を指定します。
 Kanjifont : 漢字書体。jisx0208を指定します。
- サイズ分類
 Large : Advance CAD 起動時のウィンドウサイズの時に使用するフォント。
 Medium : 起動時のウィンドウサイズより小さくリサイズされた時に使用するフォント。
 Small : 更に小さなウィンドウの時に使用するフォント。
 スケーラブルフォントの場合はLargeで指定されたフォントサイズをデフォルトサイズとします。MediumおよびSmallの指定は不要です。記述されていても無視します。
- フォント名
 使用できるフォント名の探し方は後述します。
 フォント名には4つの数字が“-”で区切られて並んでいます。4つの数字のうちの最初の数字を「ピクセルポイント」といいます。
- ・ アプリケーション名と書体、書体とサイズ分類の間は"."を記述します。
- ・ サイズ分類とフォント名の間は1つ以上の空白を記述します。
- ・ 1カラム目に"! "が記述されている行は注釈行になります。

Solaris 版ではスケーラブルフォントをデフォルトサイズ 12 ドットとするように記述していません。

Linux 版では jisx0201 および jisx0208 のスケーラブルフォントが存在しないのでビットマップフォントを記述しています。

スケーラブルフォントの場合はデフォルトサイズを変更できます。

Solaris 版でデフォルトサイズを 14 ドットに変更する場合は以下のようにします。

- (1) ホームディレクトリのファイル Acad を AcadUser という名前でコピーします。
- (2) AcadUser の 5 行目と 6 行目のピクセルポイントフィールドの 12 を 14 に変更します。
変更後の 5 行目と 6 行目は以下の通り。
AdvanceCAD. Alphafont. Large: -ricoh .. --14-0-0-0-m-0-jisx0201. 1976-0
AdvanceCAD. Kanjifont. Large: -ricoh .. --14-0-0-0-m-0-jisx0208. 1983-0

Solaris 版の Advance CAD を Windows の Exceed 経由で使用する場合は以下のようにします。

- (1) ホームディレクトリのファイル Acad を AcadUser という名前でコピーします。
- (2) AcadUser の Solaris 用の記述を注釈にし、Exceed 用の記述を有効にします。

メニューやメッセージ領域のフォントサイズは以下のように決定します。

- (1) スケーラブルフォント
AdvanceCAD. Alphafont. Large と AdvanceCAD. Kanjifont. Large で指定されたフォントが両方ともスケーラブルフォントの場合は、ピクセルポイントフィールドで指定されたサイズをデフォルトサイズとします。
ウィンドウがリサイズされた場合、ウィンドウの大きさによって 8 ドットからデフォルトサイズの間でフォントサイズが変化します。
Medium と Small の指定は無視します。
Alphafont と Kanjifont でフォントサイズが違っていてもかまいません。
- (2) ビットマップフォント
AdvanceCAD. Alphafont. Large と AdvanceCAD. Kanjifont. Large で指定されたフォントのどちらか一方または両方がスケーラブルフォントでない場合は、Large で指定されたフォントをデフォルトフォントとします。
ウィンドウがリサイズされた場合は、ウィンドウの大きさによって Large、Medium または Small で指定されたフォントを使用します。

Advance CAD で使用できるフォントを探す

以下の手順で Advance CAD で利用可能なフォントを探すことができます。

```
prompt% xlsfonts > /tmp/log1 ----- (1)
prompt% grep jisx0201 /tmp/log1 > /tmp/log2 ----- (2)
prompt% grep jisx0208 /tmp/log1 > /tmp/log3 ----- (3)
prompt% grep "¥-0¥-0¥-0¥-0¥-" /tmp/log2 > /tmp/log41 ----- (4)
prompt% grep "¥-0¥-0¥-0¥-0¥-" /tmp/log3 > /tmp/log42 ----- (4)
```

- (1) フォントを検索
全てのフォントを検索します。
- (2) Advance CAD で使用できる英数字フォントの選択
Advance CAD では英数字フォントとして jisx0201 を使用します。
ここで抽出されたフォントが Advance CAD で使用できる英数字フォントです。
ビットマップフォントとスケーラブルフォントが含まれています。
- (3) Advance CAD で使用できる漢字フォントの選択
Advance CAD では漢字フォントとして jisx0208 を使用します。
ここで抽出されたフォントが Advance CAD で使用できる漢字フォントです。
ビットマップフォントとスケーラブルフォントが含まれています。
- (4) スケーラブルフォントのみを抽出
スケーラブルフォントには、必ず "-0-0-0-0-" が含まれますので、その文字列で絞り込みを行います。

上記で抽出されたフォントから、使用したいフォントを選んで AcadUser で指定します。スケラブルフォントを指定する場合はフォントサイズを記述する必要があります。記述する場所は文字列“-0-0-0-0-”の先頭の0の場所にサイズを埋め込みます。

2.12.2 ACAD.SET で環境変数を利用する

[リクエスト番号]: E18091
 [コマンド]: ACAD.SET
 [リリース]: 18.13
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2008/09/29
 [担当者]: AYO

【要望】

モデルファイルをユーザごとのフォルダーに分けて管理している。現状では ACAD.SET をユーザごとに用意しなければならない。ACAD.SET の記述に環境変数 USERNAME が使用できれば、同じ ACAD.SET を利用できるので管理が容易になる。

【対応】

ACAD.SET 内での変数定義行の右辺に環境変数を記述できるようにしました。

ホームディレクトリなどを変数に定義して、ディレクトリ指定部分に定義した変数を記述できる。

● 変数の定義

@変数 = 値

1 カラム目に “@” を記述し、続けて変数と値を “=” で区切って記述する。

スペースとタブコードは無視される。

変数は 80 バイト以下で、“=”、スペース、タブコード以外の文字が使用できる。

値は 80 バイト以下で、スペース、タブコード以外の文字が使用できる。

また値には環境変数が指定できる。環境変数の指定には以下の二通りの記述方法がある。

(1) 環境変数の前後を “%” で囲む。たとえば “%USERNAME%”。

(2) 環境変数を “\${” と “}” で囲む。たとえば “\${USERNAME}”。

変数は 64 個まで定義できる。

● 変数の参照

定義された変数は格納ディレクトリの記述部分でのみ参照できる。

“@” に続けて変数を記述する。変数部分が値で置き換えられる。

● 変数の使用例

@(HOME) = %HOMEDRIVE%%HOMEPATH%

@(USER) = %USERNAME%

#MODEL# “@(HOME)/@(USER)/models/” !. MDL!

2.12.3 キャプションのクローズボタンの有効・無効 (Windows 版のみ)

[リクエスト番号]: E18078
 [コマンド]: -
 [リリース]: 18.12
 [区分]: 既存
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2008/05/29
 [担当者]: AYO

【要望】

キャプションのクローズボタンの有効・無効を選択できるようにして欲しい。

【対応】

キャプションのクローズボタンの有効・無効を選択可能にしました。選択方法は ACAD.SET で指定します。

ACAD.SET に次の文字列を記述するとクローズボタンが有効となります。
文字列は1カラム目から記述します。

ENABLE_CLOSE

この文字列を記述しないと、クローズボタンは無効です。

2.12.4 ウィンドウの最大化 (Windows 版のみ)

[リクエスト番号]: E18100
[コマンド]: -
[リリース]: 18.15
[区分]: 既存
[メニュー]: なし
[更新日]: 2009/07/06
[担当者]: ANS

【要望】

ウインドの最大化をフレームのダブルクリックで行いたい。

【対応】

ウインドの最大化の有効・無効を選択可能にしました。無効にする場合のみ、ACAD.SET で指定します。

ACAD.SET に次の文字列を記述するとウインドの最大化が無効となります。
文字列は1カラム目から記述します。

DISABLE_MAXIMIZE

この文字列を記述しないと、ウインドの最大化は有効です。

ウインドの最大化には、次の二つの方法があります。

- ・ウインドキャプションの最大化ボックスのクリック
- ・ウインドキャプションのダブルクリック

2.12.5 クラスとレビジョンの初期値を設定する

[リクエスト番号]: E18072
[コマンド]: CONS/WRITE、CONS/READ
[リリース]: 18.11
[区分]: 追加
[メニュー]: なし
[更新日]: 2008/03/13
[担当者]: AYO

【要望】

SXF の使用に合わせて運用しているが、起動時のアイテムカラーが黒になっている。アイテムを黒色で作成することはほとんどないのでいつもアイテムカラーを変更している。

カラー割付はアイテムレビジョンになっているので、アイテムレビジョンの初期値が設定できれば上記手順を省略できる。

【対応】

クラスとレビジョンの初期値を定数ファイルに持つことができるようにしました。

2.12.6 CTRL/* キーにコマンドを割り付ける

[リクエスト番号]: E18061
 [コマンド]: -
 [リリース]: 18.12
 [区分]: 追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2008/04/28
 [担当者]: AYO

【要望】

ファンクションキーへコマンド割付をして使用しているが、CTRL/A ~ CTRL/Z キーにも割付ができるようにして欲しい。

【対応】

CTRL/A ~ CTRL/Z キーにファンクションキー番号を割り当てました。

● ファンクションキー番号一覧 (CTRL/A ~ CTRL/Z)

キー	ファンクションキー番号	キー	ファンクションキー番号
CTRL/A	101	CTRL/N	114
CTRL/B	102	CTRL/O	115
CTRL/C (注1)	103	CTRL/P	116
CTRL/D	104	CTRL/Q	117
CTRL/E	105	CTRL/R	118
CTRL/F	106	CTRL/S	119
CTRL/G	107	CTRL/T	120
CTRL/H (注2)	-	CTRL/U (注5)	121
CTRL/I (注3)	109	CTRL/V (注6)	122
CTRL/J	110	CTRL/W	123
CTRL/K	111	CTRL/X	124
CTRL/L	112	CTRL/Y	125
CTRL/M (注4)	-	CTRL/Z (注7)	126

注1) Windows 版では CTRL/C になにも割り付けていない場合は、プロンプト領域で入力中の文字列をクリップボードへ CF_TEXT 形式でコピーします。

コマンドなどを割り付けると、割り付けられた動作だけを行います。

注2) CTRL/H はバックスペースキーと同じ文字コード。割り付けることはできません。

注3) CTRL/I は Tab キーと同じ文字コード。ここに割り付けると Tab キーを押したときも、ここに割り付けられた動作だけをします。

注4) CTRL/M は Enter キーと同じ文字コード。割り付けることはできません。

注5) CTRL/U に何も割り付けられていない場合は、プロンプト領域で入力中の文字列を空にします。

コマンドなどを割り付けると、割り付けられた動作だけを行います。

- 注 6) Windows 版では CTRL/V になにも割り付けていない場合は、クリップボードの文字列をプロンプト領域へ取り込みます。
コマンドなどを割り付けると、割り付けられた動作だけを行います。
- 注 7) CTRL/Z になにも割り付けられていない場合は、プロンプト領域で最後に入力した文字の削除または削除の取り消しを行います。
コマンドなどを割り付けると、割り付けられた動作だけを行います。

2.13 オプションソフト

2.13.1 DXF 変換 : Auto CAD 2007 に対応

[リクエスト番号]: E18002
 [コマンド]: DXF/READ, DXF/WRITE, DWG/READ, DWG/WRITE
 [リリース]: 18.01
 [区分]: 機能追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2006/12/15
 [担当者]: YMA

【要望】

Auto CAD 2007 に対応してほしい

【対応】

Auto CAD 2007 で作成された DXF,DWG ファイルの読み込み・書き込みができるようにしました。

変換パラメータファイル ACADDXF_PARAM.COD, ACADDWG_PARAM.COD のキーワード

```
VERSION ver
ver : Auto CAD バージョンに
      2007 を追加しました
```

2.13.2 DXF 変換 : 変換パラメータファイル

[リクエスト番号]: なし
 [コマンド]: DWG/READ, DWGWRITE
 [リリース]: 19.00
 [区分]: 機能追加
 [メニュー]: なし
 [更新日]: 2008/07/16
 [担当者]: YMA

【要望】

変換パラメータファイルを DXF 変換の場合と DWG 変換の場合とに分けてほしい。

【対応】

DXF 読み込み・DWG 読み込み

DXF 読み込みの場合、パラメータファイル DXFACAD_PARAM.COD を使用し

DWG 読み込みの場合、パラメータファイル DWGACAD_PARAM.COD を使用するよう
にしました。

DWG 読み込みでパラメータファイル DWGACAD_PARAM.COD が存在しない場合は
DXFACAD_PARAM.COD を使用します。

DXF 読み込みでパラメータを保存すると DXFACAD_PARAM.COD に保存します。

DWG 読み込みでパラメータを保存すると DWGACAD_PARAM.COD に保存します。

DXF 書き込み・DWG 書き込み

DXF 書き込みの場合、パラメータファイル ACADDXF_PARAM.COD を使用し

DWG 書き込みの場合、パラメータファイル ACADDWG_PARAM.COD を使用するよう
にしました。

DWG 書込みでパラメータファイル ACADDWG_PARAM.COD が存在しない場合は ACADDXF_PARAM.COD を使用します。
DXF 書込みでパラメータを保存すると ACADDXF_PARAM.COD に保存します。
DWG 書込みでパラメータを保存すると ACADDWG_PARAM.COD に保存します。

2.13.3 塗潰しの出力方式設定を追加

[リクエスト番号]: E20029
[コマンド]: DWG/READ, DWGWRITE
[リリース]: 19.14、20.07
[区分]: 機能追加
[メニュー]: なし
[更新日]: 2015/03/06
[担当者]: SZK

【要望】

DXF 書込み時に、塗潰しの出力方式を指定できるようにして欲しい。

【対応】

ACADDXF_PARAM.COD にパラメータ AFL_SOLID を設け、設定値によって塗潰しの出力方式を以下の通り指定可能としました。

塗潰しの変換方法

AFL_SOLID n

n = 0 : HATCHING の値によって変化します。(既定値)

HATCHING 1 : 境界線のみ出力します。

HATCHING 0 : 境界線を出力します。

R14 以降はソリッド又はハッチングに変換します。

n = 1 : 境界線のみ出力します。

n = 2 : 境界線を出力します。

R14 以降はソリッド又はハッチングに変換します。

n = 3 : 境界線を出力します。

R14 以降はハッチングに変換します。

2.13.4 自由曲線出力方式設定の追加

[リクエスト番号]: E20030
[コマンド]: DWG/READ, DWGWRITE
[リリース]: 19.14、20.07
[区分]: 機能追加
[メニュー]: なし
[更新日]: 2015/03/06
[担当者]: SZK

【要望】

直線状の自由曲線をスプラインにするか、ポリラインにするか選択できるようにして欲しい。

【対応】

ACADDXF_PARAM.COD のパラメータ SPLINE に設定値 2 を追加し、直線状の自由曲線をスプラインとして出力できるよう以下の通り修正しました。

自由曲線の変換方法

SPLINE n

- n = 0 : 直線近似してポリラインで出力します。
 n = 1 : 直線状はポリラインで、それ以外はスプラインで出力します。(既定値)
 n = 2 : 全てスプラインで出力します。

2.13.5 SolidWorks からの図形転送での配置原点 (Windows 版)

[リクエスト番号] : E17057
 [コマンド] : SWAT/DREAD
 [リリース] : 18.01
 [区分] : 機能追加
 [メニュー] : なし
 [更新日] : 2006/12/20
 [担当] : ANS

【要望】

SolidWorks から Advance CAD への順次転送で、SolidWorks の View に配置されたパートまたはアセンブリの原点を、Advance CAD のピクチャの原点に一致させて欲しい。

【対応】

現状は、SolidWorks の View の中心が、Advance CAD のピクチャの原点となるように転送している。「要望」のように転送するように変更しました。

2.13.6 SolidWorks からの図形転送での中心マーク (Windows 版)

[リクエスト番号] : E17058
 [コマンド] : SWAT/DREAD
 [リリース] : 8.02
 [区分] : 既存
 [メニュー] : なし
 [更新日] : 2007/01/05
 [担当] : ANS

【要望】

SolidWorks の中心マーク、

- Single Center Mark
- Linear Center Mark
- Circular Center Mark

を Advance CAD に転送して欲しい。Feature の Single Center Mark は、転送される。

【対応】

Annotation としての中心マークは転送の対象外でした。次のように転送します。

- Single Center Mark (二本の直線)
- Linear Center Mark (複数の直線)
- Circular Center Mark (複数の直線一つの円)

2.14 ユーザー・プログラミング・インターフェース

バージョン 19 はイメージアイテムが導入されたこと以外は大きな変更はありません。

2.14.1 データ構造の変更

● アイテム

下記のアイテムが追加されました。

ITMIMAGE

ピクチャの背景のイメージは、V19 では内部的にはアイテムとして処理するよう変更されました。イメージアイテムは今までどおりピクチャの背景として扱いますので、他のアイテムとは違うルールに従います。イメージアイテムはサブモデルや複合アイテムなど他のアイテムの一部として含めることができません。バージョン 18 以下のモデルファイル内のピクチャの背景のイメージは、それが読み込まれる時に自動的に新しいイメージアイテムに変換されます。

● サブレコード

下記のサブレコードが追加されました。

SITIMAGE

イメージアイテムのイメージデータを持つサブレコードです。イメージアイテムのみがこのサブレコードを持つことができます。

下記のサブレコードが削除されました。

サブレコードタイプ 23, 24

2.14.2 プログラミングの変更

● 公開関数の引数変更

公開関数の引数に変更になりました。

(1) const 修飾

関数内で変更しない入力引数には const をつけました。

(2) 引数変更 gmfil02、gmltn02、gmpin02、gmpon02

引数 int maxseg および Gm_geom wrkseg[] を削除しました。
typedef struct {} Gm_geom は不要となり削除しました。

(3) 引数変更 Mdlread、Mdlread1

引数 double* ang は double ang に変更しました。

(4) 引数変更 SymGenI

引数 const int* iasclst は int iasclst[][5] に変更しました。

(5) 引数変更 gmuctn3g

最後の二つの出力引数 DPOINT p[], duoble t[] を削除しました。

(6) 引数変更 Mdlwrite、Mdlread、Mdlread1、Mdlrplpic、Subput

入力引数をひとつ追加しました。デフォルト引数なので、不要ならば省略できます。

(7) 構造体のメンバを追加 IDENTINFO
メンバ int pid と int wid を追加しました。

(8) 機能廃止 IdentItem、IdentItems
次候補アイテムの問い合わせ機能を廃止しました。代わりに IdentItemCandidate() および IdentItemsCandidate を使用します。

● アイテムをピック

【関数名】

IdentItem

【機能】

アイテムをピックする。

【呼出し形式】

```
int IdentItem(int cmdlvl, const TOKEN* token = NULL, int iswt = 0)
```

【入力引数】

cmdlvl	コマンドレベル。(1, 3, 4, 5)
token	トークン
token.typ	token.typ TknCMD または token が NULL: 初期化する。 ・次候補アイテム情報のクリア
	TknCOD、TknDIG : 指定された座標でアイテムを選択する。
	TknSPC : 次候補アイテムを選択する。
	TknIDP、TknSCL : 指定されたアイテム識別子でアイテムを選択する。
	token.pnt token.typ が TknCOD、TknDIG のとき : 座標値。
	token.scl token.typ が TknIDP、TknSCL のとき : アイテム識別子。
iswt	アテンションボックスを表示するかどうか。 0 : 表示しない。 1 : 表示する。

【返り値】

token.typ が TknCOD、TknDIG、TknSPC、TknIDP、TknSCL のとき、選択されたアイテムのアイテム識別子。

0 : アイテムが選択できない または 引数が不正。

token.typ が TknCMD のとき
常に 0。

【補足】

次候補アイテムの有無を調べるには IdentItemCandidate() の返り値をみる。返り値が 2 以上ならば次候補アイテムが存在する。

注意

詳細な情報が必要なときは IdentInfo 関数を参照。

【例】

```
/*
```

```
* 選択された曲線アイテムの中点をメッセージ領域に表示する。
*/

#include "acaddef.h"
#include "acadprm.h"
#include "acadusr.h"
#include "acadupi.h"

#define CMDLVL 1

void ucmd01(TOKEN *token) {
    int idptr;

    switch (token->typ) {

    case TknCMD: /* コマンドトークン */
        /*
         * 初期設定。
         * IdentItem 関数の初期化を行う。
         * 入力処理関数は、トークンタイプ TknCMD でコマンド処理関数を呼出す前に
         * IdentItem 関数を初期化している。従って下の1行は不要。あってもよい。
         */
        (void) IdentItem(CMDLVL);
        break;

    case TknCOD: /* 座標トークン */
    case TknDIG: /* デジタイズ座標トークン */
    case TknIDP: /* アイテム識別子トークン */
    case TknSPC: /* スペースキートークン */
        /*
         * アイテムを選択する。
         * IdentItem 関数の概要
         * TknCOD、TknDIG が渡されたときの処理
         * 渡された点でアイテムをピックする。
         * ピックできればそのアイテムのアイテム識別子を返す。
         * ピックできなければ 0 を返す。
         * TknIDP が渡されたときの処理
         * 渡されたアイテム識別子を調べる。
         * アイテム識別子が正しければそのアイテム識別子を返す。
         * アイテム識別子が正しくなければ 0 を返す。
         * TknSPC が渡されたときの処理
         * 次候補アイテムの有無を調べる。
         * 次候補アイテムがあればそのアイテムのアイテム識別子を返す。
         * 次候補アイテムがなければ 0 を返す。
         */
        if ((idptr = IdentItem(CMDLVL, token, 0)) == 0) {
            /* アイテムが選択できなかった */
            Errorcode(9000001);
        } else {
            /*
             * アイテムが選択できた。
             * 選択された曲線アイテムの中点座標をメッセージ領域に表示する。
             * メッセージ番号 9000001 : "中点 X"
             * メッセージ番号 9000002 : "中点 Y"
             */
            DPOINT pmid;
            Mesageras(MSGZONE, 0, 0);
            if (gmpntpdv(1, idptr, 1, 0.0, (DPOINT *)NULL, &pmid) == 1) {
                Mesagdisp(MZONECOLOR1, 1, 1, 9000001, 3, &pmid.x);
                Mesagdisp(MZONECOLOR1, 2, 1, 9000002, 3, &pmid.y);
            }
        }
        break;
    }
}
```

```

case TknEOC: /* C E トークン */
    break;

case TknEXIT: /* コマンド終了トークン */
    return;

default: /* その他のトークン */
    Errorcode(9000002); /* 無効な入力です */
    break;
}

/* 入力促進メッセージ */
if (IdentItemCandidate(CMDLVL) >= 2) { /* 次候補アイテムの有無を調べる */
    /*
     * 次候補アイテムあり。
     */
    Opmsgcode(CMDLVL, 9000003); /* 中点を求める曲線アイテムを選択
                               または<SP>(次候補)を入力 */
} else {
    /*
     * 次候補アイテムなし。
     */
    Opmsgcode(CMDLVL, 9000004); /* 中点を求める曲線アイテムを選択 */
}
}

```

● 複数アイテムの自動選択

【関数名】

IdentItems

【機能】

まず、与えられた点でアイテムをピックする。
 アイテムがピックできないときは矩形または多角形領域でのアイテムの選択であるものとし「複数アイテムの自動選択コマンド (割り込みコマンド)」を起動して呼び出し元に戻る。
 選択されたアイテムはハイライトアイテムリストに追加される。

【呼出し形式】

```
int IdentItems(int cmdlvl, TOKEN *token = NULL, int flag = 0)
```

【入力引数】

cmdlvl	コマンドレベル。(1, 3, 4, 5)
token	トークン token.typ TknCMD または token が NULL: 初期化する。 ・次候補アイテム情報のクリア ・最後の操作情報のクリア
	TknCOD、TknDIG : 指定された座標でアイテムをピックする。 ピックできないときは矩形または多角形での領域指定とみなし「複数アイテムの自動選択コマンド (割り込みコマンド)」を起動する。 選択されたアイテムはハイライトアイテムリストに追加される。 TknDIG のときに token.scl が 1 のとき (コントロール/シフトキーが押されていたとき) は選択されたアイテムをハイライトアイテムリストから排除する。

TknSPC	:	次候補アイテムがあれば、前に追加されたアイテムをハイライトアイテムリストから排除し、次候補アイテムをハイライトアイテムリストに追加する。
TknBSP	:	前回の操作を元に戻す。さらに続けて TknBSP が渡されるとハイライトアイテムリストに追加されているアイテムを一つずつ排除する。
TknIDP、TknSCL	:	指定されたアイテム識別子をハイライトアイテムリストに追加する。
TknITM	:	複数アイテムの自動選択コマンドからの完了通知。
TknEOC	:	今回処理したアイテムのアイテム識別子を次回以降に参照するために保存しておく。保存対象は3番目の引数 flag で指定する。
TknMDF	:	TknEOC で保存されていたアイテム識別子 (PRV) またはアクティブリスト内のアイテム識別子 (USEACT) をハイライトアイテムリストに追加する。どちら (PRV か USEACT) を追加するかは token.cid で指定する。
token.cid		
token.typ が TknMDF のとき	:	コマンド修飾子のコマンド番号。 PRV [34, 1, 207] USEACT [34, 1, 1]
token.pnt		
token.typ が TknCOD、TknDIG のとき	:	座標値。
token.scl		
token.typ が TknDIG のとき	:	コントロールキー／シフトキーが押されていたかどうか。 0 : 押されていない (アイテムの追加) 1 : 押されていた (アイテムの排除)
token.typ が TknIDP、TknSCL のとき	:	アイテム識別子。
token.typ が TknITM のとき	:	複数アイテムの自動選択コマンドからの完了通知。 IDENT_SUCCESS : 正常。 IDENT_FAILURE : 選択できなかった。
flag	:	token.typ が TknEOC のとき、保存対象を指定する。 SAVE_LST_ITM : ハイライトアイテムリストの内容。 SAVE_NEW_ITM : 新たに作成されたアイテムのアイテム識別子。 SAVE_ACT_ITM : アクティブリスト内のアイテム識別子。 たとえば移動コマンド (MOVE) で「複製しない」ときは SAVE_LST_ITM または SAVE_ACT_ITM とし、「複製する」ときは SAVE_NEW_ITM としている。

【返り値】

token.typ が TknCOD、TknDIG のとき	:	IDENT_SUCCESS : アイテムが選択された。 IDENT_FAILURE : 引数が不正。 IDENT_CONTINUE : 複数アイテムの自動選択コマンドが起動された。
token.typ が TknSPC、TknIDP、TknSCL、TknBSP、TknMDF、TknITM のとき	:	IDENT_SUCCESS : アイテムが選択された。 IDENT_FAILURE : アイテムが選択できない または 引数が不正。
token.typ が TknEOC のとき	:	IDENT_SUCCESS : アイテム識別子が保存された。 IDENT_FAILURE : アイテム識別子が保存できない または 引数が不正。
token.typ が TknCMD のとき	:	IDENT_SUCCESS : 正常。 IDENT_FAILURE : 引数が不正。

【補足】

次候補アイテムの有無を調べるには IdentItemsCandidate() の返り値をみる。返り値が2以上ならば次候補アイテムが存在する。

【例】

```

/*
 * 複数アイテムを選択し、現在選択されているアイテム数と最後に選択された
 * アイテムのアイテム識別子をメッセージ領域に表示する。
 * <CE> で選択状態を初期化する。
 */

#include "acaddef.h"
#include "acadprm.h"
#include "acadusr.h"
#include "acadupi.h"

#define CMDLVL 1

void ucmd01(TOKEN *token) {

    switch (token->typ) {

    case TknCMD: /* コマンドトークン */
        /*
         * 初期設定。
         * IdentItems 関数の初期化を行う。
         * 入力処理関数は、トークンタイプ TknCMD でコマンド処理関数を呼出す前に
         * IdentItems 関数を初期化している。従って下の1行は不要。あってもよい。
         */
        (void) IdentItems (CMDLVL);
        break;

    case TknCOD: /* 座標トークン */
    case TknDIG: /* デジタイズ座標トークン */
    case TknIDP: /* アイテム識別子トークン */
    case TknSPC: /* スペースキートークン */
    case TknBSP: /* バックスペーストークン */
    case TknITM: /* アイテム選択トークン */
        /*
         * アイテムを選択する。
         * IdentItems 関数の概要
         * TknCOD、TknDIG が渡されたときの戻り値
         *   IDENT_SUCCESS : アイテムがピックできた。
         *   IDENT_CONTINUE : 渡された点でアイテムがピックできなかったので
         *                       矩形または多角形領域でのアイテム選択とみなし、
         *                       複数アイテムの自動選択コマンド（割り込み
         *                       コマンド）を起動した。
         *                       複数アイテムの自動選択コマンドが終了すると、
         *                       その結果はトークンタイプ TknITM で通知される。
         * TknIDP が渡されたときの戻り値
         *   IDENT_SUCCESS : アイテムが選択できた。
         *   IDENT_FAILURE : アイテムが選択できなかった。（渡されたアイテム
         *                       識別子が不正）
         * TknSPC が渡されたときの戻り値
         *   IDENT_SUCCESS : 次候補アイテムあり。
         *                       以前のアイテムを排除し、次候補アイテムを選択する。
         *   IDENT_FAILURE : 次候補アイテムはない。
         * TknBSP が渡されたときの戻り値
         *   IDENT_SUCCESS : 最後の操作を元に戻した。
         *   IDENT_FAILURE : 元に戻すべきアイテムが存在しない。
         * TknITM が渡されたときの戻り値
         *   IDENT_SUCCESS : 複数アイテムの自動選択コマンドでアイテムが選択
         *                       できた。
         *   IDENT_FAILURE : アイテムが選択できなかった。
         * 戻り値が IDENT_SUCCESS のときは、選択されたアイテムはハイライト
         * アイテムリストに追加されている（または排除されている）。
         * 戻り値が IDENT_FAILURE のときは IdentItems 関数内でエラーメッセージ

```

```
* を表示している。
*/
if (IdentItems(CMDLVL, token, 0) != IDENT_SUCCESS) {
    return;
} else {
    /*
    * アイテムが選択/排除できた。
    * 選択されているアイテム数および最後に選択されたアイテムの
    * アイテム識別子をメッセージ領域に表示する。
    * メッセージ番号 9000001 : "アイテム数"
    * メッセージ番号 9000002 : "アイテム識別子"
    */
    int nitem = rptitnum(CMDLVL); /* ハイライトアイテムリスト内のアイテム数 */
    Mesageras(MSGZONE, 0, 0);
    Mesagdisp(MZONECOLOR1, 1, 1, 9000001, 4, &nitem);
    if (nitem > 0) {
        int *idptrs = rptitmpr(CMDLVL); /* ハイライトアイテムリストのポインタ */
        int idptr = idptrs[nitem - 1]; /* 最後に選択されたアイテムのアイテム識別子 */
        Mesagdisp(MZONECOLOR1, 2, 1, 9000002, 4, &idptr);
    }
}
break;

case TknEOC: /* CE トークン */
    /*
    * 選択状態を初期化する (IdentItems 関数の初期化を行う)。
    */
    (void)IdentItems(CMDLVL);
    break;

case TknEXIT: /* コマンド終了トークン */
    return;

default: /* その他のトークン */
    Errorcode(9000001); /* 無効な入力です */
    break;
}

/* 入力促進メッセージ */
if (IdentItemsCandidate(CMDLVL) >= 2) { /* 次候補アイテムの有無を調べる */
    /*
    * 次候補アイテムあり。
    */
    Opmsgcode(CMDLVL, 9000003); /* アイテムを選択または<SP>(次候補)を入力 */
} else {
    /*
    * 次候補アイテムなし。
    */
    Opmsgcode(CMDLVL, 9000004); /* アイテムを選択 */
}
}
```

2.15 TIFF 変換

2.15.1 TIFF 出力の線幅

〔リクエスト番号〕 : E18114
 〔コマンド〕 : hp2xx
 〔リリース〕 : 18.16
 〔区分〕 : 追加
 〔メニュー〕 : なし
 〔更新日〕 : 2009/09/04
 〔担当〕 : AYO

【要望】

TIFF 変換プログラム hp2xx で、HP-GL/2 の線幅コマンド PW での線幅指定を有効にしてほしい。

【対応】

TIFF 変換時に線幅を表現するために、ap_HPGL のパラメータファイル HP2XX.PRM の HARD_LWIDE 行を“N”と指定することで、線幅分の多重線で表現していました。TIFF 変換時の線幅をより正確にするために HARD_LWIDE 行を“Y”にした場合の HP-GL/2 の線幅コマンド PW で線幅を表現する機能を追加しました。

● 図面配置状態を TIFF G4 形式のファイルに出力する

1. 対応バージョン

Advance CAD バージョン 18.16 以上

2. 概要

図面配置状態を TIFF G4 形式のファイルに出力するには以下の手順で行います。

- 1) 図面配置状態を ap_HPGL.exe で HP-GL/2 形式のファイルにする。
- 2) HP-GL/2 形式のファイルを hp2xx.exe で TIFF G4 形式のファイルにする。

上記の手順を行うために

- 1) マクロ TIFF-OUT.MAC
- 2) オンラインプロットコマンド用のバッチファイル opplot.bat
- 3) ap_HPGL.exe のパラメータファイル HP2XX.PRM

が sample ディレクトリに用意されています。

これを利用すれば TIFF-OUT.MAC を起動するだけで図面配置状態を TIFF G4 形式のファイルに出力することができます。

このマクロを利用した場合の出力ファイル名は以下のとおり。

モデル名 + “-P” + 図面配置ページ番号 2 桁 + “.TIFF”

例)

モデル名 TEST
 図面配置ページ 1
 出力ファイル名 TEST-P01.TIFF

モデル名が指定されていないときはモデル名を“NONAME”として処理する。
格納ディレクトリは ACAD.SET の #PLOT# で指定されているディレクトリ。

3. 準備

1) TIFF-OUT.MAC

sampleHP2XX ディレクトリの TIFF-OUT.MAC を macro ディレクトリにコピーします。必要ならばテキストエディタで修正します。

図面配置状態でこのマクロを起動するとオンラインプロットコマンドが呼び出され“TIFF”を第3引数、出力ファイル名を第4引数として oplot.bat を起動します。

2) oplot.bat

使用中の exeoplot.bat を samplePLOToplot.bat を参考にして修正します。

oplot.bat を使用していないときは samplePLOToplot.bat を exe ディレクトリにコピーします。必要ならばテキストエディタで修正します。
13 行目の set EXEPATH=C:acadexe の部分を実際の exe ディレクトリに修正します。

たとえば D:acadexe ならば set EXEPATH=D:acadexe とします。

3) HP2XX.PRM

oplot.bat 内で HP-GL/2 形式のファイルを作成するときに ap_HPGL.exe のパラメータファイルとして HP2XX.PRM を指定しています。

sampleHP2XX ディレクトリの HP2XX.PRM を uenv ディレクトリにコピーします。必要ならばテキストエディタで修正します。

4. ap_HPGL.exe について

HP-GL/2 形式のファイルを作成するときに oplot.bat では以下のように記述しています。

```
ap_HPGL.exe -iHP2XX.PRM -m-4.0
```

-m-4.0 は、アウトライン・フォントの塗りつぶし方法の指定であり必ず記述しておきます。詳しくはプロッタガイドをご覧ください。

-iHP2XX.PRM はパラメータファイルで、パラメータファイルの内容は以下のとおり。

```
/ HP2XX.PRM
RTL_RES    = 400
ORIGIN     = LowerLeft
USEARC     = N
MAXPEN     = 8
USE_PE     = Y
RECSIZE    = 0
SEPARATE   = N
```

```

USE_RO      = N
HARD_LWIDE = Y
JOBHEAD     =
DRWHEAD    = BP3, 1, 4, 0: INPSX*40, Y*40
DRWTAIL    = PUPG;
JOBTAIL     =
/
LW   = 0.1
LW 1 = 0.1
LW 2 = 0.2
LW 3 = 0.3
LW 4 = 0.4
LW 5 = 0.5
LW 6 = 0.6
LW 7 = 0.7
LW 8 = 0.8
/
PW   = 0.1
PW 1 = 0.1
PW 2 = 0.2
PW 3 = 0.3
PW 4 = 0.4
PW 5 = 0.5
PW 6 = 0.6
PW 7 = 0.7
PW 8 = 0.8
/
PEN 1 = 0.1
PEN 2 = 0.2
PEN 3 = 0.3
PEN 4 = 0.4
PEN 5 = 0.5
PEN 6 = 0.6
PEN 7 = 0.7
PEN 8 = 0.8
/ End of file.

```

PEN 行は LW 行と PW 行が 1 行も記述されていないときに有効になります。
 PEN 行を有効にするには全ての LW 行と PW 行の 1 カラム目に “/” を記述してコメント行にします。
 線の太さ表現については後述。

5. hp2xx.exe について

注意

hp2xx.exe は大容量の一時ファイルを %temp% ディレクトリに作成します。
 そのディレクトリが属するファイルシステムに十分な空き領域が必要です。

hp2xx.exe -m tiff -f 出力ファイル名 -d400 -t 入力ファイル名

-m 出力形式 : 出力する形式を指定する。

tiff と指定すると TIFF G4 形式で出力する。

-f 出力ファイル名 : ファイルに出力する場合の出力ファイル名を指定する。

-d 解像度 : 出力ファイルの解像度を指定する。

- ap_HPGL のパラメータファイルの RTL_RES 行で指定した値と同じ値を指定する。
- t : 1 HP 単位を 1/40mm として縦横を自動的に計算する。
明示的に大きさを指定する場合は -w および -h で指定する。単位は mm。
- 入力ファイル名 : HP-GL/2 形式のファイルの名前を指定する。

6. 線の太さ表現

- ・アイテムにつけられた線幅で線の太さを表現する場合

HP2XX.PRM の LW 行または PW 行で線の太さを mm 単位で指定します。
LW 行 : ペン割付が線幅以外の際に使用する。
PW 行 : ペン割付が線幅の際に使用する。

- ・ペン割付で割り付けられたペンによって太さを表現する場合

HP2XX.PRM の全ての LW 行と PW 行の 1 カラム目に “/” を記述することで PEN 行の指定を有効にし、PEN 行でペンの太さを記述します。
サンプルではペン番号順に 0.1 mm ずつ太くなるように設定しています。

- ・HARD_LWIDE について

HP2XX.PRM の HARD_LWIDE 行と USE_PE 行の両方を “Y” とすることにより HP-GL/2 形式では「線の太さ (mm) と中心線」で表現されます。

hp2xx.exe は (“-p” でペンごとの太さが指定されていない場合は) 以下の計算で TIFF 出力時のピクセル数を決定します。

$$\text{ピクセル数} = (\text{解像度} / 25.4) * \text{線の太さ} \text{ --- 小数点以下を四捨五入}$$

7. 旧バージョンとの互換性

V18.15 までは HP2XX.PRM の HARD_LWIDE 行を “N” として、多重線で線の太さを表現し、hp2xx.exe の起動時の引数 “-p” でペンごとの太さを指定しました。

V18.16 では hp2xx.exe の起動時の引数に “-p” が指定されている場合は、そこで指定されたペンの太さを使用し、“-p” が指定されていない場合は HP-GL/2 形式ファイル内の「線の太さ (mm)」を使用します。

- ・hp2xx.exe の起動時の引数 -p

ペン番号 1 から 8 に対応するペンの太さ (ピクセル数) を 1 から 9 までの数値で、連続して記述する。たとえばすべてのペンを 2 ピクセルにする場合は

-p22222222

とする。

-p が記述されている場合は HP-GL/2 形式ファイル内の「線の太さ」を無視します。

-p が記述されていない場合は HP-GL/2 形式ファイル内の「線の太さ」を使用します。

2.15.2 TIFF 変換で塗りつぶしを出力する

〔リクエスト番号〕 : E18115
〔コマンド〕 : hp2xx
〔リリース〕 : 18.16
〔区分〕 : 修正
〔メニュー〕 : なし
〔更新日〕 : 2009/09/04
〔担当〕 : AYO

【要望】

TIFF 変換プログラム hp2xx.exe で、塗りつぶしが何本かの線で描画されるが、完全に塗りつぶされていない。完全に塗りつぶすようにしてほしい。

【対応】

完全に塗りつぶすように修正しました。

アウトラインフォントは、hp2xx.exe の塗りつぶしが不完全なために HP-GL/2 変換の起動時の引数で -m0.1 と指定していました。塗りつぶしが正しく処理できるようになったので、サンプルの oplot.bat では -m-4.0 と指定するように変更しました。

-m0.1 : 字形の輪郭内に 0.1 mm 間隔の複数の直線を引く。

-m-4.0 : HP-GL/2 の塗りつぶしコマンドを利用する。

2.16 モデルビューアー

2.16.1 ACADViewer (Java)

Java の Advance CAD モデルビューアー ACADViewer はバージョン 19 のモデルを表示できるように更新しました。

新しいモデルビューアー のバージョンは 4.00 です。このモデルビューアーは Advance CAD のリリースには含まれません。モデルビューアーだけをダウンロードできるようになっています。

新しいモデルビューアーを使用するときは Java runtime version 1.6 以上で使用してください。Java のバージョンを表示するには次のコマンドを使います。

```
java -version  
java version "1.6.0_10"
```

2.16.2 AcadAX (ActiveX)

Windows ActiveX の Advance CAD モデルビューアー AcadAX はバージョン 19 のモデルを表示できるように更新しました。

新しいモデルビューアー のバージョンは 19,0,0,1 です。このモデルビューアーは Advance CAD のリリースには含まれません。モデルビューアーだけをダウンロードできるようになっています。

第3章 不具合修正

Advance CAD Version 18.00 リリース以降に修正された不具合の一覧です。

3.1 基本機能

3.1.1 日本語入力時にキー入力に追従しない (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B18085 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【現象】

IME を使用しての入力で、処理がキー入力に追従しないために文字が欠落することがある。

【対応】

修正しました。

3.1.2 日本語入力時で全角スペースが入力できない (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B18139 【発生】 17.08 【修正】 18.10

【現象】

IME を使用しての入力で、全角スペースが入力できない。

【対応】

修正しました。

3.1.3 メニュー戻しで前の状態に戻らない

【レポート番号】 B18012 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【コマンド】 MENUBACK

【現象】

オンスクリーンメニューの「メニュー戻し」をクリックしたときに、メインメニューからリンクされているデフォルトコマンドがアクティブにならない。また、コマンド修飾子メニューが元に戻らない。

【対応】

修正しました。

3.1.4 ファイルダイアログで異常終了する

【レポート番号】 なし 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【現象】

ファイルダイアログ表示で異常終了する。

【原因】

ネットワークドライブのホスト名の抽出し領域が小さかったため。

【対応】

修正しました。

3.1.5 ファイルダイアログで図面枠が選択できない

【レポート番号】 B18080 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.02

【現象】

ホスト名に小文字を含むマシンをファイルサーバーにして ACAD.SET でファイルサーバーのフォルダー指定を \\ホスト名\ホルダー名\とした場合、ファイル選択ダイアログでファイルを選択すると、ホスト名が大文字で戻される。結果としてシンボル、サブモデル、ラスタ背景などすべての参照ファイルがデフォルトディレクトリにあるのにフルパスで記録されてしまう。また図面枠の選択はエラーになる。

【原因】

ファイル選択ダイアログでホスト名を大文字で戻していました。

【対応】

ACAD.SET に記述されている通りに戻すように修正しました。

3.1.6 マルチモニターでのウィンドウの最大化とリサイズ (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B18122 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.10

【現象】

マルチモニターで使用しているときに、次のような操作を行うとウィンドウの最大化とリサイズができない。

- ・マルチモニターで使用し、解像度の小さいモニターをプライマリモニターにする。
- ・Advance CAD を起動する。(プライマリモニターにウィンドウが表示される)
- ・Advance CAD のウィンドウをセカンダリモニターに移動する。

この状態でウィンドウの最大化またはリサイズを行っても有効にならない。

【対応】

修正しました。

3.2 汎用割込みコマンド

3.2.1 アクト全体で表示領域外の要素を抽出することがある

【レポート番号】 B17080 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【コマンド】 ACT/ALL

【現象】

アクティブリスト選択の全体で、表示領域の外側の要素がアクティブリストに抽出されることがある。

【原因】

アクティブリスト選択：全体の場合、要素形状の最大外形を表す矩形と、画面表示領域の矩形の重なりだけで該当要素かどうかを決定していました。そのために、形状は表示領域の外側だけが最大外形の矩形が表示領域と重なっているものがアクティブリストに抽出されていました。

【対応】

要素形状と画面表示領域とで該当要素かどうかを調べるように修正しました。

3.2.2 アクト自動の解除で選択アイテムが追加されてしまう

【レポート番号】 B18070 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【コマンド】 ACT/AUTO

【現象】

アクト自動の解除でアイテムを選択すると選択アイテムが解除されないで追加されてしまう。

【対応】

アクト自動は編集コマンドの「複数アイテムの自動選択」と同じ機能でアイテムの選択と解除を行います。CTRL+SHIFT キーを使用したアイテム選択で解除できますが「解除」修飾子が指示された場合は、CTRL+SHIFT キーの使用に関係なく、選択されたアイテムをアクティブリストから解除するように修正しました。

「追加」および「新規」のときは、従来通りに CTRL+SHIFT キーを使用したアイテム選択で解除することができます。

3.2.3 一覧図ダイアログの移動が遅い (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B18269 【発生】 18.00 【修正】 18.16

【コマンド】 一覧図

【現象】

ピクチャー一覧図でダイアログを移動させる場合に、ダイアログがモニターをはみ出すと、モニター内に戻すときに、なかなか移動しない。

【対応】

修正しました。

3.2.4 クラス一覧図で指定ピクチャに実在しないクラスが表示される

【レポート番号】 B18015 【発生】 16.00 【修正】 18.01

【コマンド】 GLS、REV、LFT、LWT

【現象】

クラス一覧図で、指定ピクチャには実在しないクラスが空図形で表示される。

【対応】

指定ピクチャのアイテムで使用しているクラスだけを表示するように修正しました。

3.2.5 アイテム属性一覧でレビジョン番号／名前が表示されない

【レポート番号】 B18075 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【コマンド】 ATR、ATR/SEL

【現象】

アイテム属性設定時のアイテム属性テーブルの一覧表示で、レビジョン番号およびレビジョン名が表示されない。

【対応】

修正しました。

3.2.6 塗りつぶしが表示されない

【レポート番号】 B19015 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 RPT

【現象】

Solaris 版および Linux 版で、図面配置状態の時に塗りつぶしが表示されないことがある。

【対応】

修正しました。

3.2.7 塗りつぶし形状が正しくない

【レポート番号】 B20080 【発生】 18.00 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 AFL、AFL/MOD

【現象】

マーク形状での塗りつぶしのときに角度を指定した場合、マーク形状は指定角度になるが、配置位置が角度を反映していない。

【対応】

修正しました。

3.2.8 直前のピクチャに戻らない

【レポート番号】 B18161 【発生】 当初から 【修正】 18. 11

【コマンド】 PIC

【現象】

ピクチャ一覧図を表示して、ピクチャを選択しないで一覧図を終了すると、PIC LAST で、直前に作業をしたピクチャではなく、ピクチャ番号の一番大きなピクチャが表示される。

【対応】

直前に作業をしたピクチャに戻るよう修正しました。

3.2.9 オンスクリーンメニューとメッセージ領域の表示が一致しない

【レポート番号】 B18244 【発生】 当初から 【修正】 18. 14

【コマンド】 MES/AREA、MES/VOL

【現象】

オンスクリーンメニューの表現（加える、差し引く）とメッセージ領域の表現（ADD、REL）が一致していないために分かりにくい。

【対応】

面積（MES/AREA）および体積（MES/VOL）コマンドのメッセージ領域の表現を、オンスクリーンメニューの表現と同じにしました。

3.2.10 ウィンドウが削除できない

【レポート番号】 B20078 【発生】 18. 00 【修正】 19. 14、20. 07

【コマンド】 WIN/REL

【現象】

図面配置されているウィンドウを削除する場合に、ウィンドウ番号やウィンドウ名で削除できない。ウィンドウをクリックすれば削除できる。

【対応】

修正しました。

3.2.11 部分線種変更で選択したアイテムをキャンセルできない

【レポート番号】 B20088 【発生】 19. 00 【修正】 19. 14、20. 07

【コマンド】 PFNT/GG、PFNT/PP、PLWT/GG、PLWT/PP

【現象】

部分線種変更コマンドで、選択したアイテムをキャンセルすることができない。

【対応】

バックスペースキー入力時の処理に誤りがあり、選択したアイテムがキャンセルでき

なくなっていました。
キャンセルするように修正しました。

3.2.12 表示が遅い

【レポート番号】 B20092 【発生】 19.01 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 RPT

【現象】

V17 から V20 にバージョンアップしたら表示が遅くなった。

【対応】

複合アイテムやサブモデルなど、1アイテムに多くのセグメントを持つアイテムの表示処理に冗長な部分があり、1アイテムの要素数が多いほど余分な時間が掛かっていました。修正しました。

3.3 図形アイテム

3.3.1 スtring連結点で異常終了する

【レポート番号】 B18257 【発生】 当初から 【修正】 18.14

【コマンド】 STR/CP

【現象】

連結点の点数が1点のときにその点を取り消すためにバックスペースを入力すると、異常終了することがある。

【対応】

修正しました。

3.3.2 クリッパー自動範囲で内側消去指定が有効にならない

【レポート番号】 B18245 【発生】 当初から 【修正】 18.14

【コマンド】 CLIP_OUTL

【現象】

範囲要素選択以前に「内側消去」の指定をすると「無効な入力」になってしまい、内側消去の指定として認識されない。

【対応】

範囲要素が一つも選択されていない場合の「内側消去」の指定が有効になるようにしました。

3.3.3 陰線処理の内側破線で範囲線上の線の線種が正しくない

【レポート番号】 B19011 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 CLIPPER、CLIP_OUTL、CLIP_PLY

【現象】

陰線処理の「内側破線」／「外側破線」で「範囲線上を含む」とした場合、範囲線上の線種3以上の線が線種2になってしまう。

範囲内／範囲外の線種3以上の線は、線種が保持されている。

【対応】

範囲線上の線種3以上の線も、範囲内／範囲外と同様に、以前の線種を保持するように修正しました。

3.3.4 部分線種変更で交点での指定ができない

【レポート番号】 B18188 【発生】 15.00 【修正】 18.12

【コマンド】 PFNT/GG、PFNT/PP、PLWT/GG、PLWT/PP

【現象】

部分線種_両端点の線種変更の開始位置および終了位置を交点で指定すると「無効な入力」になってしまう。両端図形のテンポラリポイントでの指定および部分線幅コマンドも同様。

【対応】

「交点」「投影点」「VEC点」などの複数点の入力が必要なテンポラリポイントの処理に誤りがありました。修正しました。

3.3.5 重複削除で非表示部分が表示に変わる

【レポート番号】 B19021 【発生】 15.00 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 PURGE

【現象】

部分線種で非表示にしたアイテムも部分重複処理の対象に含まれている。そのために非表示にした部分が、表示になってしまう。

【対応】

以下の3点を修正しました。

- ・BLANK コマンドで非表示にされたアイテムは、完全重複および部分重複の処理対象から外しました。
- ・直線アイテムと円弧アイテムで、部分的に非表示になっているアイテムは、部分重複の処理対象から外しました。
- ・「線種比較する」場合の直線アイテムと円弧アイテムで、部分的に線種変更が指示されているアイテムは、部分重複の処理対象から外しました。

3.4 製図アイテム

3.4.1 ハッチングで境界タイプが混在できない

【レポート番号】 B17076 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【コマンド】 XHT

【現象】

ハッチングで、たとえば境界多角形と境界クローズを使用するなどのように、一つのハッチングアイテム内で別の境界タイプを指定すると「無効な入力」になってしまう。

【対応】

複数の境界タイプの混在ができるように修正しました。

3.4.2 ハッチング作成時のラインモードの表示に誤りがある

【レポート番号】 B20090 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 XHT

【現象】

ハッチング作成にてパターン番号を指定して作成またはハッチング作成を再度行くと、ラインモードの表示が常に交差となる。

【対応】

ハッチング作成にてパターン番号指定時のラインモード表示を修正しました。

3.4.3 角度寸法の外側寸法線が短くなる

【レポート番号】 B18199 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 DRF/EDIT

【現象】

製図一括修正で、外側寸法線が直線になっている角度寸法／円弧長寸法を選択すると、外側寸法線が短くなる。

【対応】

修正しました。

3.4.4 製図一括修正で寸法値の反転が元に戻る

【レポート番号】 B18203 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 DRF/EDIT

【現象】

製図一括修正で、寸法値を反転した寸法要素に対して修正を行うと、反転が元に戻ってしまう。

【対応】

修正しました。

3.4.5 文字枠調整で注釈の下線が正しく調整されない

【レポート番号】 B18201 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 DRF/ADJ

【現象】

文字枠調整を行うと、注釈の下線が正しく調整されない。

固定長下線 – 下線の位置がずれる

可変長下線 – 固定長下線になる。下線の位置がずれる。

表（枠と固定長下線） – 下線が調整されない。

【対応】

修正しました。

3.4.6 寸法線移動でラバーバンドが表示されない

【レポート番号】 B18240 【発生】 当初から 【修正】 18.13

【コマンド】 DIM/ALN

【現象】

角度寸法：角度2線で、近傍オプションを使用して作成した角度寸法に対して寸法線移動を行うと、ラバーバンドが表示されない。

【対応】

ラバーバンド処理に誤りがありました。正しくラバーバンドするように修正しました。

3.4.7 寸法値移動で外側に付加された寸法線が元に戻らない

【レポート番号】 B18014 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【コマンド】 DTEXT/MOVE

【現象】

狭い要素間の寸法の場合、外側寸法線が延長されて寸法値が記入される。この寸法の寸法値を「中心に移動」または「引き出し線をつけて移動」した場合、延長された外側寸法線が延長されたままになってしまう。

【対応】

延長された外側寸法線は、延長部分を削除するようにしました。また寸法値を外側に移動して付加された外側寸法線は、付加された外側寸法線全体を削除するように修正しました。

3.4.8 累進寸法の折り曲げが元に戻ってしまう

【レポート番号】 B18173 【発生】 17.00 【修正】 18.12

【コマンド】 DTEXT/REF、DIMTOL/MOD、ULTOL、UTOL、LTOL、DELTOL

【現象】

折り曲げた累進寸法に参考寸法記号や公差の付加／排除を行うと、折り曲げが元に戻ってしまう。

【対応】

累進寸法に参考寸法記号や公差の付加／排除を行った場合は、寸法要素の調整を行わないように修正しました。

3.4.9 反転させた寸法値が元に戻ってしまう

【レポート番号】 B18186 【発生】 17.00 【修正】 18.12

【コマンド】 DTEXT/REF、DELTOL、ULTOL、UTOL、LTOL、DIMTOL/MOD

【現象】

寸法値を反転させた寸法に対して参考寸法や公差の追加・変更・削除を行うと、反転が元に戻ってしまう。

【対応】

反転が元に戻らないように修正しました。

3.4.10 φ 追加削除で寸法値の小数点以下の桁数が正しくない

【レポート番号】 B18185 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 DTEXT/DIA、DTEXT/SQR

【現象】

φ 追加削除および□追加削除を行うと、寸法値の小数点以下の桁数が指定通りにならない。

【対応】

寸法値の少数点以下の桁数を、寸法作成時の設定値ではなく、現在の製図定数の設定値を使用して決定していました。寸法作成時または製図定数一括修正で指定された値を使用するように修正しました。

3.4.11 公差削除で寸法値の後文字も削除される

【レポート番号】 B18131 【発生】 当初から 【修正】 18.10

【コマンド】 DELTOL

【現象】

寸法値の前文字に分数表記のメタ文字を含む場合や後文字がついている場合、公差削除の結果が正しくない。

【対応】

修正しました。

3.4.12 下公差を削除したときに寸法値が寸法線にフィットしない

【レポート番号】 B18270 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 LTOL

【現象】

公差の付いた寸法線を下公差・削除(空白)を行ったときに、寸法値が寸法線にフィットしない。

【対応】

寸法線にフィットするように修正しました。

3.5 結合アイテム

3.5.1 シンボル配置で「反転」の表現が正しくない

【レポート番号】 B17075 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【コマンド】 SYM、SYM/CMP、SUB

【現象】

シンボル配置、シンボル複合配置、サブモデル配置の反転操作で、オンスクリーンメニュー、メッセージとマニュアルの表現が一致していない。

【対応】

コマンドリファレンスマニュアルは「X 軸反転」「Y 軸反転」、オンスクリーンメニューおよびメッセージは「X 反転」Y 反転」になっていました。
オンスクリーンメニューとメッセージの表現を「X 軸反転」「Y 軸反転」に修正しました。

3.5.2 シンボル配置で塗りつぶしパターンがべた塗りになる

【レポート番号】 B18123 【発生】 当初から 【修正】 18.10

【コマンド】 SYM、SYM/UPD

【現象】

UNIX 版で作成したシンボルを Windows 版で配置すると、塗りつぶしパターンを指定した塗りつぶしが、べた塗りで表示される。
Windows 版で作成したシンボルを UNIX 版で配置した場合も同様。

【対応】

修正しました。

3.5.3 シンボル表示ダイアログでシンボル名が表示されない

【レポート番号】 B19025 【発生】 当初から 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 SYM/DSP

【現象】

シンボル表示ダイアログで「次ページ」ボタンで次候補のシンボルを表示すると、シンボル名が表示されない。「前ページ」ボタンでの前候補の場合はシンボル名も表示される。

【対応】

修正しました。

3.5.4 シンボル表示ダイアログで異常終了する

【レポート番号】 B19026 【発生】 当初から 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 SYM/DSP

【現象】

シンボル表示ダイアログで、シンボル名のエディットボックスが空の状態でする Enter キーを打つと、Advance CAD が異常終了することがある。

【対応】

修正しました。

3.5.5 シンボル表示で指定したディレクトリ名が表示されない

【レポート番号】 B19066 【発生】 19.02 【修正】 19.03

【コマンド】 MODEL/DSP、SUB/DSP、SYM/DSP

【現象】

シンボル表示で、指定したディレクトリ名が表示されなくなった。

【対応】

サブウィンドウにシンボル形状を表示したときに、表示しているシンボルの保存されているディレクトリを、ステータス領域に表示するように修正しました。

3.5.6 サブモデル配置でドラッグされない

【レポート番号】 B18136 【発生】 当初から 【修正】 18.10

【コマンド】 SUB、SYM

【現象】

サブモデル配置で、ドラッグ図形が一部表示されていない状態で、配置角度／反転などのパラメータを変更すると、ドラッグ表示がされなくなる。

シンボル配置も同様。

【対応】

修正しました。

3.5.7 サブモデルとして配置できない

【レポート番号】 B18166 【発生】 18.00 【修正】 18.11

【コマンド】 SUB、MODEL/READ

【現象】

サブモデルの配置で「テンポラリアイテムのサブレコード書込みエラー」になり、配置できないことが多くなった。

モデル呼出でも「アイテムのデータベースへの書込みエラー」と表示されて、実際に読み込まれていないアイテムがある。

【原因】

Advance CAD バージョン 18 では、製図要素のデータ表現を単精度から倍精度に変更しました。そのためアイテムのデータサイズは従来バージョンより大きくなります。

1 アイテムのデータサイズの制限は約 2 メガバイトであるが、大量の要素を複合アイテムにまとめるなどして、1 アイテムのデータサイズの制限値ぎりぎりのアイテムやピクチャでこのような現象が発生します。

【対応】

1 アイテムのデータサイズの制限を 2 割程度大きくしました。

ただしバージョン 18 でこの制限のぎりぎりまでを使用すると、ダウンコンバートしたモデルが下位バージョンで読み込めないこともあります。下位バージョンで読み込めないときは、バージョン 18 でアイテムを分解するなどの操作をする必要があります。

3.5.8 サブモデル更新でエラーメッセージが表示されない

【レポート番号】 B18220 【発生】 当初から 【修正】 18.13

【コマンド】 SUB/UPD

【現象】

サブモデル更新で、更新後のサブモデル要素がテンポリアアイテムの上限を超える場合サブモデルは更新されない。このときにエラーメッセージが表示されないため、なぜ更新されないのかが分からない。

【対応】

エラーメッセージを表示するように修正しました。

3.5.9 サブモデル更新情報表示で異常終了する

【レポート番号】 B18059 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【コマンド】 SUB/ULS

【現象】

サブモデルの更新情報表示で親サブモデルが表示されていない子サブモデルをクリックすると Advance CAD が異常終了する。

【対応】

親サブモデルが表示されていない子サブモデルをクリックしたときは、エラーにするように修正しました。

3.5.10 サブモデル更新情報表示の修飾子メニューが元に戻らない

【レポート番号】 B18235 【発生】 当初から 【修正】 18.13

【コマンド】 SUB/ULS

【現象】

サブモデル更新：更新情報表示で、更新情報表示を終了してもコマンド修飾子メニューがサブモデル更新に戻らない。また更新情報表示のコマンド修飾子メニューに「日付比較する」「しない」の項目が抜けている。

【対応】

ACADOSM.MEN : Pagename = mdf_subuls のコマンドカテゴリが誤っていました。正しい値の3に修正しました。また「日付比較する」「しない」を追加しました。

3.5.11 サブモデル内の線分がトリムできない

【レポート番号】 B19028 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 TRM、TRM/G、TRM/P、TRM/PP

【現象】

配置したサブモデル内の線分がトリムできない。

【対応】

寸法アイテム、複合アイテム、シンボル、サブモデルなどの図形をトリムする時の処理に誤りがありました。修正しました。

3.5.12 更新できないサブモデルが発生する

【レポート番号】 B19040 【発生】 18.00 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 mdlconv

【現象】

更新できないサブモデルが発生する。

【対応】

V18 および V19 の mdlconv で、V17 以下のモデルに変換すると、変換後の V17 以下のモデルファイル内の「サブモデルの配置元ピクチャ番号」が正しくありませんでした。このモデルを呼び出すと、正しいサブモデルと認識できないために更新できませんでした。mdlconv を、正しく変換するように修正しました。誤って変換されたモデルは V18.17 および V19.02 のモデル呼び出し時に、修復して呼び出すように修正しました。

3.5.13 サブモデルリストコマンドで異常終了する

【レポート番号】 B20070 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 SUB/LST

【現象】

バッチモードで起動した場合、サブモデルリストコマンドで異常終了する。

【対応】

修正しました。

3.5.14 サブモデル読み込み時のみ不可視オブジェクト図形が読み込まれる

【レポート番号】 B20074 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 SUB/LST**【現象】**

DWG (DXF) ファイルの読み込みにおいて、サブモデル読み込みを行った場合に限りブロック要素の不可視オブジェクト図形が読み込まれる。

【対応】

ブロック内の不可視オブジェクトは作成しないよう修正しました。

3.6 アイテムの編集

3.6.1 累進角度寸法の寸法値が正しく反転されない

【レポート番号】 B18218 【発生】 当初から 【修正】 18.13

【コマンド】 MIRROR

【現象】

累進角度寸法を反転すると寸法値が第一寸法補助線側についてしまう。

【対応】

修正しました。

3.6.2 ピクチャ移動でサブモデルの参照元ピクチャ番号が更新されない

【レポート番号】 B18219 【発生】 当初から 【修正】 18.13

【コマンド】 PIC/MOVE

【現象】

同一モデル内にサブモデル元ピクチャと、そのピクチャをサブモデルとして配置したアイテムがある。サブモデル元ピクチャをピクチャ移動すると、参照先サブモデルアイテムの参照元ピクチャ番号が移動先に変更されない。

【対応】

同一モデル内にある参照先サブモデルアイテムの、参照元ピクチャ番号も移動先に変更するように修正しました。

3.6.3 切り出しで見えないシンボルが作成される

【レポート番号】 B18138 【発生】 当初から 【修正】 18.10

【コマンド】 CUT_MOVE、CUT_REGEN、CLIPPER、CLIP_OTL、CLIP_PLY

【現象】

シンボルを含む複合アイテムを切り出した場合、シンボル全体がクリップされたときに、見えないシンボルが作成されている。

【対応】

全体がクリップされたシンボル、サブモデル、APG は削除するように修正しました。

3.6.4 切出更新で誤ったピクチャに更新される

【レポート番号】 B18106 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【コマンド】 CUT_REGEN

【現象】

切出抽出したアイテムを含むピクチャをピクチャ移動する。移動後のピクチャで切出更新を行うと、移動前のピクチャに更新されてしまう。

【対応】

切出更新時のピクチャに更新するように修正しました。

3.6.5 分割しておいた直線が接続される

【レポート番号】 B20033 **【発生】** V19.02 **【修正】** 19.11、20.04

【コマンド】 CUT_MOVE

【現象】

分割しておいた直線を切出抽出すると、抽出結果の直線が、接続されてしまう。

【対応】

接続しないように修正しました。

3.7 モデルの保存

3.7.1 モデルの上書き保存ができない

【レポート番号】 B18047 【発生】 15.00 【修正】 18.02

【コマンド】 MODEL/WRITE

【現象】

「セキュリティとアカウントティング」機能を利用していると、既存モデルの上書き保存ができないことがある。

【対応】

修正しました。

3.7.2 モデルタイトルのモデル名が設定されない

【レポート番号】 B18271 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 MODEL/WRITE

【現象】

モデルタイトルテンプレートファイルで、モデル名として「英数字だけ」使用可と設定している場合、モデル保存時にサブディレクトリを指定すると、モデル保存はされるがモデルタイトルの項目番号202のモデル名が設定されない。

【対応】

モデルタイトルに設定するとき、サブディレクトリも含めて「英数字だけ」かどうかを調べていました。ディレクトリデリミタの“\”または“/”が英数字以外なので、設定できませんでした。

モデルタイトル項目番号202（モデル名）はディレクトリおよび拡張子を除いたモデル名だけで妥当性を調べるように修正しました。

3.7.3 モデル情報ファイル作成時に異常終了する

【レポート番号】 B18247 【発生】 当初から 【修正】 18.14

【コマンド】 MODEL/WRITE、mdlinf.exe

【現象】

モデルタイトルが長いとモデル情報ファイル作成時に異常終了する。

【対応】

項目番号201（モデル主タイトル）は235バイト、項目番号1～200は229バイトを超えると、モデル情報ファイル作成時に異常終了することがありました。修正しました。

3.7.4 モデル呼出で異常終了する

【レポート番号】 B18077 【発生】 15.00 【修正】 18.02

【コマンド】 MODEL/READ、mdlconv

【現象】

バージョン3で作成されたモデルを呼び出すと Advance CAD が異常終了する。
mdlconv も同様。

【対応】

正しく呼び出すように修正しました。

3.7.5 モデル名がフルパスになってしまう

【レポート番号】 B18135 【発生】 当初から 【修正】 18.10

【コマンド】 MODEL/READ

【現象】

「最近使用したファイル」からモデルを呼び出すと、モデルタイトル #202 (モデル名) がフルパスになってしまう。

【対応】

デフォルトディレクトリおよびデフォルトファイル拡張子を除くようにしました。

3.7.6 ステータス領域の表示が正しくない

【レポート番号】 B18164 【発生】 当初から 【修正】 18.11

【コマンド】 MODEL/READ

【現象】

図面配置状態で保存したモデルを呼び出すと、ステータス領域のクラスやレビジョンなどの表示が正しくない。

【対応】

修正しました。

3.7.7 作成したモデルが呼び出せない

【レポート番号】 B18180 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 MODEL/TITLE、DRAW/TITLE

【現象】

モデルタイトルの項目番号 202 でモデル名を設定している。モデル名は 32 バイト以下と記述されているが、誤って 32 バイトを超えて設定してもエラーにならない。結果として、呼び出すことのできないモデルファイルができてしまう。

【対応】

モデルタイトルの項目番号 202 を設定する時に、モデル名が 32 バイトを超える場合はエラーメッセージを表示して、設定できないようにしました。

3.7.8 モデル保存するとアイテムが空になる

【レポート番号】 B18258 【発生】 当初から 【修正】 18.14

【コマンド】 MODEL/WRITE

【現象】

モデル保存すると、メモリ内のアイテムが空になることがある。そのときに保存したモデルを呼び出すと「ドローイングブロックのデータ構造エラー」となり、呼び出すことができない。

【原因】

多くの図面配置ページが使用されていて、頁タイトルに値を入力した結果、入力済みの頁タイトルの総数が上限を超えていました。この状態でモデル保存を行うとモデルファイルに正しく保存されていませんでした。

【対応】

V18.14 では、頁タイトル入力時に、総入力項目数が 3276 個、総入力文字数が 32760 バイトを超える場合にはエラーとし、上限を超える入力をできないようにしました。

V19.00 では、モデルファイルの頁タイトルのデータ構造を変更し、総入力項目数と総入力文字数を無制限にしました。

3.7.9 リスタートで正しく復元しない

【レポート番号】 B18179 【発生】 17.00 【修正】 18.12

【コマンド】 RESTART、ITM/SEL、ITM/DSP

【現象】

セッションログファイルのリスタートで正しく復元されないことがある。

【対応】

要素種別による選択マスクおよび表示マスクの設定コマンドのログファイルへの記述が正しくありませんでした。そのためにリスタート時に正しく復元できないことがありました。ログファイルに正しく記述するように修正しました。

3.7.10 リスタートで陰線処理の結果が正しくない

【レポート番号】 B19010 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 RESTART、CLIPPER、CLIP_OUTL、CLIP_PLY

【現象】

リスタートで、陰線処理の結果が正しくない。

【原因】

陰線処理のオプションは、Advance CAD 起動時は「内側消去」になり、以後は一度指定されたオプションを Advance CAD の終了まで保持します。

リスタートのセッションログファイルはモデル保存のたびに、保存したモデルの呼出しから始まるように更新されます。

モデル保存以前に、たとえば「内側破線」で陰線処理し、モデル保存後の陰線処理で \forall オプション指示を省略した場合、リスタートで「内側消去」として処理されます。

【対応】

陰線処理コマンドが選択されたときに、その時点でのオプションをセッションログファイルに記録するように修正しました。

3.7.11 モデル一覧でモデルタイトルが表示されない

【レポート番号】 B19024 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 モデル一覧

【現象】

ダイアログモードがオフのときのモデルファイル一覧で、モデルタイトルが表示されないことがある。

【対応】

修正しました。

3.7.12 アイソメグリッド情報が正しく読み込めない

【レポート番号】 B19045 【発生】 18.00 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 MODEL/READ

【現象】

バージョン 17 のモデルをバージョン 18 で呼び出すと、アイソメグリッド情報が正しくない。

【対応】

Advance CAD バージョン 18 および 19 で、バージョン 15 ～ 17 で作成したモデルを呼び出す場合のアイソメグリッド情報の読み込みに誤りがありました。
バージョン 18.17 および 19.02 で、正しく読み込むように修正しました。

3.7.13 ヘッダーブロックのデータ構造エラーになる

【レポート番号】 B19046 【発生】 18.00 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 MODEL/READ

【現象】

バージョン 14 のモデルをバージョン 18 で呼び出すと、ヘッダーブロックのデータ構造エラーになり、モデルが呼び出せない。

【対応】

属性バンドルテーブルレコードがバージョン 7 以下の形式になっていました。
バージョン 7 以下の形式も読み込むように修正しました。

3.7.14 モデル読み込みで図形の一部が欠損する

【レポート番号】 B20113 【発生】 19.14 【修正】 19.15、20.08

【コマンド】 MODEL/READ

【現象】

「アイテムのサブレコードタイプが無効です」のエラーメッセージが表示されて、図形の一部が欠損することがある。

【対応】

修正しました。

3.8 図面配置と図面出力

3.8.1 図面印刷でプリンターの変更ができない (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B18192 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 PLOT/PRINT、HCOPY/PRINT、QPLOT/PRINT

【現象】

Windows Vista 上での図面印刷で、「プリンタ設定」ボタン→「ページ設定」ダイアログでプリンタを変更することができない。

【対応】

「プリンタ設定」ボタンとは別に「ページ設定」ボタン用意する方法で対応しました。

3.8.2 図面印刷で異常終了することがある (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B18196 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 PLOT/PRINT、HCOPY/PRINT、QPLOT/PRINT

【現象】

図面印刷で、プリンタ名が 36 バイト以上のプリンタを選択すると Advance CAD が異常終了することがある。

【対応】

修正しました。

3.8.3 図面印刷で縮小印刷のときに線幅が縮小されない (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B20108 【発生】 当初から 【修正】 20.08

【コマンド】 PLOT/PRINT

【現象】

図面印刷で、縮小印刷のときに線幅が縮小されない。

【対応】

修正しました。

3.8.4 コピー出力で異常終了する

【レポート番号】 B18265 【発生】 当初から 【修正】 18.15

【コマンド】 HCOPIE、QPLOT

【現象】

コピー出力およびクイック出力で、出力の対象となるアイテム数が 65536 アイテムを超えると Advance CAD が異常終了することがある。

【対応】

修正しました。

3.8.5 可変記入項目定義の下線や文字枠が常に描画される

【レポート番号】 B19003 【発生】 18.00 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 DRAW、PLOT

【現象】

図面枠の可変記入項目定義に、下線や文字枠を設定しておく、可変記入項目の入力の有無にかかわらず、定義時の下線や文字枠が常に描画される。

【対応】

修正しました。

3.8.6 可変記入項目定義が図面枠の大きさに含まれる

【レポート番号】 B19004 【発生】 18.00 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 DRAW、PLOT

【現象】

図面枠の可変記入項目定義が、図面枠の最大外形に含まれてしまう。図面枠定義が図面枠をはみ出す場合があり、その図面枠は、1 サイズ大きい用紙サイズとして処理されてしまう。

【対応】

可変記入項目定義は、図面枠の大きさには含めないように修正しました。

3.8.7 マーク付き線種のマーク間隔が正しくない

【レポート番号】 B18267 【発生】 18.00 【修正】 18.16

【コマンド】 PLOT/ONN、ap_HPGL など

【現象】

オンライン出力で、マーク付き線種のマーク間隔が正しくない。マーク間隔として、マーク高さが使用されている。画面表示および図面印刷では正しく描画されている。

【対応】

修正しました。

3.8.8 図面配置状態から作図に戻ると表示領域が正しくない

【レポート番号】 B18153 【発生】 当初から 【修正】 18.11

【コマンド】 PIC DSP

【現象】

図面配置状態から作図に戻るときに、ピクチャコマンドで一覧図からピクチャを選択すると、ピクチャの表示領域が正しくない。

【対応】

修正しました。

3.8.9 図面配置状態の表示位置が正しくない

【レポート番号】 B20098 【発生】 18.00 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 DRAW LAST

【現象】

旧バージョンのモデルを呼び出して図面配置を表示すると、表示位置が正しくない。

【対応】

V17 までのモデルファイルには図面配置頁ごとの表示領域を持っていません。

V18 以降では、この様なモデルを読み込んだ場合は全体表示をするようにしましたが、その処理に誤りがありました。修正しました。

3.8.10 図枠の外枠の線幅が細い

【レポート番号】 B20099 【発生】 19.00 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 PLOT/PRINT

【現象】

V20 にバージョンアップしたら、図面印刷で図枠の外枠の線が細くなった。

【原因】

V19 から、図枠およびアイテムを描画するとき、図枠の最大外形をクリップ領域としてプリンタに設定するように変更しました。図枠の外枠がクリップ領域境界と重なる場合に、クリップ領域の外側部分の線幅表現が描画されませんでした。

【対応】

図枠を描画する時にはクリップ領域を設定しないように修正しました。

3.8.11 図面配置追加の一覧図でウインドウ番号が数値で入力できない

【レポート番号】 B18248 【発生】 当初から 【修正】 18.14

【コマンド】 DRAW/ADD

【現象】

図面配置追加の一覧図／一覧表でピクチャ番号およびウインドウ番号が数値入力できない。

【対応】

ピクチャ番号とウインドウ番号を数値入力できるように修正しました。

3.8.12 マクロ TIFF-OUT で tiff ファイル名が文字化けする

【レポート番号】 B18029 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【コマンド】 PLOT/ONN、HCOPIY、QPLOT、マクロ TIFF-OUT、oplot[.bat]

【現象】

図面配置状態の tiff ファイルを作成するマクロ TIFF-OUT.MAC で、ファイル名に全角文字を含んでいると、ファイル名が文字化けすることがある。

【原因】

TIFF-OUT.MAC では、モデル名を利用してフルパスの tiff ファイル名を決定する。そのファイル名を PLOT/ONN コマンドにパラメータとして渡すが、各パラメータの最大文字長さが 32 バイトのために、32 バイトを超える場合は 32 バイト区切りにして複数のパラメータとしている。

32 バイト区切りで全角文字の上位バイトと下位バイトが 2 つのパラメータに分けられた場合に文字化けする。

【対応】

- ・ PLOT/ONN、HCOPIY、QPLOT コマンドのパラメータの個数および文字長さを無制限にしました。
- ・ TIFF-OUT.MAC の tiff ファイル名を 32 バイトで分割する処理は削除し、tiff ファイル名全体を 1 つのパラメータとして渡すように修正しました。
- ・ oplot[.bat] で第 4 引数～第 9 引数までを tiff ファイル名にしていたが、第 4 引数だけを tiff ファイル名にするように修正しました。

3.8.13 図面枠情報が正しくない

【レポート番号】 B19041 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 MODEL/READ

【現象】

バージョン 14 のモデルをバージョン 19 で呼び出すと、図面枠情報が正しくないことがある。

【対応】

図面枠の指定方法で、図面枠シンボル指定と用紙サイズ指定が混在している場合に、最初に現れた指定方法とは違う指定方法の図面枠情報が正しく読み込まれませんでした。正しく読み込むように修正しました。

3.9 その他の機能

3.9.1 アイソメ変換で選択したアイテムが解除されない

【レポート番号】 B18102 【発生】 15.00 【修正】 18.02

【コマンド】 ISO

【現象】

アイソメ変換で、アイテムを選択・配置後の <CE> で選択されているアイテムが解除されない。

【対応】

配置後の <CE> で、選択されているアイテムを解除するように修正しました。

3.9.2 カーブ合成できない

【レポート番号】 B18144 【発生】 当初から 【修正】 18.11

【コマンド】 ISOITM

【現象】

アイソメのカーブ合成で、アイテムの選択順によりカーブ合成できたりできなかったりする。マニュアルには、カーブ合成できない場合には選択順を入れ替えて再計算するとあるが再計算されていないようだ。

【対応】

ISOITM ISgeom1 [ISgeom2]+ の場合に、カーブ合成できなかったときには ISgeom1 と ISgeom2 の選択順を逆にして再計算するように修正しました。

3.9.3 作表で「既定の欄名」が付加されない

【レポート番号】 B18036 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【コマンド】 HYOU/POINT、HYOU/ARC、HYOU/LENG、HYOU/AREA

【現象】

作表点列や作表円で「標題付加」で標題を設定すると「欄名付加」に続けての <CE> での「既定の欄名」が付加されない。

【対応】

標題が設定されていると「欄名付加」をクリックしたときに「既定の欄名」が設定されていませんでした。標題が設定されていても、「欄名付加」に続けての <CE> 入力時に「既定の欄名」を付加するように修正しました。

3.9.4 作表の小数点以下の0の除去が設定できない

【レポート番号】 B20107 【発生】 当初から 【修正】 acad19.15 acad20.08

【コマンド】 HYOU/NKETA

【現象】

作表用定数の小数点以下の0を除去する (HYOU/NKETA) 設定ができない。

【対応】

修正しました

3.9.5 ラスター背景の角度指定が正しくない

【レポート番号】 B18242 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.13

【コマンド】 RAS/ADD、RAS/PRM

【現象】

ラスター背景の配置コマンドと変更コマンドで角度指定の取り扱いが異なっている。

【対応】

ラスター背景配置の @DS による増分角度指定が、角度指定になっていました。増分角度指定に修正しました。

ラスター背景変更のベクトル2点による角度指定が、増分角度指定になっていました。角度指定に修正しました。

3.9.6 保存して終了のときに -m4 で指定したマクロが動作しない

【レポート番号】 B18194 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.12

【コマンド】 STOP

【現象】

起動オプションの -m4 で指定したモデル保存時に動作するマクロが、終了→保存して終了の場合に動作しない。

【対応】

保存して終了の場合も -m4 で指定したマクロが動作するように修正しました。ただしクローズボタンやログオフおよびシャットダウンによる終了の場合は、モデル保存後にマクロは動作しません。

3.9.7 バッチモードでのモデル呼び出しで異常終了する

【レポート番号】 B19031 **【発生】** 18.00 **【修正】** 18.17、19.02

【コマンド】 -----

【現象】

起動時に -b オプションをつけてバッチモードで起動した場合、モデル呼び出しで異常終了することがある。

【対応】

Solaris 版と Linux 版で、バッチモードのときのアウトラインフォントおよびトゥルータイプフォントの表示のスキップ処理に誤りがありました。修正しました。

3.9.8 コピー・ペーストで異常終了する

【レポート番号】 B19033 【発生】 当初から 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 WCP/COPY、WCP/PASTE

【現象】

コピー・ペーストで異常終了することがある。

【対応】

全角で1000文字を超える注記があるとコピー時に異常終了することがありました。
また、コピーに成功してもペースト時に異常終了する場合があります。修正しました。

3.9.9 書体一覧ダイアログで書体番号が変更できない

【レポート番号】 B19038 【発生】 18.00 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 FONT/DSP

【現象】

書体一覧ダイアログで、表示する書体番号が変更できない。

【対応】

書体番号を変更できるように修正しました。

3.9.10 文章呼び出しダイアログで行末に改行文字が入る

【レポート番号】 B19039 【発生】 16.00 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 TLB

【現象】

文章呼び出しダイアログで、複数行を選択して材質などを入力しているが、各行末に改行文字が入ってしまい、操作性が悪くなった。V15までは1行ずつ選択した場合は改行文字は入らなかった。

【対応】

V15までと同様に、1行ずつ選択した場合は、行末に改行文字をつけないように修正しました。

3.10 ユティリティ

【SXF 変換】

3.10.1 SXF/WRITE : 変換でエラー発生

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.02

【現象】

時計廻りの円の出力でエラーが発生する。
単制度の円が正しく変換されない。

【対応】

修正しました。

3.10.2 SXF/WRITE : エラー発生

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.02

【現象】

寸法図形が単精度の場合エラーが発生する。

【対応】

修正しました。

3.10.3 SXF/WRITE : シンボルが変換されない

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.11

【現象】

シンボルが変換されない。

【原因】

シンボル内のアイテムがストリングまたはスプラインが1つの場合
変換されない不具合がありました。

【対応】

修正しました。

3.10.4 SXF/WRITE : エラー発生

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.12

【現象】

長さが誤差以下の線分の出力でエラーになる。

【対応】

修正しました。

3.10.5 SXF/WRITE : ハッチング枠の色の変換でエラーになる

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.13

【現象】

ハッチング枠の色がユーザ定義色の場合エラーになる。

【対応】

修正しました。

3.10.6 SXF/WRITE : 漢字の作成者・組織名が文字化けして表示される

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.13

【現象】

ダイアログに漢字の作成者・組織名が文字化けして表示される。

【対応】

修正しました。

【モデル検索】

3.10.7 INFUPDATE : レジスターに情報が設定されない

【レポート番号】B18033【発生】当初から【修正】18.02

【現象】

情報変更でモデルを選択したときレジスターに情報が設定されない。

【対応】

修正しました。

3.10.8 MDLDISP : モデル一覧で最後のページが表示されない

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.02

【現象】

モデル一覧で最後のページが表示されない。(サブウインドウモード)

【対応】

修正しました。

3.10.9 FILESTATUS000 : 他のユーザが管理ファイルを使用中です

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.02

【現象】

"他のユーザが管理ファイルを使用中です"とメッセージが出てモデル検索ができなくなる。

【対応】

管理ファイルのロック処理を変更しました。

1. 中身が空のロックファイルを作成していたが誰が作成したかを特定するためにロックファイルにホスト名とプロセス ID を書込むようにしました。また確実に作成されたことを確認するようにしました。
2. 管理ファイルのオープンで既にロックファイルがある場合でロックファイルが自分自身で作成したものであればロックしないようにしました。"他のユーザが管理ファイルを使用中です"とはしないようにしました。
3. 管理ファイルがロックされている場合は、"他のユーザが管理ファイルを使用中です"とメッセージ表示しロックファイルの内容（ホスト名、プロセス ID、日付）を表示するようにしました。
4. 検索結果のモデル情報（モデルタイトルを含む）は一時ファイルに格納しているが一覧表示のモデルタイトル表示でモデルタイトルの文字数が 20 バイトを超える場合は管理ファイルを参照して表示していましたが 50 バイトまで拡張しました。ただし管理ファイルを参照するのはキーワード #MDMACCESS# がある場合のみ。
5. Advance CAD 起動時起動ディレクトリにファイル AdvanceCAD_Start.INF を作成し終了時に削除するようにしました。ファイルの内容はホスト名とプロセス ID。

起動時の処理。

起動時にファイル AdvanceCAD_Start.INF が存在すれば前回異常終了しているのでロックファイルが残っているかを調べ残っていれば削除するようにしました。

終了時の処理。

ロックファイルが残っているかを調べ残っていれば削除するようにしました。

6. モデル検索終了時（ダイアログを閉じるとき）にロックファイルが残っていれば削除するようにしました。（ダイアログモードのみ）

3.10.10 LIST/MDLDISP : サブモデル配置ですべてのピクチャが配置される

【レポート番号】 B18141 【発生】 当初から 【修正】 18.10

【現象】

サブモデル配置でモデル検索でモデルを選択するとすべてのピクチャが配置されてしまう。

【対応】

修正しました。

3.10.11 MDLINF : 異常終了する

【レポート番号】 B18237 【発生】 18.02 【修正】 18.13

【現象】

書き込み権限の無いフォルダのモデルファイルをダブルクリックすると、ACAD が落ちる

【原因】

ACAD が起動されたフォルダに書き込み権限が無い場合の処理に不具合がありました。

【対応】

修正しました。

【モデルダウンコンバーター】

3.10.12 mdlconv : マトリックスブロックのデータ構造エラー

【レポート番号】なし【発生】18.00【修正】18.02

【現象】

V18 → V14 に変換したモデルが V18 でマトリックスブロックのデータ構造エラーで読み込めない。

【対応】

修正しました。

3.10.13 mdlconv : ルートディレクトリのモデルを変換できない

【レポート番号】B18096【発生】18.00【修正】18.02

【現象】

変換モデル名を C:\TEST.MDL というようにルートディレクトリのモデルを指定すると "ディレクトリが見つかりません" というエラーで変換できない。

【原因】

ルートディレクトリのモデルが指定された場合の処理に不具合がありました。

【対応】

修正しました。

3.10.14 mdlconv.cpp : 製図定数の一部が変換されない

【レポート番号】なし【発生】18.00【修正】18.11

【現象】

製図定数の文字間隔、行間隔、傾き角が変換されない。(Ver18 --> Ver17)

【対応】

修正しました。

3.10.15 mdlconv.cpp : モデルタイトルが正しく変換されない

【レポート番号】なし【発生】18.00【修正】18.12

【現象】

モデルタイトルが正しく変換されない。

【原因】

モデルタイトルの文字カウントに不具合がありました。

【対応】

修正しました。

3.10.16 mdlconv : 無効なモデルタイトル番号です

【レポート番号】なし 【発生】 18.00 【修正】 18.12

【現象】

無効なモデルタイトル番号ですとメッセージがでて変換できない。

【対応】

修正しました。

3.10.17 mdlconv : スクリーンレイアウトにピクチャ 0 ができる

【レポート番号】なし 【発生】 18.00 【修正】 18.12

【現象】

スクリーンレイアウトでアイテムのないピクチャがピクチャ 0 になってしまう。

【対応】

修正しました。

3.10.18 mdlconv : 文字間隔、行間隔が小さくなる

【レポート番号】なし 【発生】 18.00 【修正】 18.12

【現象】

文字間隔、行間隔が小さくなる。

【対応】

修正しました。

3.10.19 mdlconv : シンボルのノードテキストが表示される

【レポート番号】 B18233 【発生】 18.00 【修正】 18.12

【現象】

シンボルのノードテキストが表示される。

【対応】

修正しました。

3.10.20 mdlconv : ピクチャマトリックス・ISO グリッドが変換されない

【レポート番号】 B19042 【発生】 19.01 【修正】 18.17, 19.02

【現象】

Ver17 以前のモデルにダウンコンバートするとピクチャマトリックス・ISO グリッドが変換されない。

【対応】

ピクチャマトリックス・ISO グリッドの変換に不具合がありました。
修正しました。

【APG】**3.10.21 APG 配置のパラメータ設定で表示される図形の線種と線幅が正しくない**

【レポート番号】 B18099 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【コマンド】 APGPARAM、APGSET

【現象】

APG 配置のパラメータ設定で表示される図形の線種・線幅が正しくない。

【対応】

カラー、線種および線幅を、分解して配置したとき（APG アイテムにしないとき）の状態を表示するように変更しました。

3.10.22 APG 形状の色が正しくない

【レポート番号】 B19008 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 APGSET、APGPARAM

【現象】

APG 配置のパラメータ設定時の APG 形状の色が、カラー割付による色にならないで、現在属性での色になる。場合によってはテンポラリ図形の色で表示されることもある。

【対応】

V19.00 では、APG 形状の各アイテム属性での色ではなく、現在のアイテム属性による色で表示されていました。
また当初のバージョンから、ウインドウを閉じたときなどに APG 形状がテンポラリ図形の表示色にかわるがありました。
常に、APG 形状の各アイテムの属性による色で表示するように修正しました。

【パーツ】**3.10.23 パーツのサイズ変更で選択したアイテムが削除される**

【レポート番号】 B18183 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 PSIZE

【現象】

複合アイテム化したパーツをサイズ変更すると、複合アイテム全体が消去されてしまう。

【対応】

パーツ配置ではパーツとして配置するかまたは APG として配置することができます。APG として配置したアイテムを含む複合アイテムに対して「サイズ変更」を行うと、複合アイテム全体が消去されていました。
「サイズ変更」で APG アイテム以外が選択されたときは、選択エラーとするように修正しました。

3.10.24 パーツのサイズ変更で一部の形状が表示されない

【レポート番号】 B18243 【発生】 当初から 【修正】 18.14

【コマンド】 PSIZE

【現象】

パーツ配置時に配置切替を指定して「APG 配置」としたパーツをサイズ変更すると、変更前と変更後の形状の重複部分が表示されない。再表示すれば表示される。

【対応】

サイズ変更後の形状が表示されるように修正しました。

3.10.25 パーツに付けた部分線種が元に戻ってしまう

【レポート番号】 B18210 【発生】 当初から 【修正】 18.13

【コマンド】 PDIM

【現象】

配置したパーツに部分線種変更や陰線処理をした後で寸法付けを行った場合、部分線種や陰線処理が元の状態に戻ってしまう。

【対応】

パーツ自身の更新を行わないで、寸法だけを付けるように修正しました。

3.10.26 パーツに付けた部分線種が元に戻ってしまう

【レポート番号】 B18210 【発生】 当初から 【修正】 18.13

【コマンド】 PDIM

【現象】

配置したパーツに部分線種変更や陰線処理をした後で寸法付けを行った場合、部分線種や陰線処理が元の状態に戻ってしまう。

【対応】

パーツ自身の更新を行わないで、寸法だけを付けるように修正しました。

3.10.27 パーツサイズ変更でパーツアイテムの属性が変わる

【レポート番号】 B19022 【発生】 当初から 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 PSIZE

【現象】

パーツをサイズ変更すると、パーツアイテムのレビジョンが変わってしまう。

【対応】

パーツサイズ変更は、変更後のパーツを新たに作成し、変更前のパーツを削除します。変更後のパーツを作成するときに、クラスは変更前のパーツから受け継いでいますが、その他の属性は現在値で作成していました。クラス、レビジョン、線種、線幅を変更前のパーツから受け継ぐように修正しました。

【同時設計】**3.10.28 同時設計のメンバー追加で最低アイテム数を変更できない**

【レポート番号】 B18038 【発生】 15.00 【修正】 18.01

【コマンド】 TON_ADD

【現象】

同時設計作業でのメンバー追加で最低アイテム数を変更すると、最低アイテム数ではなく、参照するピクチャ番号が変わってしまう。

【対応】

修正しました。

3.10.29 同時設計でメンバー変換できない

【レポート番号】 B18044 【発生】 15.00 【修正】 18.02

【コマンド】 TON_APD

【現象】

同時設計のメンバー変換で、新メンバーを作成する場合および既存メンバーを更新する場合に“モデルピクチャ中にアイテムが存在する...”とメッセージが表示されてメンバー変換できないことがある。

【対応】

修正しました。

3.10.30 メッセージが途中で切捨てられる

【レポート番号】 B18268 【発生】 当初から 【修正】 18.16

【コマンド】 マクロ関数 mecho()

【現象】

マクロ関数 mecho() で、ゾーン #7、3行1列目にメッセージを表示すると、メッセージが途中で切り捨てられてしまう。

【対応】

修正しました。

3.10.31 マクロ関数 msym で表示されない要素がある

【レポート番号】 B20083 【発生】 19.00 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 マクロ関数 msym

【現象】

マクロ関数 msym でのシンボル形状が、表示マスクの影響を受けて一部の要素が表示されないことがある。

【対応】

V18 までと同様に、表示マスクの影響を受けないように修正しました。

3.10.32 マクロ関数 シンボルの表示位置が正しくない

【レポート番号】 B20114 **【発生】** V18.18、V19.03 **【修正】** acad19.15 acad20.08

【コマンド】 マクロ関数 msym()

【現象】

V18.18、V19.03 で、縦横比率を維持しないリサイズ／最大化を実装しました。
初期画面と縦横比率が一致しない場合にこの現象が発生します。

【対応】

修正しました。

3.10.33 マクロ関数 テンポラリウインドウ領域が正しくない

【レポート番号】 B20115 **【発生】** 当初から **【修正】** acad19.15 acad20.08

【コマンド】 マクロ関数 mopen()

【現象】

マクロ関数 mopen() で、テンポラリウインドウ領域を指定するとデフォルトのテンポラリウインドウ領域も mopen() で指定された領域になってしまう。

【対応】

mclose() が呼ばれたときに、デフォルトのテンポラリウインドウ領域を初期値に戻すように修正しました。

3.11 システム管理者向けの機能

【書体の作成】

3.11.1 英数字ストロークフォントの文字幅が一致していない

【レポート番号】 B17079 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【コマンド】 -

【現象】

英数書体番号2の文字幅は48グリッド固定になっているが48グリッドを超えている文字がある。また要素分解を行うと長さ0の直線ができてしまう。

【対応】

書体番号2の英数字ストロークフォントファイル TXTFONT02.ORG の字形定義を以下のように修正しました。

- ・文字 A、E、K
文字幅が48グリッドを超えていました。48グリッドに納まるように修正しました。
- ・文字 A、U
長さ0の線が定義されていました。長さ0の線を削除しました。

【フォントユーティリティ】

3.11.2 マーク形状作成で共通データファイルが読み込めない

【レポート番号】 B18227 【発生】 18.00 【修正】 18.13

【コマンド】 fontutil.exe

【現象】

fontutil.exe でマーク形状を追加するときに、Advance CAD バージョン 18.10 で作成した共通データファイルを読み込もうとすると「ファイルバージョンが不正です」となり、形状が読み込めない。

【対応】

Advance CAD バージョン 18 からの共通データファイルバージョン 9.0 に対応していませんでした。共通データファイルバージョン 9.0 も読み込めるように修正しました。

3.11.3 PIF 関数 gmsptcrv でアイテムが分割できない

【レポート番号】 B20094 【発生】 19.00 【修正】 19.14、20.07

【コマンド】 PIF 関数 gmsptcrv()

【現象】

プログラミングインターフェース関数 gmsptcrv() でアイテムが分割できない。

【対応】

修正しました。

3.12 オプションソフト

【P & I D】

3.12.1 P&ID: コマンドを選択すると異常終了する

【レポート番号】 B20110 【発生】 19.12 【修正】 19.15

【現象】

コマンドを選択すると異常終了する。

【対応】

修正しました。

3.12.2 P&ID: シンボルがハイライト表示されない

【レポート番号】 B20112 【発生】 19.12 【修正】 19.15

【現象】

シンボルをベリファイしたときに、ノード点がハイライト表示されない。

【対応】

修正しました。

【CADAM 変換】

3.12.3 CADAMDB/WRITE_x, CADAMDB/READ_x : 累進寸法線が正しく変換されない

【レポート番号】 B18010 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【現象】

- ・累進寸法線の寸法線が正しく変換されない。
- ・累進寸法線の寸法値の位置がずれる。
- ・累進寸法を出力して読込むと寸法線がはみ出す。

【原因】

書込み

- ・累進寸法線の寸法線の変換に不具合がありました。
- ・累進寸法線の寸法値の配置位置の変換に不具合がありました。
- ・水平・垂直な累進寸法のみを累進寸法線として変換しています。
その他は長さ寸法線に変換しています。

読込み

長さ寸法線では寸法値のはみ出し分寸法線を延長する処理をしています。

【対応】

- ・修正しました。
- ・修正しました。
- ・長さ寸法線で寸法線に対し寸法値が90度の傾きを持つ場合は寸法線の延長処理をしないようにしました。

3.12.4 CADAMDB/READX : グループ名が35個しか表示されない

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.12

【現象】

サブウィンドウモードでグループ名が35個しか表示されない。
グループ名、ユーザ名のスクロール表示がされていませんでした。

【対応】

スクロールして表示するようにしました。(最大数は10,000)
ダイアログモードのグループ名・ユーザ名の最大数を128から512に拡張しました。

3.12.5 CADAMDB/READM : MCADAM の DOS ファイル読み込み時強制終了する

【レポート番号】B20095【発生】当初から【修正】19.14、20.07

【現象】

MCADAM(DOS ファイル)→ADVANCECAD (MDL ファイル)へ変換を行った結果、変換できるデータとできないデータがある。変換できないデータの場合、acad.EXEが「強制終了」する。

【対応】

インデックス番号のデータ所在を正しく認識できるよう修正しました。

3.12.6 CADAMDB/READM : MCADAM 読み込み時に折れ線スプラインに不要な線が追加される

【レポート番号】B20104【発生】以前から【修正】19.14、20.07

【現象】

MCADAM の DOS ファイル読み込み時、折れ線スプラインに不要な線が追加される。

【対応】

不要な線が追加される不具合を修正しました

3.12.7 CADAMDB/READM : MCADAM 読み込み時にオフセットされた楕円が全円化する

【レポート番号】B20105【発生】以前から【修正】19.14、20.07

【現象】

MCADAM の DOS ファイル読み込み時にオフセットされた楕円が全円化する。

【対応】

元の曲線の部分線種を保持し、全円化しないよう修正しました。

3.12.8 CADAMDB/WRITEM : 複合アイテムをディットに変換を選択するとエラーになる

【レポート番号】 なし **【発生】** 当初から **【修正】** 18.12

【現象】

出力バージョンが Ver 2.xx で変換パラメータの複合アイテムをディット（子図）に変換を選択するとエラーになる。

【対応】

修正しました。

3.12.9 CADAMDB/WRITEX : グループ名が35個しか表示されない

【レポート番号】 なし **【発生】** 当初から **【修正】** 18.12

【現象】

サブウィンドウモードでグループ名が35個しか表示されない。

【対応】

グループ名、ユーザ名のスクロール表示がされていませんでした。スクロールして表示するようにしました。（最大数は10,000）

3.12.10 CADAMDB/ORIGIN : スケーリングが正しく調整されない

【レポート番号】 B20116 **【発生】** 当初から **【修正】** acad19.15 acad20.08

【現象】

副座標コマンド (CADAM/ORIGIN) において、ピクチャ縮尺の異なる場合に注記のスケージングが正しく調整されない。

【対応】

注記に適用されるスケージング値を修正しました

【DXF 変換】【DWG 変換】**3.12.11 DWG/READ : 読み込みでエラーが発生する**

【レポート番号】なし【発生】当初から【修正】18.01

【現象】

読み込みでエラーが発生する。

【原因】

DwgIO.exe のパス名に空白がある場合の処理に不具合がありました。

【対応】

修正しました。

3.12.12 DXF/READ : DXF 読み込みで ELLIPSE パラメータがエラーになる

【レポート番号】B18004【発生】当初から【修正】19.00

【現象】

DXF 読み込みで変換パラメータファイルの ELLIPSE パラメータがエラーとなる。

【原因】

ELLIPSE パラメータは DXF 読み込みの DXFACAD_PARAM.COD のパラメータではなく DXF 書き込みの ACADDXF_PARAM.COD のパラメータです。
マニュアルの記述が間違えていました。

【対応】

マニュアルを修正しました。

3.12.13 DXF/WRITE : ルートディレクトリに書込もうとすると異常終了する

【レポート番号】B18007【発生】当初から【修正】18.01

【現象】

ダイアログモードの DXF 書き込みでドライブのルートディレクトリに書込みを行おうとすると Advance CAD が異常終了する。

【対応】

修正しました。

3.12.14 DXF/WRITE : 出力した DXF ファイルが Auto CAD 2007 で読み込めない

【レポート番号】B18022【発生】当初から【修正】18.01

【現象】

出力した DXF ファイルが AutoCAD2007 で読み込めない。

【原因】

出力した DXF ファイルにレイアウト情報がないため。

【対応】

空のレイアウト情報を出力するようにしました。

備考)

- ・出力をページ指定で行った場合は問題ありません。
- ・DWG 出力の場合は問題ありません。

3.12.15 DXF/READ : 寸法線の文字間隔がおかしくなる

【レポート番号】 B18023 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【現象】

入力データの倍率が 1.0 以外の場合寸法線の文字間隔がおかしくなる。

【対応】

修正しました。

3.12.16 DXF/READ : スプラインでの円表示にゆがみが生じ中心点を作成できない

【レポート番号】 B20075 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【現象】

DWG (DXF) ファイルの読み込みにおいて、スプラインで描かれた円にゆがみが生じ、中心点を作成できない。

【対応】

DXFACAD_PARAM.COD の SPLINE に -1 を設け、SPLINE が -1 の場合には DXF(DWG) のスプラインを分割せずにそのまま読み込むよう処理を修正しました。

3.12.17 DXF/READ : サブモデル書込み時に最後の自由曲線がブロックに収まらない

【レポート番号】 B20076 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【現象】

DWG (DXF) ファイルの書込みにおいて、サブモデルの書込みを行った場合に限り、最後の自由曲線がブロック要素に収まらない。

【対応】

ブロック要素の出力時に最後の自由曲線を含めるよう修正しました。

3.12.18 DXF/READ : スプライン書込み時に制御点が多くなる

【レポート番号】 B20077 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【現象】

DWG (DXF) ファイルの書込みにおいて、スプラインの書込み時に制御点が多くなる。

【対応】

修正しました。

3.12.19 DXF/WRITE, DWG/WRITE : シンボルのブロック出力時に異常終了する

【レポート番号】 B20081 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【現象】

DWG (DXF) ファイルの書込みにおいて、シンボルのブロック出力時に異常終了する。
シンボルファイルが存在し、変換パラメータの変換方法をシンボル名使用に設定した場合に発生。

【対応】

変換パラメータの変換方法：シンボル名使用はブロックデータに変換する場合にのみ機能するよう修正しました。またシンボル名使用でブロックデータに変換する場合に、ピクチャ縮尺に合わせてテキストを配置するよう修正しました。

3.12.20 DXF/WRITE, DWG/WRITE : 塗潰しのブロック出力時、DXF 定義に誤りがある

【レポート番号】 B20082 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【現象】

DWG (DXF) ファイルの書込みにおける塗潰しのブロック出力時、DXF 定義に誤りがある。
その結果、DXF ファイルを開くことができない又は DWG ファイルが出力されない。

【対応】

ハッチングの境界パスの スプラインエッジデータとして定義されるべきグループコード 97(フィットデータ数の設定に使用)を追加しました。

3.12.21 DXF/WRITE, DWG/WRITE : ハッチングの出力時、DXF が AutoCAD で開けない場合がある

【レポート番号】 B20084 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【現象】

DWG (DXF) ファイルの書込みにおけるハッチングの出力時、DWG が作成されない又は DXF が AutoCAD で開けない場合がある。

【対応】

ACADDXF_PARAM.COD にパラメータ HATCH_47, HATCH_92 を設け、設定値によってハッチングの出力方式を以下の通り変更可能としました。

HATCH_47 n

n=1: ハッチングのピクセルサイズ (グループコード 47) に 0.322189 を定義します。(既定値)

n=0: ハッチングのピクセルサイズ (グループコード 47) は定義しません。

注) ハッチングの [島検出方法] で [フラッド] を使用して作成された自動調整ハッチングおよびハッチングに関するハッチングパターンの計算において、さまざまな交点操作やレイキャスティング操作を行うための密度を決定するのに使用されます。

HATCH_92 n

n: ハッチングの境界パスタイプフラグ (グループコード 92) をビットコードで指定します。(既定値: 5)

0: 既定、1: 外部、2: ポリライン、4: 派生、8: 文字ボックス、16: 最も外側
注) 上記の値範囲は 0 ~ 31 ですが、32 までの設定が可能です。

3.12.22 DXF/WRITE, DWG/WRITE : 直線状の自由曲線が制御点の多いポリラインになる

【レポート番号】 B20085 【発生】 当初から 【修正】 19.14

【現象】

DWG (DXF) ファイルの書込みにおいて、直線状の自由曲線が制御点の多いポリラインになる。

【対応】

自由曲線がポリラインとして出力される場合に、設定パラメータ 自由曲線の分割数 が適用されないよう修正しました。

3.12.23 DXF/WRITE, DWG/WRITE : スtringを図形要素に展開すると、DXF が AutoCAD で開けない

【レポート番号】 B20086 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【現象】

DWG (DXF) ファイルの書込みにおいて、Stringを図形要素に展開すると、DXF が AutoCAD で開けない。

【対応】

直線状の自由曲線がポリラインとなる場合に、設定パラメータ String が図形要素に展開に設定されていた場合にのみ発生。直線の DXF 定義の誤りを修正しました。

3.12.24 DXF/WRITE, DWG/WRITE : DXF(DWG) 書込み時にマークなしリファレンスノートの文字が変換されない

【レポート番号】 B20096 【発生】 当初から 【修正】 19.14、20.07

【現象】

DXF(DWG) 書込み時にマークが削除されたリファレンスノートの文字列が変換されない。

【対応】

ACADDXF_PARAM.COD にパラメータ UNMARKBALLOON_TEXT を設け、設定値によってマークが削除されたリファレンスノートの文字列出力を選択できるよう修正しました。

UNMARKBALLOON_TEXT n
n = 1: 文字列を出力します。(既定値)
n = 0: 文字列を出力しません。

3.12.25 DXF/WRITE, DWG/WRITE : ファイル名に [] が使えない

【レポート番号】 B18035 【発生】 当初から 【修正】 18.01

【現象】

一括変換の時出力ファイル名に "[]" を入力すると
"ファイル名に無効な文字があります" とエラーとなる。

【対応】

出力ファイル名に "[]" が使えるように修正しました。

3.12.26 DXF/READ, DWG/READ : 一括変換時ファイル名の一覧が表示されなくなる

【レポート番号】 B18043 【発生】 17.06 【修正】 18.02

【現象】

- ① [DXF 読み込み] 押す。
- ② [一括変換] 押す。
- ③ * 入力。 (ファイル名の一覧が表示)
- ④ キャンセルキー (F1) を押す。
- ⑤ 再度①～③の操作を行うとファイル名一覧は表示されない。

【原因】

キャンセルキー (F1) でコマンドが終了した場合の処理に不具合がありました。

【対応】

修正しました。

3.12.27 DXF/WRITE, DWG/WRITE : 図枠の倍率等が他のページのものの変換される

【レポート番号】 B18054 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【現象】

ページ番号指定で DXF 書き込みを行ったとき図面タイトルに
表示されるページ番号がに正しくない数字が変換される。

【対応】

正しい数字が変換されるように修正しました。

3.12.28 DXF/WRITE, DWG/WRITE : 色番号 256 を指定するとエラーになる

【レポート番号】 なし 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【現象】

色変換テーブルで色番号 256 を指定するとエラーになる。

【対応】

修正しました。

3.12.29 DXF/READ, DWG/READ : 一括変換でパスを指定すると変換できない

【レポート番号】なし 【発生】当初から 【修正】18.02

【現象】

一括変換でパスを指定すると変換できない。

【対応】

修正しました。

3.12.30 DWG/READ : φの文字が?になる

【レポート番号】なし 【発生】17.10 【修正】18.12

【現象】

φの文字が?になる。

【原因】

ユニコード 2205(Hex) の変換に不具合がありました。

【対応】

修正しました。

3.12.31 DWG/READ : 大半径寸法線が変換されない

【レポート番号】なし 【発生】当初から 【修正】18.12

【現象】

大半径寸法線が変換されない。

【対応】

Advance CAD には該当するアイテムがないため
複合アイテムに変換するようにしました。

3.12.32 DXF/READ : 文字間隔の設定が有効にならない

【レポート番号】なし 【発生】当初から 【修正】18.13

【現象】

文字間隔の設定が有効にならない。

【原因】

スタイル名が漢字のときに不具合がありました。

【対応】

修正しました。

3.12.33 DXF/READ, DXF/WRITE : ファイルオープンでエラーが発生しました

【レポート番号】なし 【発生】当初から 【修正】18.13

【現象】

#DXF:WORK# のディレクトリがない又は書込み権がない場合変換でエラーとなる。

【対応】

メッセージ "ファイルオープンでエラーが発生しました" を
"#DXF:WORK# のディレクトリが存在しないか又は書込み権がありません。" に
修正しました。

【ACADWorks】**3.12.34 SolidWorks へのスケッチ転送で精度落ち (Windows 版)**

【レポート番号】 B18140 【発生】 当初から 【修正】 18.10

【コマンド】 SWAT/SKETCH

【現象】

SolidWorks にスケッチ転送した場合、図形精度に微妙な誤差が生じる。

【対応】

修正しました。

3.12.35 Advance CAD への図形転送でアイテム落ち (Windows 版)

【レポート番号】 B18147 【発生】 17.00 【修正】 18.10

【コマンド】 SWAT/DREAD

【現象】

SolidWorks から Advance CAD への図形転送で、非表示の中心線があると、アイテム落ちする
場合がある。

【対応】

修正しました。

3.12.36 Advance CAD への図形転送でスプラインの形状が不正 (Windows 版)

【レポート番号】 B19001 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 SWAT/DREAD

【現象】

SolidWorks から Advance CAD への図形転送で、スプラインの形状が正しく転送されない場合が
ある。

【対応】

SolidWorks から Advance CAD に転送された点列に重複点がある場合の処理に誤りがありまし
た。修正しました。

3.12.37 ACADWorks 設定ツールでパス名が不正 (Windows 版)

【レポート番号】 B18212 【発生】 当初から 【修正】 18.12

【コマンド】 swatSetup.exe

【現象】

ACADWorks のセットアップツールで、Advance CAD のパス設定欄に不必要な文字が設定されてしまう。

【対応】

当初からの不具合でしたが、Windows Vista で顕在化しました。修正しました。

【NC】

3.12.38 ワイヤ放電機能が正しく動作しない

【レポート番号】 B18174 【発生】 15.00 【修正】 18.12

【コマンド】 NCEPROP1、NCEPROP2、NCEPROP3、NCEPROP5、NCEPROP6、NCEPROP7、NCEPROP8、NCECORELESS

【現象】

ワイヤ放電機能で、設定 (NCPSET)、変更 (NCPMOD)、参照 (NCPVER)、消去 (NCPDEL) 確認 (NCCONFIRM) が正しく動作しない。

【対応】

修正しました。

3.12.39 干渉チェックでアイテムが選択できない

【レポート番号】 B18177 【発生】 15.00 【修正】 18.12

【コマンド】 NCCHKIFC

【現象】

干渉チェックでアイテムが選択できない。

【対応】

修正しました。

3.12.40 ワイヤ放電機能が正しく動作しない (ワイヤ放電機能)

【レポート番号】 B20089 【発生】 19.00 【修正】 19.14、20.07

【現象】

ワイヤ放電加工が正しく動作しない。

【対応】

修正しました。

索引

#CURCCDMEMB	10		
#CURCCDNAME	10		
#CURCMDNAME	11		
#CURMDLVER	11		
#VERBOXMOD	13		
#VERJSTHOR	13		
#VERSPOCHOR	13		
#VERSPCVRT	13		
#VERTXTORI	13		
A			
ACAD.SET	104		
ACT	8		
ACT/AUTO	8		
AFL	8		
AFL/MOD	8		
ALF/REL	8		
ap_HPGL	53,	54	
ARY	8		
ASC_ADD	8		
ASC_BRK	8		
ASC_CNG	8		
ASC_DEL	8		
ASC_MOD	8		
ASC_MOVE	8		
ASC_NEW	8		
ASC_REL	8		
ASC_VER	8		
ATR/MOD	8,	16,	17
B			
Blade	1		
BLANK	8		
BLANK/SWITCH	20		
C			
CLA/PICTTL	66		
CLIP_OUTL	8,	29	
CLIPPER	8,	29	
CLIP_PLY	8,	29	
CLS	16		
CLS/MOD	8,	16,	17
COMMON/READ	96		
COMMON/WRITE	96		
COMP	8		
COMP/REL	8		
CONS/READ	105		
CONS/WRITE	105		
COPY	8		
CTRM	8,	28	
CTRM/PP	8,	28	
CUT_MOVE	50		
D			
dbchgd	98		
DEL	8,	13	
DIM/AUTO	8		
DIM/MOVE	20		
DIM/STUB	63		
DLO/ITM	67		
DRAG	8,	48	
DRF/EDIT	8,	36,	37
DTEXST/DENIAL	34		
DTEXT/DENIAL	34		
DTEXT/MOVE	32		
E			
EXPAND	8,	49	
F			
FIG/COUNT	61		
G			
gmfil02	111		
gmItn02	111		
gmPin02	111		
gmpon02	111		
gmuctn3g	111		
H			
HCOPY	52		
I			
IDENTINFO	112		
IdentItem	112		
IdentItems	114		
IMOVE	48		
IMOVE/HOR	48		
IMOVE/VRT	48		
ISO	8		
ITMIMAGE	111		
J			
JPEG	5		
L			
LADV	26		
LFT	16		
LFT/CLA	17		
LFT/MOD	8,	16,	17
Linux 版	2		
LPL	8		
LPLS	8		
LTOL	33		
LWT	16		
LWT/CLA	17		
LWT/MOD	8,	16,	17
M			
MDL/LSTOUT	60		
MdIread	111		
MdIread1	111		
MdIrlpic	111		
MdIwrite	111		
MDRAG	8		

索引

MIRROR	8		
MODEL/DSP	40,	41	
mopen	96		
MOVE	8,	48	
MOVE/HOR	8,	48	
MOVE/VRT	8,	48	
msym	97		
MTOUCH	8		
MTRM	8		
MTRM/G	8		
MTRM/P	8		
MTRM/PP	8		
O			
OCF 検定	3		
OFFSET	8		
OFFSET/MULT	8		
OFFSET/SEG	8		
OUTLINE	8		
P			
PIC	23,	51	
PNUM/DSP	15		
P-number-form	53		
P-number-size	53		
PURGE	26,	27	
Q			
QPLOT	52		
R			
RARY	8		
RARY/ROT	8		
RAS/ADD	55		
RAS/PRM	55,	56	
RAS/REL	58		
RDRAG	8		
REG	10,	11	
REG/VER	12		
REV	16		
REV/MOD	8,	16,	17
ROTATE	8		
RPT/OFF	97		
RPT/ONN	97		
RTOUCH	8		
RVP/CLSNAME	65		
RVP/DRWNAME	65		
RVP/LFTNAME	65		
RVP/PICNAME	65		
RVP/PICCTL	66		
RVP/PZV	65		
RVP/REVNAME	65		
RVP/SCF	65		
RVP/SLONAME	65		
S			
SITIMAGE	111		
SLO	21		
SLO/PICLST	22		
SLO/REL	21		
Solaris 版	1		
T			
STRETCH	8		
SUB	38,	42,	
49,	63		
SUB/BRK	8		
SUB/DSP	40		
SUB/LST	39		
SUB/ULS	43,	44	
SUB/UPD	8,	42	
Subput	111		
Sun Studio	1		
SWAT/DREAD	110		
SXF	3		
SXF/CNT	79		
SXF/HATCH_DEF	82		
SXF/LAY	79		
SXF/LIST	90		
SXF/MOVE	81		
SXF/PAN	84		
SXF/PRINT	93		
SXF/READ	68,	75,	
108,	109		
SXF/RPT	83		
SXF/SEQUENCE	82		
SXF/SFIG_DEL	90		
SXF/SFIG_EDT	89		
SXF/SFIG_GEN	87		
SXF/SFIG_REF	85		
SXF/VER	93		
SXF/WRITE	68,	108,	
109			
SXF/ZOOM	83		
SXF/ZOOMALL	84		
SXF/ZOOMALLVIE	84		
SXF/ZOOMDOWN	84		
SXF/ZOOMUP	84		
SXFCOPY/PRINT	94		
SYM	38,	49	
SYM/BRK	8		
SYM/DSP	40		
SYM/LST	39,	40	
SYM/UPD	8		
SymGen1	111		
U			
TEXT/BOX	34		
TEXT/DENIAL	34		
TEXT/DENTAL	34		
TEXT/DOUBLE	35,	36	
TEXT/SIZE	62		
TON_CALL	10		
TON_MDL_READ	10		
TON_START	10		
TRM	8		
TRM/G	8		
TRM/P	8		
TRM/PP	8		
TRM/SEQ	8		
True Color	1		
U			
ULTOL	33		
Ultra	1		

UNBLANK 8
UTOL 33

V

VER 12, 24
VER/CNR 24
VER/SEG 24
VIE 51
Visual C++ 2008 1

W

WCP/COPY 8
WCP/CUT 8
WCP/PASTE 49
WIN 51
Windows 版 1

X

XHT 8
XHT/MOD 8
XHT/REL 8
XVR 1

Z

ZOOM/ALLB 14
ZOOM/DOWNB 14
ZOOM/UPB 14

